卷下

人物大觀

下編

人物目次

（A・B・C順）

Aの部

安部島眞明……三四
安達正倖……七五
赤星見壽……三一
福本福一……七六
福永秀一……三六
福永是一……七七
福永勝一……三六

下編 人物目次

（A・B・C順）

Aの部

安部島眞明……二四
安達正倖……七五
赤星見壽……三一
赤澤二一……七五
秋田法隆……二四
秋山政一……七五
天野宗圓……二四
安藤要助……二五
荒田品藏……七五
有光正孝……七五
朝倉岩吉……七六
淺海庄一……一九
淺野孝之……三三
蘆野正……二三
朝比奈梅吉……二三

Bの部

伴敬三……七六
別井竹次……七六

Dの部

大師德三……七六
出目常宣……三五
出羽五十人……一五
出羽一人……三五
土井祐太郎……三五
土井來助……三五
出川廉……九五

Eの部

榮久庵鐵念……三五

Fの部

福間豐吉……二
藤井順一……六
福田闡正……二四
福田第一郎……三六
福喜多靖之助……三二
福本福一……七六
福永秀一……三六
福永是一……七七
福永勝一……三六
古川茂生……三六
古川章……三七
古川作太郎……七七
古野保……二四
古屋熊次……二四
古屋理一郎……三七
藤花教道……三七
藤川壽郎……三二
藤川春喜……七六
藤本伊作……一三
藤岡文八……七六
藤田定一……七六
藤田卯一……七六
藤谷晃道……三七
藤生宗劍……三八

Gの部

後藤萬吉……一八
後藤吉吾……七七
後藤鎭平……三八
後藤清次郎……三九
後藤德右衛門……三九
合志實行……三八

Hの部

畑貞之助……一三
畑與一……一三
芳賀七郎……三九
八景留八……七八
濱田勘吾……三九
濱岡敎一……三九
濱岡初枝……七八
濱村政信……四〇
原田常太郎……三八

原田清……一
原田養海……一
原田信太郎……一
原田三郎……一
林吾市……一
林春明……一
林久七……一
林三郎……一
林利吉……一
林千里……一
林田周一……一
半澤太郎……一
半澤徹治……一
橋本萬槌……一
橋本喜代一……一
橋本敬三……一
橋本伊三吉……一
檜山錦光……一
日野秀瑞……一
平山福平……一
平山眞靜……一
廣澤蓮城……一
弘津益太郎……一
蛭谷孫太郎……一
本田榮作……一
本田政亥……一
堀内貞平……一
堀田音藏……一
星野利吉……一

井芹虎雄……一
井上協平……一
今藤信一……一
一本杉隆一……一
井田平……一
磯嶋九之助……一
磯嶋武夫……一
石丸誓祐……一
石村德七……一
石郷猪之吉……一
伊勢本久人……一
伊藤長一……一
板倉健……一
岩井一雄……一
岸佐新藏……一
岩永健……一
和泉和一郎……一
泉貞生……一
今野一郎……一

入江京一……一
飯田鴻一……一
飯田松吉……一
一場正動……一
市川潔二……一
池上吉太郎……一
池田藤一郎……一
池野正男……一
今井友三……一
今村重太郎……一
今井寬猛……一
今井諺全……一
今井虎雄……一
伊藤信平……一
一本杉隆一……一
井田平……一
磯嶋九之助……一
磯嶋武夫……一
石丸誓祐……一
石村德七……一
石郷猪之吉……一
伊勢本久人……一
伊藤長一……一
板倉健……一
岩井一雄……一
岸佐新藏……一
岩永健……一
和泉和一郎……一
泉貞生……一
今野一郎……一

羽義教……二
口駒形善敎……二
河本勝一……二
香川武雄……二
柏龍天……二
鹿毛一男……二
加里本桂想……二
神田竹太郎……二
神岡松太郎……二
念一……二
笠本貞一……二
冠桐政利……二
片上正三……二
川村照道……二
河村重博……二
河村啓太郎……二
河野喜好……二
河野一幸……二
河上吉太郎……二
川崎正鄕……二
川崎三藏……二
川崎寅雄……二
川崎喜代藏……二
川添善市……二
川端勇……二
茅原長助……二

町田龍助……四
前田勘司……四
前原賢三……四
前原禎一郎……四
前山凜司……四
眞子金藏……四
横島靜……四
金城珍榮……四
木下梅市……四
木下白夫……四
木村秀二……四
木村壽喜……四
木村秋雄……四
地智旭……四
間宮敏雄……五
桝尾德二……五
城戸千代一……五
勝木市太郎……五
久慈月昇……五
眞下龍平……五

菊地智旭……四七
木村秋雄……九四
木村寅喜……八
木村秀二……四七
木下白夫……四八
木下梅市……四八
金城珍榮……四一
城戸千代一……八二
勝木市太郎……九四
久慈月昇……四八
岸田英一……八
北川磯次郎……一二
北島頁雄……四八
勝沼冨造……四九
兒玉令一……八二
小林政一……四九
小林元一……二五
小池美男……四九
小泉源作……四九
小島定吉……五〇
小島彦治……五〇
古明地利輔……五〇
米屋三代槌……一〇
今野一郎……二八
久保田佐一郎……二三
久保田賢道……四四
久島泉……八三
鞍掛寅市……四四
熊戸政照……四五
國村杏輔……四五
黒川哲爾……二六
草尾雄五郎……四五
草岡信次郎……四五
桑原群一……四五

Mの部

本重和助……三
牧野金三郎……一六
宮城武夫……二五
又吉全興……三二
松平融……二六
毛利伊賀……一〇
宮崎匪石……一一
眞野重太郎……八三
町田龍助……四五
前田勘司……五〇
前原賢三……八三
前原禎一郎……五一
前山凛司……五一
眞子金藏……五一
槇島靜……五一
間宮敏雄……五一
桝尾德二……五一
眞下龍平……五二
三上修治……三三
宮王重丸……二六
松田了……八三
松田隆彦……五二
松田猪七……五二
松井登太郎……一七
松村正人……五二
松村友次……八三
松本正彦……三一
松坂茂……二九
正木知足……五三
光森政登……八三
御旗義登……五三
三上運海……五三
三宅昇……五三
宮城源永……五三
宮本文哲……五四
宮本庄次郎……八四
宮田喬一……一六
宮里武太……八四
宮崎寅吉……八四
水田隆一……八四
森藤定人……二一
森村一二……五四
森田由一……八四
毛利元一……二四
毛利典欖……五四
毛利忠弘……五四
諸橋宏……二三
守川政雄……八四
村上清一……五四
村上實……八四
村丸馬太郎……五五
村田龍一……五五
光安清次郎……八三
宮本友幸……八四

Nの部

西島榮次郎……一六
西ヶ谷政吉……三四
中野教一……一八
濃人鍬一……二八
永見俊一……八五
名護忍亮……五五
中井佐次郎……五五
中原峯藏……八五
中原信之丞……八五
中村源作……九五
中澤重友……九六
中村政通……九三
中村辰一……三二
中村龜輔……八六
中丸要……八六
中野政一……八六
中野房次郎……八六
中野進……九七
中尾茂造……八六
永井秀男……八五
長尾光章……九四
長澤周吉……八五
猫本俊一……二九
二井勘次郎……五六
二井兼一……五六
仁井見得一……三一
二木武夫……五六
西力……五六
野村進……一三
丹生實榮……二六

Oの部

奥村多喜衛……九
小野義人……二三
小田純二……二〇
大館誓……五七
大江法爾……二七
織田博愛……五七
小田顯三……八六
大藤忠……五七
緒方清四郎……一七
緒方數彥……五七
緒方元藤……八七
緒方熊市……八六
小幡宗一……三七
小原直喜……五八
大濱太……五八
大畑誠一……五八
大谷松次郎……三四
大角寅吉……八八
大久保源一……八八
太田達一……八九
大牟禮與八郎……三四
大内民惠……八九
及川德司……八七
及川カツヨ……八七
岡田春人……八七
大空與作……六〇
小野寺德治……九六
岡田勝……八七
岡崎清四郎……五八
岡村重一……五九
岡本讃則……二七
冲石勇……五九
沖野留吉……五九
奥本義見……五九
奥村寅次……八八
大久保長吉……八八
大岡寛……八八
大西譽……六〇
尾上久二……八八
尾崎澤二郎……六〇
小野藤三郎……八七
小澤義淨……六〇
大塚末吉……八八
太田邦雄……六一

Sの部

住田多次郎……四
住田代藏……五
相賀安太郎……一五
相賀誠子……一六
相賀重雄……一五
佐藤太一……七
志保澤忠三郎……二
曾我部四郎……六四

曾川政男……六五
三枝欽三……二六
三枝四郎……九七
佐伯彌樂……六一
佐伯隆一……三三
佐伯一三……六一
佐山學順……八九
坂井嘉作……八九
榊原爲一……六一
笹井貞三……六二
作本千里……八九
佐々木芳信……八
佐々木義一……九七
佐藤一郎……六二
佐藤郁三……六二
崎水流厚雄……八九
澤村作一……八九
仙田壽之吉……八九
關屋吉太郎……一九
關屋長次郎……二六
澁川大嶺……六二
清水文之助……三三
清水觀碩……九〇
志田俊三……六二
重國愛輔……九〇
柴山佳四郎……九〇
進藤卓爾……六二
新庄武雄……九七
篠田政一郎……六三
下田半次郎……六三
下川範三……六三
下村米作……九〇
島本清一……六三
島村佳德……六四
袖澗仙吉……九〇
阪口利男……九三
宗我部幸……六四
室中光太郎……六五
須內一信……六五
杉田定吉……九〇
菅村芳弘……六五
菅原常松……九〇
齋藤恭平……九四
菅野鐵次……八二

Tの部

高橋德衛……一九
龍溪玄深……一七
武智直道……三二
田畑多郎……九〇
田原治久馬……二八
田原弘……六五
田島朝明……六五
田阪聞政……二八
田添龍壽……六九
田中ハル……六九
田代學……六八
立川冴子……六五
高野市平……九一
高桑周次郎……二一
高倉秀夫……九一
高西一一……九一
竹井時次……六九
武居熱血……九七
德成信二……二二
高無萬之助……五〇
豐川忠逸……九三
竹原寅之進……九一
竹間多喜司……七〇
竹森達二……六九
瀧谷勘一……六七
龍口五氣……六九
谷川圓藏……六八
谷川勝美……七〇
寺河內宇作……二六
寺崎定助……二一
寺田安太郎……三一
時岡政幸……七〇
東福寺子四郎……六六
東福寺香……六七
東海林甚七……一七
研岡節吾……六八
當山哲夫……二五
豐田法順……六七
豐福初太郎……六八
鳥取密明……六六
豐平良金……九一
十時竹次郎……六七
辻德一……七〇

小野義人……二三
小田純二……二〇
大館誓……五七
大江法爾……二七
織田博愛……五七
小田顯三……八六
大藤忠……五七
緒方清四郎……一七
住田多次郎……四
住田代藏……五
相賀安太郎……一五
相賀誠子……一六
相賀重雄……一五
佐藤太一……七
志保澤忠三郎……二
曾我部四郎……六四

Uの部

上田元一……一七
上原吉興……一七
上原征生……一七
上原徳一……一七
植田政市……一七
氏木政次郎……一七
宇野雅雄……一七
浦田不二夫……一九

Wの部

渡辺七郎……一七
脇本勝一……一七
渡辺九一……一七
渡辺又市……一七
渡辺彌吉……一七
若尾朝吉……一七
和田隆……一七
若山喜代松……一九

Yの部

山本清三……一四
山城松太郎……一四
山崎恒四郎……一四
山口七藏……一四
山田政雄……一四
山本尚美……一四
山本昌作……一四
山本一行……一四
山名若松……一四
山根梧一……一四
山根宇一……一四
山城正義……一四
山城秀正……一四
山本常一……一四
山下義之……一四
山上信行……一四
柳下慈明……一四
矢野唯雄……一三
安田嘉代治……一九
安森勝太郎……一九
安井柳太郎……一九
安里助……一九
安屋輔喜三郎……一九
依田吉甫……一九
吉増新次郎……一九
吉増正之……一九
吉本増英……一九
吉武藏清……一九
吉永信……一九
吉野直芳……一九
吉住浩嚴……一九
吉村英二……一九

京都　大村廣陽氏作
——農夫——

大日本移住民史＝第一編＝布哇

（下卷）＝人物大觀＝

文化の消長、事業の盛衰、其他百般の事相は、その時代の人物誌を一瞥すれば、則ち容易に之を理解することが出來る。故に人物誌は、本書の如きには最も重要な役割を有つてゐる。特に布哇に於ける同胞の如き、移住の基礎を築ける、謂ゆる第一世は年々凋落して、今や同胞總人口の約三分の一に過ぎず、而も元年ものに至つては殆んど其影を留めず、第一回船組も既に寥々晨星の如く、皆な七、八十歳の老翁のみである。今にして之を傳へざれば、最初の建設時代の事相を審らかにすることが出來ない。

幸に本傳は其等遺老の行逕の大要を網羅し、二世代表人物をも加ふるを得たれば、此の移住史第一編を肉付くるに餘りあらむ。而も其の血管たり骨格たる史實の梗概も、其等の活ける人々の記憶と立證とに依りて大に之を明瞭にする事が出來た。而して其略傳排列は各部の長老を先にし、目次の「いろは」順によりて之を檢出する事とした。

此に掲ぐる中にも、其の人々の閲歴の分明せざるものありしため、勢ひ長短錯綜を免れず、又或は全然之を逸するものもあらむか、なれども限りある紙面に之を網羅するの餘白と時間とを有せず。

然れ共、此に登載せる多くの人は、布哇同胞間には相當認められたものゝみで、中には母國にも其名の傳へられ、永年の努力は日米融和の爲に、將た母國發展の爲に貢献する事の著しきものがある。其等の長老に對して母國は宜しく其の功勞を表彰して、其人を光榮あらしめ、且つ後者たる彼等の第二世、三世を善導奬勵に資するの要がある。

尚、本傳の人物配列、記事等に就ては毫末の私心なく、唯だ有りのまゝを描寫するに過ぎざるも、多數の人々の中には脱漏せる事項も多々之れあらむか、其は他日の再版を以て之を補綴するの外はない。請ふ、諸君之を諒とし之を寛恕されたい。

編者敬白

福間豐吉

ホノルル駐在帝國總領事。

明治二十四年九月福岡縣飯塚市に生る。大正六年三月東京帝大法科法律學科を卒業、同年十月文官高等試驗に合格、八年三月領事官補となり奉天在勤、同月外務事務官に任ぜられ臨時調査部勤務、九年九月對獨平和條約締結に携はり、大正四年及九年事件の功に依り勳六等瑞寶章を賜ふ。十年六月領事官補に任ぜられリヴアプール在勤、同十一年十二月、大使館三等書記官となつて英國在勤、十三年ブラジル在勤、十五年六月大使館二等書記官、同年九月勳五等に叙し瑞寶章を賜ふ。

昭和二年五月、外務事務官に任ぜられ通商局第三課勤務、同年十一月領事に任ぜられバンクーバー在勤、同年十月公使館二等書記官にオランダ國在勤、五年十二月公使館一等書記官となり、七年八月ベルシヤ國在勤、同九月叙勳四等瑞寶章、八年三月オランダ國皇帝よりオフイシエー・オランジュ・ナツソー勳章を賜ふ。

昭和九年六月外務書記官に任ぜられ、アメリカ局第三課長となり、同十一年九月ホノルル駐在總領事に任命せられ十月三十日來任す。

因にいふ、氏は布哇總領事任命と共に、其の赴任に先きだち、布哇移民の本源地たる山口、廣島、福岡、熊本、大阪、和歌山、愛知の諸府縣を歷訪して、府縣當局につき移民と原地との交涉現狀を調査し又布哇着任と共に僅々數ケ月の間に布哇、加哇、馬哇、其他を巡察して、住現狀及び各耕主と同胞移民間の詳細なる事相を研究して、同胞に對しては日米親善及移住者としての眞諦を說き、且つ彼等の間に多年紛糾せる問題にも解決を與へ、又ホノルルにありては、恩賜記念館の建設其他在留市民の爲に盡瘁する所多く、日夜乾々として日米親善の爲に獻身的努力を拂げつゝあり。

尙氏は堂々たる躰軀の持主にて、少壯より劍道を修め心膽を磨き、而も外面溫和閑雅にして三尺の兒童も來つて相親しむの概あり。

山崎恒四郎

現ホノルル駐劄の副領事として居留民に好評がある。其前滿洲某地の領事をやつてゐて、往年の滿洲事變には相當な活躍をして認められる。

何處となく大きな氣分が漂つて、役人離れした所がある。久しく大陸生活をした一種の蘊蓄を有する爲めであらう。將來有望の異材として期待されてゐる。

志保澤忠三郎

現住所東京市目黑區中目黑三丁目九八四。

慶應二年八月三日東京に生れ、青雲の志を抱きて少壯渡米するに至つたが、その前語學に堪能な氏は數校の英語教授として多忙な生活を送り、牧入も當時としては破格の百圓近いものであつた。この惠まれた生活も、夫の廣き世界と勉學を求むるに急なる青年の志を引留めるに足らず、氏は明治十八年頃、齡滿く二十歲にしてアメリカ本土に渡り、あらゆる苦酸を嘗めつゝアラメダ・ハイスクールを卒業し、其頃桑港がバーバリー・コーストと實つてゐた時代に、そこに着くアメリカ軍艦に乘り込んでゐた日本人船員の紹介で同船に乘組み、料理の世話や士官の世話などをしつゝ布哇にやつて來たのであつた。ホノルルに着いてから氏は軍艦を下りたが

それは明治二十三年のことであつた。

布哇の人となつた氏は實業界に乘り出し、オアフ島ワイアナエ及ワイパブ、モロカイ島カウナカカイに於て商店を經營し、其頃既に伊志夫人と結婚して倶に共に多大なる努力を拂つた。

明治二十七年九月一日には笠松正之助、加藤秀平氏等と共に布哇最初の邦文活字日刊新聞布哇新報を發刊して、布哇に於ける邦字新聞界の黎明期を來らせるに至つた。この頃から一般社會公共事業にも乘り出し、語學に堪能な關係から白人有力者との諒解運動にもつとめ、後にカ

ことに資本系の關係で止むなく昭和十一年秋、約七十五萬圓で東橫乘合に賣渡された。此間手腕にかけて花々しく育て上げたのは日比谷乘合自動車株式會社で、此は昭和六年十二月二十六日に氏が大編乘合を引受けて改名營業し、一年後には株式に改め、氏の要した費用は約五萬圓餘だつたが、見る間に發展して資本金五十萬圓（拂込二十五萬圓）の大會社となり、昭和十年の秋には東京環狀乘合に約百六十五萬圓で買收せられ、氏は現に同社の副社長として其の敏腕を揮つてゐる。

それは明治二十三年のことであつた。

布哇の人となつた氏は實業界に乘り出し、オアフ島ワイアナエ及ワイパブ、モロカイ島カウナカカイに於て商店を經營し、其頃既に伊志夫人と結婚して俱に共に多大なる努力を拂つた。

明治二十七年九月一日には笠松正之助、加藤秀平氏等と共に布哇最初の邦文活字日刊新聞布哇新報を發刊して、布哇に於ける邦字新聞界の黎明期を來らせるに至つた。この頃から一般社會公共事業にも乘り出し、語學に堪能な關係から白人有力者との諒解運動にもつとめ、後にカーター知事などにも友人關係の親交を結ぶに至つたが、在留民の福祉增進に力めた。

明治三十六年八月には時の帝國總領事齋藤幹氏を會長とする中央日本人會が組織せられたが後に至り此は橫暴にして一般在留民の爲め有益でなきのみならず、却つて弊害を及ぼすものと一方に猛烈なる反對運動が起り、志保澤氏はその急先鋒であり、布哇新報を提げて大に戰ひ、總領事の更迭運動工作にも參加して、外務省に對しても働きかけた。明治三十八年五月七日には心ある人々に依つて革新同志會が組織せられたが、本會の目標は齋藤總領事の轉任を期し、移民會社の不法を糺彈し、吸血的京濱銀行を驅逐するに在り、志保澤氏を委員長として大運動の結果皆それ〳〵目的を貫徹した。かうした運動に携はり在留民の福祉を目指して進んだのであるが、一方に於ては反對派から睨まれて、志保澤氏は一度はオアフ停車場で暴漢の爲め兇器で襲撃せられ、眼下に今も尙傷痕を殘してゐる。

此の外反對派に襲はれて生死の危機に面したことは數回に亘つてゐる。子女の教育を考へた氏は、明治四十一年布哇新報を芝染太郎氏に讓り渡して一家引連れて歸朝し、夫人の故郷熊本縣下に引籠り三年間靜かに暮したが、後上京して種々の事業に關係し、非難や誤解も受けて具さに苦酸を味はつたが、大正の初め目黑運輸自動車會社を始めるに及び、氏の熱意と緻密なる頭腦と、臥薪嘗膽的の努力は遂年發展に向ひ、こゝに運勢は朗らかに微笑み出した。此は遂に資本金拂込三十萬圓の株式會社となり、營業の成績に於て都下隨一の會社になつたが、惜しいことに資本系の關係で止むなく昭和十一年秋、約七十五萬圓で東橫乘合に賣渡された。此他手鹽にかけて花々しく育て上げたのは日比谷乘合自動車株式會社で、此は昭和六年十二月二十六日に氏が大綱乘合を引受けて改名營業し、一年後には株式に改め、氏の要した費用は約五萬圓餘だつたが、見る間に發展して資本金五十萬圓（拂込二十五萬圓）の大會社となり、昭和十年の秋には東京環狀乘合に約百六十五萬圓で買收せられ、氏は現に同社の副社長として其の敏腕を揮つてゐる。

本重和助

現住所　東京市芝區三田功運町二七ノ二
事務所　京橋區銀座西七丁目本重貿易商會。
原　籍　山口縣都濃郡富田町。出生明治六年十二月。

明治二十八年自由渡航で來布したが、當時は一介の賣藥商でホノルルを中心に營業す。明治三十年にはホノルル市キング街に本重商店を開始し、氏の倦まず撓まざる刻苦勉勵に依りて商運次第に隆昌に赴き、總ては有力な輸入商となり、各種の事業に進出して重役に推され、遂には邦人商界の元老として布哇屈指の成功者たるに至つた。その主なる事業の蹟を見ると、明治三十四年ホノルルに日本人精米會社を起し、同三十九年布哇醬油會社を創立、同四十四年には歸國して帝國貿易會社を設立し、大正二年には後に淺野晝夜銀行となつた太平洋銀行を發企し更に大正六年ヒロの布哇精米會社創立に參與して孰れも其重役に選まれた。大正十年帝國貿易會社を資本金五十萬圓とし本重貿易株式會社に改組し、ホノルルの營業は義弟山本清三氏に一任して自らは東京に定住し、本重貿易の常務取締役社長となりて今日に及んだが、氏は東京時計工業株式會社の取締役社長を初め、海産物鑵

詰、ゴルフ・ポール製造其他各種の事業に關係し、孰れも其重役に据つて居る。また大正十四年ホノルルの淺野貯蓄銀行を引受けて元の太平洋銀行に改組する時にも參與し、現在其の重役である。

氏は溫厚寬容にして、事業經營には特異の手腕と、急がず焦らざるの氣構へを有してをり、今日の成功は之れが基本となつたものである。公共事業にも熱心にて、明治三十三年にはホノルル日本人商業會議所の前身、日本人商人同志會の創立に努力し、同じく三十三年にはホノルルの黑死病燒拂事件に際し其委員に推されて、普後策と要償運動に盡力し、明治三十六年中央日本人會參事會員として活動し、降つて明治四十二年オアフ島甘蔗耕地邦人ストライキの解決に東奔西走して盡瘁した。

之より先明治四十一年には、藥業組合の組織を提唱して遂に之を實現せしめ、同四十四年、時の上野總領事より日本商品陳列所委員長に推薦せられて斡旋大いに力め、見る可きものがあつた。氏は明治四十四年のホノルル引揚げに至るまで、日本人商人同志會の副會長及會長に選任して社會に寄與する處が多い。大正十三年には伏見宮貞愛親王を總裁に仰ぐ日本產業協會より、產業貿易に功勞ある人物として表彰される の光榮に浴した。

家族にはマサ子夫人との間に晉郎、和男（共に死亡）基（結婚）八重子（結婚し布哇に在り）滿、達夫、ヒサ子がある。基氏は慶應理財科出にて家業に携動し、滿君は今や皇軍の一勇士として北支の地に戰つてゐる。

住田多次郎

現住所、兵庫縣武庫郡御影町城の前
原　籍　廣島市仁保町

明治十五年六月三十日出生、同三十一年高小校を卒るや直ちに來布し、ホノルルに於て叔父の經營せる貿商店に入る。明治三十八年にはマウナケア街に獨立して酒類輸入商を開始し、業務の發展に伴ひて擴張の必要起り、明治四十二年マウナケア街バウアヒ街角に土地を購入し石造家屋を新築して此に移轉す。爾後氏の商才と努力は令弟代藏氏の協力と相俟つて益々營業の發展を來し、顧客なる飛躍を見せて巨萬の資産を成すに至り、大正二年には組織を改めて株式會社住田商會とした。大正七年米國禁酒法が實施せらるゝと共に、氏は同商會の營業を日米雜貨食料品輸入商に變更し、經營を令弟代藏氏に一任して歸朝した。

日本に歸つて來た住田氏は首め神戶市にて貿易事務を扱ひ、後併せて大阪市西區本田通り住友川口ビルディングに事務所を設け輸出貿易に從事したが、之れ又逐次發展して後に北區老松町一ノ二一にコンクリート・ビルを新築して此に移轉し、營業を生產的方面にも伸展して、住田物產株式會社とし、自ら其取締役社長となる氏は布哇に於て明治四十一年ホノルル日本酒釀造株式會社を創立し其社長として之を成功に導き、太平洋銀行を發企創設して現に其顧問たり布哇藥品商會を起し、日本人精米會社に關與して何れも其重役に推される等、頗る經綸に富み運用經營の手腕を有してゐるが、歸朝後もオリエンタル珈琲會社を創立して其代表者となり、大阪に工場を新築し發展の道を逃つてゐる。更に亦南洋珈琲株式會社を起し其社長として敏腕を揮ひつゝあり。臺灣に於ては花蓮港の奥地に宏大なる土地の拂下げを受けて珈琲の栽培に從事す。氏は其の代表者として國家的事業の完成に邁進して居る。

一方氏が顧問たるホノルルの住田商會も益々發展して、舊建物の筋向ひの宏大なる土地を十餘萬弗にて購入し、鐵筋コンクリート三階建の新店舗を作りて移轉した。

又曾て住田氏の發企になりたるホノルル日本酒造株式會社は、米國禁酒法實施後釀造を止め製氷を行つてゐたが、一九三三年禁酒法の撤廢と共にホノルル酒造製氷株式會社として資本金二十五萬弗に增資し、再び釀造に立歸りて今や隆々發展してゐるが、氏は此が顧問である。又

布哇日本人商界初期の元老たる氏は、歸朝後も布哇と密接な關係を保ち直接間接に經綸を行つてゐる。

住田代藏

原　籍　廣島市仁保町丹那
現住所　ホノルル市カイムキ、ハイビューブレース一三二八

一の金融機關とし其の使命を全ふしつゝあり。誠心誠意同胞財界に對する貢獻は今や各方面より感謝賞讚の聲となり、布哇財界に重きをなしてゐる。

ホノルル酒造製氷株式會社は、一九〇八年令兄多次郎氏の發起創立に係り、一九一八年令兄が歸朝の爲め社長の職を辭するや、經營關係輪承の爲め入りて實記錄會計となり、一九二六年副社長、一九三二年社長、專務取締役に就任す同社は資本金二十五萬弗、從業員百二十五名、一ケ年製氷高三十六萬噸、同清酒釀造高八十五萬ギヤロン、名實共に日本人間最古最大の會

布哇日本人商界初期の元老たる氏は、歸朝後も布哇と密接な關係を保ち直接間接に經綸を行つてゐる。

住田代藏

原籍　廣島市仁保町丹那
現住所　ホノルル市カイムキ、ハイビューブレース一三二八

明治二十年八月七日、頭書の原籍地に於て住田初藏氏の次男として生る。廣島縣立商業學校を卒業し、明治三十八年十一月米領布哇に渡航、ホノルル市に於て令兄多次郎氏の起せる酒類輸入卸商住田商會に入り、傍らホノルル市イオラニ・カレッヂに通學し英語を學ぶ。初め令兄多次郎氏の個人經營なりし住田商會は兄弟の協力奮闘により逐年大發展をなし、一九一三年資本金十萬弗の株式會社住田商會と改組するに至つた。

然るに一九一八年米國憲法によりて禁酒法の制定を見るや、住田商會の營業を酒類取扱より日米食料雜貨輸入卸商に更め、一九一八年令兄多次郎氏が日本に於ける輸出業を志して歸國するや、其の後を承けて同商會社長に就任す。

爾來住田商會は隆々として發展し、一九二七年にはマウナケア街とパウアヒ街角に十餘萬弗を投じて廣大な敷地を購入、共れに鐵筋コンクリート三階建の新店舗を新築す。

尙は同氏が頭取、專務取締役として重責に任する太平洋銀行は、一九一三年同胞經濟界の金融機關として創立、一時淺野總一郎氏の經營に移つてゐたが、一九二五年住田兄弟、本重同族等の乘出しに依つて名實共に純然たるローカル銀行となり、同時に氏は副頭取に就任、越えて一九三二年頭取、專務取締役に就任す。淺野氏より繼承當時僅々四十萬弗に過ぎざりし預金は數年を出でずして二百萬弗に膨脹、在留民間唯一の金融機關とし其の使命を全ふしつゝあり。誠心誠意同胞財界に對する貢獻は今や各方面より感謝賞讃の聲となり、布哇財界に重きをなしてゐる。

ホノルル酒造製氷株式會社は、一九〇八年令兄多次郎氏の發起創立に係り、一九一八年令兄が歸朝の爲め社長の職を辭するや、經營關係職承の爲め入りて書記兼會計となり、一九二六年副社長、一九三二年社長、專務取締役に就任す同社は資本金二十五萬弗、從業員百二十五名、一ケ年製氷高三十六萬噸、同清酒醸造高八十五萬ギヤロン、名實共に日本人間最古最大の大會社にして、其の製品は米大陸にまで進出、堂々の經營振りは布哇全島四百餘名の內外人株主より絕對的信任を受け、白人の巨頭連に瓦して事業界の第一線に活躍してゐる。

更に最も氏の面目を躍如として語るものに、株式會社共榮商會がある。同商會は多くの人の無駄にするヂヤンク類を有用に生かす機關として、即ち『世の中から無駄を無くすべし』と云ふ同氏の主義提唱の下に、一九一五年數名の同志を糾合して創立され、同時に顧問として關係一九二八年に至るや事業發展の爲め株主より乞はれて遂に其の社長に就任、爾來今日に至つて居る。

一方、社會的方面に於ける氏の奉仕的關係は十指を屈するに餘るが、其の主なるもの三、四を列記すれば、先づ事業團體たるホノルル日本人商業會議所に於ては、永年會員、常議員、或は書記、會計として貢獻し、一九二一年より一九三二年に至る十年間は連續的に第一又は第二副會頭として各會頭を補佐、一九三二年遂に推されて其の會頭となり、一般經濟界不況連續の間に在つて、各商業家の直面せる各種實際問題の研究檢討を指導して誤たず、又一九三二年布哇縣會の大問題となれる租稅改正案上程當時の如きは、米人側と協調改正に對する建議案を提出するなど大いに努力した。更に一九三三年再び推されて會頭に重任、ルーズベルト大統領の所謂產業復興法の實施に際しては、米人商業會議所を中心とする各種の協議に參加せるのみならず、布哇縣復興局長ガリオン氏に信任されて

明治十五年六月三十日出生、同三十一年高小

餘萬弗にて購入し、鐵筋コンクリート三階建の新店舗を作りて移轉した。

又曾て住田氏の發企になりたるホノルル日本酒造株式會社は、米國禁酒法實施後醸造を止め製氷を行つてゐたが、一九三三年禁酒法の撤廢と共にホノルル酒造製氷株式會社として資本金二十五萬弗に增資し、再び醸造に立歸りて今や隆々發展してゐるが、氏は此が顧問である。又

諮問委員の一人に推され、特種の事情の下にある日本人社會の爲めに、定數を出來る限り有利に制定さるゝやう奮鬪努力した。

一九三二年布哇在留民間に統一團體の必要が痛感されてゐた折柄、時の總領事代理柴田市太郎氏等と協力して東奔西走、遂に各團體を網羅して布哇日本人聯合協會の組織に成功、一九三二年と一九三三年の二回、選ばれて第一次及び第二次の理事長となり、其の間聯合寄附の募集帝國練習艦隊の歡迎等、社會公共事業に盡すところが尠くなかつた。

氏は又日本人慈善會の會長として、又管理委員として、多年斯界の爲めに貢獻してゐるが、更に伏見宮記念奬學會の會員として第二世の指導教育にも多大なる關心を持ち、一九三二年より今日に至るまで同會々計としての重任に在る。

斯くて同氏は各方面の第一線に立つ眞に寸暇なき多忙の身であり乍ら、又佛教信者として宗教を疎かにせず、布哇渡航以來本願寺門徒及び佛教青年會員として其の中心人物となり、多年會計の重職に列してゐたが一九二三年現在の佛教青年會館の建築に當りて理事長に推され、二ケ年連續重任、かの大事業を完成すると共に役を退き、今日では管理々事として顧問格となり、後進の指導に當つて居る。

以上は主として日本人社會に關するものであるが、同氏は又外人社會にも常に第一人者として其の存在を認められ、公私共に其の方面に盡力しつゝある事も僅少でない。即ち此の點同氏の他に傑出せる所以であるが、先づ白人商業會議所に於ては多年會員として日本人の立場を代表、內外人商業家の融和に努めつゝあるが、又同會內に設置の公益委員會委員に擧げられ、其の重要發言は日本人の爲めに氣を吐くものと言つてよい。

更に特筆すべきは、同氏が布哇縣政務調査委員會に唯一の日本人推薦會員として入會して居る事である。同會は縣內實業及び財界を牛耳る知名外人實業家に依りて組織され、縣の歲入歲出の政務を調査し縣當局又は縣會に提案するを目的として居るもので、同氏が斯る高等政策を討議する仲間に互し、日本人代表の意味に於て善處しつゝある。此他、恩賜記念館建設委員長として努力せり。（別項詳述）

家族は夫人フサオ、長男愼三郎。夫人は主婦として內助の譽れ高き一面、多年日本人婦人會幹部又は白人婦婦人會々員として社會奉仕及び日米人融和に努め、長男は米國オハイオ州デイトン大學を卒業し目下東京商大に在學中、家庭頗る圓滿である。

藤井順一

原籍　廣島縣佐伯郡平良村
現住地　廣島市材木町二十二番地

明治十七年出生、同三十一年（一八九八）一少年の身を以て雄志を抱き布哇に渡り、ヒロ市のボーデング・スクールに入りて英語の勉强を積けつゝ、商界に於ける飛躍を企て其機を待つたが天は大に此人に惠み、大正元年（一九一二）ホノルル市にゼー藤井商會を創立するに至つた。時恰も世界大戰當時にて、其前後に於ける好景氣は、氏の商才と堅實なる手腕と相俟ちて藤井商店を見る間に膨脹せしめ、一流商店に伍して痛快なる飛躍を見せた。一九二三年十二月には拂込十萬弗の株式會社に改組され、昭和十年には更に十五萬弗に增資するに至り、今や布哇同胞實業界の雄者である。

藤井氏は一九一八年發展途上に在りし同商店を支配人藤川壽郎氏に一任して歸朝し、廣島市に大商店を經營してホノルルの藤井商店と呼應して盛んに輸出貿易を行ひ、一方地方の小工業や製造業に融資して此を護り立て、更に近年は大阪、京都、東京の實業界にも觸手を差伸べ、數年前には舊住友銀行廣島支店建物を約二十萬圓で購入し、內部を改築、設備を新にして倉庫業を創め、之亦大發展を來して居る。氏の護り立てたる廣島市內の小工業者製造業者及び密接の關係ある輸出、金融の各業者は藤井氏の音頭に依り數年前相集りて社交親睦を旨とする「富士會」を組織したが、之は名實共に充實發展し今や鞏固なる經濟ブロックの實力と實質とを備へて來た。斯くて故國に於ける藤井氏の發展は今や旭將軍の概あり、氏は數十萬金を投じた本川端の檜作りの別莊や、京都及東京の閑雅な別宅に憩ひ、一萬六千圓を投じた海のダンデイたる流線型モーター・ボートに乘じて風光絕佳の瀨戶內海を乘り廻りつゝ英氣を養つては、更に明日の飛躍に備へてゐる。

一方布哇に於ては一九三三年來國禁酒法が撤

同　玉田一二三
取締役　藤井順三
同　渡邊鷹藏
同　香川勇夫
同　藤井茂雄
監査役　大方榮一
同　赤澤虎雄
醸造能力　二萬石
製品種類　金標富士正宗、富士正宗

士會」を組織したが、之は名實共に充實發展し今や鞏固なる經濟ブロックの實力と實質とを備へて來た。斯くて故國に於ける藤井氏の發展は今や旭將軍の概あり、氏は數十萬金を投じた本川端の檜作りの別莊や、京都及東京の閑雅な別宅に憩ひ、一萬六千圓を投じた海のダンディたる流線型モーター・ボートに乘じて風光絶佳の瀨戸内海を乘り廻りつゝ英氣を養つては、更に明日の飛躍に備へてゐる。

一方布哇に於ては一九三三年米國禁酒法が撤廢されるや、早くも酒造業に乘り出す準備を爲し、翌一九三四年から三五年にかけてカカアコの神田商會を購入し、同年七月資本金十五萬弗醸造能力一ケ年五十萬ギャロンの富士酒造株式會社を設立、藤井氏自ら社長に就任し、一九三六年六月には「金標富士正宗」を發賣して好評を博し、更に一九三六年末には資本金を三十萬弗に增資して邦人醸造會社中の最大のものたらしめ、擴張工事も同年九月完了した。またキング街のむさしや呉服店も數年前に購入增資改築の上經營して發展しつゝある。

氏の夫人勝子は數年前死亡、長男順三氏は明大商科を卒業して結婚し、既に夫人との間に二兒あり、家業をいそしみてよき後繼者である。次男春君は明大在學中、三男は死亡、四男洋一君は慶大に在學中、長女カツエさんは廣島縣立女學校を出たばかりの才媛である。

尙同氏の社長たるホノルルの富士酒造株式會社は、團體發達史中酒造業中にも概略を記載してあるが、更に其の重役及略史を左に附記して紹介する。

一、位置　ホノルル市クック街五三九

一、工場　總建坪數七萬平方呎

一、組織

社長　藤井順一
副社長　西村恕一
同　三枝欽三
同　神田竹太郎
常務取締役　藤川壽郎
同　中野耀左右
同　尾崎澤次郎
同　大島重男
同　玉田一二三
取締役　藤井順三
同　渡邊龍蔵
同　香川勇夫
同　藤井茂雄
監査役　大方榮一
同　赤澤虎雄
醸造能力　二萬石
製品種類　金標富士正宗、富士正宗

沿革――昭和九年神田竹太郎氏に依り資本金二萬五千弗を以て創設せられたるも資金難に陷り同氏より交渉ありたる爲め之を讓受けて昭和十年一月全く之れを買收し、資本金六萬弗とし、富士酒造株式會社を設立す。

昭和十年十二月三十日增資して資本金十五萬弗となす。

昭和十一年十二月更に擴張の必要を認め、倍額に增資して資本金三十萬弗となし現在に至る。

佐藤太一

現住所　ホノルル市北キング街二二三番地
「出生」明治二十年二月十八日、山口縣都濃郡末武村。
「渡布」明治三十九年十二月二十一日、ホノルル。
「職業」商業
最初オアフ・カンツリー倶樂部に五年勤め、後、帽子洗濯所を開き、帽子輸入製造販賣業に進展し、更に男子服裝店を現在の場所に創めて、同業間唯一の既製洋服店として好評を博し、忽ちホノルル屈指の一大商店となつた資性溫厚にして着實、商略に富む。
「餘業」日本人商業組合の書記或は組合長に歷任し、太平洋銀行取締役として實業界に活躍する一方、多年育英事業に盡瘁し其功績は洵に大である。現在布哇敎育會の常務理事及

更に特筆すべきは、同氏が布哇縣政務調査委員會に唯一の日本人推薦會員として入會して居る事である。同會は縣内實業及び財界を牛耳る知名外人實業家に依りて組織され、縣の歳入歳出の政務を調査し縣當局又は縣會に提案するを目的として居るもので、同氏が斯る高等政策を議する仲間に互し、日本人代表の意味に於て善

大阪、京都、東京の實業界にも觸手を差伸べ、數年前には舊住友銀行廣島支店建物を約二十萬圓で購入し、内部を改築、設備を新にして倉庫業を創め、之亦大發展を來して居る。氏の護り立てたる廣島市内の小工業者製造業者及び密接の關係ある輸出、金融の各業者は藤井氏の音頭に依り數年前相集りて社交親睦を旨とする「富

布哇中央理事長、ホノルル教育會長として活動する外學院の理事長たり、又曩には日本人聯合協會の副理事長を勤め、日本人商業組合常務理事布哇日本人慈善會副會長たり。昨夏歸朝、母國教育界及商界を視察、同胞のため貢獻する所多し。

岸田英一

現住所　ホノルル市コーラル街六三四
「出生」明治二十二年四月十九日、三重縣一志郡大井村字井村に生る。
「渡布」明治四十五年四月五日、布哇島クワイハエー。
「修學」明治四十三年三重縣師範學校本科第二部卒業。
「職業」學校長。
初め四日市市第三尋常高等小學校に奉職、來布後ハワイ島クワイハエレ日本語學校長を經、大正十三年八月ホノルル市カカアコ日本語學校長に就任、外國語學校取締法に關する訴訟派と非訴訟派との對立を鎭め今日に至る。布哇教育會常務理事及副理事長、ホノルル教育會幹事して盡瘁す。

木村實喜

現住所　ホノルル市ロペロレーン九四三番地
「出生」明治二十四年一月十四日、熊本縣菊地郡西合志村大字野々島。

「渡布」大正四年十月マウイ島パイヤ。
「修學」明治四十年三月熊本縣師範學校本科第一部卒。
「職業」學校長。

佐々木芳信

現住所　ホノルル市ヤング街一二五二番地
「出生」明治三十年十月十日、山口縣玖珂郡藤川字關戸。

「渡布」大正六年三月。

山本一行

現住所　ホノルル市フォート街一六四七番地
「出生」明治二十八年一月二十一日、廣島市段原町千八十八番地。
「渡布」大正六年（一九一七）九月一日、ホノルル。
「修學」大正五年廣島縣立師範學校本科第二部卒。
「職業」學校長。
最初廣島市本川小學校に勤め、來布後パラマ學園教師、マウイ島ワイルク學園長、オアフ島ワイアナエ學園長を經、昭和二年九月ホノルル市フォート學園長に轉じ今日に至る。
「餘業」布哇教育會常務理事及會計、ホノルル教育會副理事長、幹事、本願寺學務部理事、布哇武德會支部劍友會長等として敎化事業に多大の盡力をしてゐる。

「修學」大阪成器商業卒後、暫時關西大學に通學す。一九二三年イオラニ・ハイスクール卒二四年布哇大學に入り、一九二九年卒業してバチエラー・オブ・アーツの學位を得。
「職業」學校長。
初めパラマ學園に、其後淨土宗附屬の布哇女學校に敎鞭をとり、一九二三年九月マウイ島ハイカー日本語學校長に就任、一九二四年九月ホノルル市マキ、日本語學校に轉じ、一九伴ひて渡支し、漢口の城內に雜貨店を開店して同地に於ける日本人發展の鼻祖を爲したが、城內は衞生狀態最も惡く、氏は之に堪え得ないので間もなく引拂つた。
一旦歸國した檜山氏は今度は美術品を携へて渡米し、テネッシー州に店を構へて第一回仕入品を全部賣盡し、第二回の仕入をする筈であつたが、布哇の濱野商店の方に適當な人がなかつたので遂にその方へ行くに決し、テネッシーの

「渡布」大正四年十月マウイ島パイヤ。
「修學」明治四十年三月熊本縣師範學校本科第一部卒。
「職業」學校長。

川字關戸。

「渡布」大正六年三月。

「修學」大阪成器商業卒後、暫時關西大學に通學す。一九二三年イオラニ・ハイスクール卒二四年布哇大學に入り、一九二九年卒業してバチエラー・オブ・アーツの學位を得。

「職業」學校長。

初めパラマ學園に、共後淨土宗附屬の布哇女學校に教鞭をとり、一九二三年九月マウイ島ハイカー日本語學校長に就任、一九二四年九月ホノルル市マキ、日本語學校に轉じ、一九三四年四月同校々長眞下龍牛氏隱退するや推されて同校長となり今日に及ぶ。

布哇教育會の常務理事及監査役として日本人教育界の爲め盡瘁深し。

檜山錦光

現住所　東京市牛込區市ヶ谷藥王寺町三九

原　籍　廣島市。

氏は淺野侯爵家の經營だつた修道校を卒業後海外雄飛の準備として英語修養の爲めに東京の青山學院に入り、此を卒業後勉學の希望を以て渡米の途に上つたが、恰度令兄がホノルルの濱野商店に勤務中だつたので短時日の積りで其處に下船した。之れ明治二十九年のことであつて檜山氏は暫く濱野商店に於て手傳つてゐる中に現在の夫人で當時の店主濱野久吉氏の令嬢と緣あつて結婚した。

其後氏は渡米してキヤリフオルニヤ、ポストン、市俄古、費府を勉强し乍ら廻り、ニユーヨーク大學に來て暫く其處に籍を置いたが、具さに實社會を見るに付けて實業界入りの志望勃々たるものあり、遂に勉學を斷念して歐洲視察の旅に上つた。倫敦を振出しに各國を廻つて歸朝すると、濱野氏の懇望でハワイの店の方へ招かれ、數年間店務を管理し商勢大いに揚つた。然し氏は夙に東洋の老大國支那に發展すべく計畫してゐたので、同文書院の卒業者である令弟を伴ひて渡支し、漢口の城内に雜貨店を開店して同地に於ける日本人發展の鼻祖を爲したが、城内は衛生狀態最も惡く、氏は之に堪え得ないので間もなく引拂つた。

一旦歸國した檜山氏は今度は美術品を携へて渡米し、テネツシー州に店を構へて第一回仕入品を全部賣盡し、第二回の仕入をする筈であつたが、布哇の濱野商店の方に適當な人がなかつたので遂にその方へ行くに決し、テネツシーの方は令弟に讓つた。

三度布哇に來てから氏は、一意專心に店務にいそしみ、店は繁榮に赴いた。明治三十三年のベスト燒拂事件で同店は燒拂はれたので、檜山氏はキング街スミ角の土地をリースして、こゝに當時としては最もモダーンな店を建築しだ濱野氏は以前より日本に歸つて仕入れをしてゐたが、大正七年事實上引退したので檜山氏は義父の後を繼承して、店名を檜山商店と改稱した其後同店は現在のバウアヒ街の建物に移り、檜山氏は昭和二年に引揚げて歸朝した。氏は目下東京の自宅に在り、大阪市西區南堀江通四丁目の仕入部は令息達が管理してゐて、堅實な發展を遂げつゝある。

奥村多喜衛
同夫人

奥村多喜衛氏夫妻　金婚式寫影

原　籍　高知市大川筋

現住所　ホノルル市南キング街一二三九番地

慶應元年四月十八日出生、京都同志社卒業後基督教傳道の目的を以て明治二十七年（一八九四）來布し、爾來四十數年間、敎化傳道及社會事業に携はり今日に及んで居る。

氏の內外に於ける事業は敎化、傳道、社會、親善、出版等廣く且つ多種に亘つてをり、其功

績を一々擧げることは到底困難である。其の主なるものを擧げて見ると、マキキ聖城教會の建立、愛友會の創立、邦人最初の學校の創設、邦人最初の青年會の創立、寄宿舍の經營、樂園時報及聖城教報の發刊、日曜學校の創立、新米國市民會議の創始、チエーン・スクールの創設、基教青年會事業及伏見宮記念奬學會への參畫、其他日米親善事業、一般社會公共事業に參加努力してゐる。其の著書には「成功の生涯」「太平洋の樂園」「恩寵五十年」などの外數十種ある。氏は歐洲に遊ぶこと一度、日本を訪問すること數回に及ぶ。氏の大きな功績はマキキ聖城教會と共に永く後世に殘るであらう。

夫人勝刀自と結婚後既に五十年を閲し、一九三七年春金婚式の盛典をマキキ教會に擧げた。家族とは別に一家をなして居る、長男梅太郎氏夫妻次男春樹（死亡）、三男尚樹（死亡）、四男敏樹（死亡）、五男冬樹、六男又樹（醫院開業）七男末樹、長女初枝（增井修吉氏に嫁す）次女次枝（松尾弘氏に嫁す）三女芳枝あり。

米屋三代槌

原籍　山口縣玖珂郡麻里布村今津、
現住所　ホノルル市リヴア街。

慶應三年十二月二十二日出生、明治二十一年六月官約第五回組の移民として來布した。馬哇島パイア耕地に三ケ年の契約勞働を濟まして後ホノルルに出で、明治二十六年スミス街に蕎麥屋を開店し、更に翌二十七年同所に日本式料理店を開業したが、之れ孰れも邦人斯業の元祖である。

明治三十年にはスミス街に旅館業を開いたが同三十三年のペスト燒拂事件に遭ひて全燒の厄に會したので、後イヴリー街に移り、更に現在のリヴア街に來りて、大規模な米屋旅館を開業して今日に至る。氏は仁俠にして公共心に富み

ホノルル在住五十年間に內外大小の社會事業に關係して熱心に盡力し、邦人間に無くてはならぬ世話役である。一九三五年の日本人移民布哇渡航五十周年記念祝賀會に際しては、其經歷、人物の兩方面から祝賀委員長に最適任者として在留邦人より推擧され、意を傾けて一生一代の名譽の役目を萬遺漏なく行ひ果した。

氏は亦古くより日本人郵便局を設けて、邦人の便宜を圖り、布哇日本人慈善會、布哇日本人協會の各幹部たり、ホノルル日本人旅館業組合長、其他數個の團體の會長或は幹部に歷任して盡瘁し、邦人社會の元老として一般の尊敬を集めて居る。其本業たる旅館は大正十五年に現在の建物及敷地全部を買收して益々發展しつゝある。

家族には夫人キク、長女テルヨ（結婚）長男助氏（妻タカとの間に子供數名あり）あり、助氏は家業に精勵してゐる。

毛利伊賀

元治元年石川縣江沼郡太聖寺町に出生、明治廿年海軍醫學校卒業後、海軍私費留學生として渡米し、工大の前身たる醫大に學び、同廿五年

卒業、布哇王朝政府の移住民局に移民監督官兼官醫として聘せられたが、同廿七八年の日清戰役には在留同胞の醵出せる赤十字義捐金を携へ特派醫として歸朝、從軍して勳六等に叙せられ戰後再び來布、移住民局と自設醫院に勤め、日本人產院長に推され、同三十九年歸朝し、東京京橋に醫院を開業したが同四十四年三度來布し、爾後醫院經營の傍ら公共事業に盡瘁し日本人聯合協會理事長、日米人教科書編纂員日本人部々長、教育檢定講習會委員長、日本人會理事長伏見奬學會長（歸朝、同圖書館の爲め貢獻）日本人慈善會長、赤十字布哇特別委員部副委員長オアフ白十字會々長、汎太平洋同盟會理事等に歷任、また同胞の文化事業にも貢獻してゐる。

口羽義敎

現住所　ホノルル市フオート街一七二七番地
「出　生」明治十六年四月十六日、島根縣邑智郡井原村

寺開敎使として來布した。初めホノルル本願寺所屬日本語學校（フオート學園の前身）主事として敎鞭を執り、明治卅六年十二月には加哇リフエ本願寺駐任となる。以來十年一日の如く敎化育英の爲めに盡瘁してゐる。此間明治四十三年三月にはコロア本願寺を創立し、リフエに平和學園を起し、小學部、中學部の二部に分ち數百名の生徒を擁するが、現在はミネヲ夫人を園長として專ら經營盛況を呈してゐる。

氏は又且てカパア敎區エレ〳〵敎區等を管掌

六月官約第五回船の移民として來布した。馬哇島パイア耕地に三ヶ年の契約勞働を濟まして後ホノルルに出で、明治二十六年スミス街に蕎麥屋を開店し、更に翌二十七年同所に日本式料理店を開業したが、之れ孰れも邦人斯業の元祖である。

明治三十年にはスミス街に旅館業を開いたが同三十三年のペスト媾拂事件に遭ひて叄媾の厄に會したので、後イヴリー街に移り、更に現在のリヴア街に來りて、大規模な米屋旅館を開業して今日に至る。氏は仁俠にして公共心に富み特派醫として歸朝、從軍して勳六等に叙せられ戰後再び來布、移住民局と自設醫院に勤め、日本人產院院長に推され、同三十九年歸朝し、東京京橋に醫院を開業したが同四十四年三度來布し、爾後醫院經營の傍ら公共事業に盡瘁し日本人聯合協會理事長、日米人敎科書編纂員日本人部々長、敎育檢定講習會委員長、日本人會理事長伏見櫻學會長（歸朝、同圖書館の爲め貢獻）日本人慈善會長、赤十字布哇特別委員部副委員長オアフ白十字會々長、汎太平洋同盟會理事等に歷任、また同胞の文化事業にも貢獻してゐる。

口羽義敎

現住所　ホノルル市フオート街一七二七番地
「出　生」明治十六年四月十六日、島根縣邑智郡井原村
「渡　布」千九百二十年十一月に渡布し千九百二十六年四月歸朝。
更に千九百三十五年九月現職就任。
「職　業」布哇本願寺敎團總長並に兼布哇別院輪番、本願寺別院、各布敎場、中學校、女學校、學園、佛敎青年會、婦人會、青年敎團、英語傳道部などを統括す。
「略　歷」千九百〇八年十一月清國福州へ開敎使として赴任、積德學堂を起し、支那人子弟を敎養す。
千九百十年英領香港へ轉勤し、一九一七年四月より東京、安東、西貢、並に馬來半島を視察す、一九一八年四月旅順私立殖民學校管理に任ず、一九二〇年十一月布哇駐在開敎使として馬哇ワイルク駐在、一九二六年四月辭任歸朝、一九二七年九月臺南駐在布敎使に任ぜられ兼臺灣開敎贊事長を命ぜらる。一九三五年九月本願寺布哇開敎師長兼布哇別院輪番として着任今日に至る。

宮崎匪石

現住所、加哇島リフエ・カパイヤ
原　籍、京都市上京區油小路通御池。
明治二年二月十四日照圓寺の息として生れ、同三十五年四月廿八日本山の命に依り本派本願寺開敎使として來布した。初めホノルル本願寺所屬日本語學校（フオート學園の前身）主事として敎鞭を執り、明治卅六年十二月には加哇リフエ本願寺駐任となる。以來十年一日の如く敎化育英の爲めに盡瘁してゐる。此間明治四十三年三月にはコロア本願寺を創立し、リフエに平和學園を起し、小學部、中學部の二部に分ち數百名の生徒を擁するが、現在はミネヲ夫人を園長として專ら經營盛況を呈してゐる。
氏は又且てカパア敎區エレ〳〵敎區等を管掌したが、その外學校、敎會、靑年會、婦人會、日曜學校などを統率多忙なる宗敎家の道を精進しつゝある。ミネオ夫人は夫を助け內外敎化事業に非常なる活動をして居る。

山城松太郎

原　籍、廣島市仁保町、
現住所、ホノルル市ベレタニア街二〇六。
明治二年出生、同二十三年六月十八日、第十四回船官的移民として來布する馬哇島ハイク耕地に就働すること三年、プネネ耕地に移り請負仕事をやつて居たが、明治廿九年ホノルルに出で旅館業を開業して同胞中有數の成功をかち得外に太平洋漁業會社を起しこれ又大發展して今に至る。
氏は、明治四十二年オアフ島砂糖耕地に日本人勞働者のストライキ起るや、增給期成會々計として獻身的に勞働者のために盡力した。明治四十四年廣島、山口兩縣人會が組織せられるや六ケ年間會長或は副會長として中心人物となる明治四十三年には太平洋漁業會社を發企創立して其支配人に選ばれ、現在も社長兼支配人である。氏は亞いで外人と協力して經練請會社を創立して魚工業界に新分野を開拓した。
氏は大正三年日獨戰役には我海軍に貢獻して從軍記章と一時下賜金二百五十圓を賜はつた。
同氏は公共事業にも熱心で、之迄日本人旅館業

組合長、布哇日本人慈善會々計、同會長、廣島山口縣人會長、本派本願寺教團理事長等に歷任し、一般日本人社會の爲め貢獻した。

家庭は夫人ミツ（死亡）長男松一（結婚し別に一家を爲す）長女ハマ（死亡）テル子（山縣氏に嫁して後死亡）正義（結婚し山城ホテルの支配人たり）ヨシノ（死亡）義雄（死亡）正美、敏夫、光朝（死亡）綾子（日本齋藤氏に嫁す）義顯、忠敬、錦子、星子がある。

北川礒治郎

氏は原籍山口縣大島郡家室西方村の出身にて明治十二年三月廿八日生る、明治卅六年十一月廿九歳で横濱を出帆の日本丸で來布し、ホノルルに到着吏に布哇島ハカラウ耕地に來た、性來明朗の氏は特に耕地監督より厚愛を受けてゐたが本來商業を希望してゐたので、斷然耕地生活を思ひ切り、ヒロ市の人となり暫らく雜業に從事してゐる間に日露の開戰に遭ひ、本國より召集令に接し急遽歸國、廣島第五師團に復歸し、戰地に出動を命ぜられたのである。

氏は十一ケ月間の激戰にも倒れず無事名譽の凱旋をなし、明治三十八年戰功により勳章を拜受して再び第二の故郷布哇へ歸航したのである次で氏は明治四十三年ヒロ市椰子島水產株式會社隣に雜貨商開業、傍ら鮮魚の行商に從事したが、氏の朗かなる商賣振りは悉く成功するに至り、次いでヒロ本筋通りにガソリン・ステーションを新設するや東西の自動車は織るが如く殺到する大繁榮を見るに至つたのである。

次で、一千九百十二年、北川グラーヂを設置し、布哇島同胞間で唯一の自動車エジエントを把握し、今日では數種の自動車を販賣し、堂々白人の向を張り大成功者として布哇各嶋によく知られてゐる氏は亦布哇島水產株式會社、社長日米酒造株式會社々長をつとめ其他公共諸團體の顧問並に重役として布哇島財界に重きをなしてゐる。

藤本伊作

布哇島ヒロ市テアウエ街藤本貿易商會主藤本伊作氏は本島邦人商界屈指の有力者である。氏は明治十七年十月山口縣大島郡に生れ同三十六年海外發展の雄志を抱いて布哇ホノルルに上陸した布哇自由渡航者で砂糖耕地に就働せず、最初よりホノルル市村上商店にセルスマンとして勤務其の餘暇布哇佛教青年會の夜學に通學し、一意專心英語を研究した、資性溫厚篤實、容貌象ね備へた氏は內外人より信用を博するにいたり、後村上商店を辭し、一躍ホノルル邦人有力者を以て株主とする布哇精米株式會社支配人に就任勤續する事七、八年にして布哇を引揚げ錦衣歸鄉、數年間、米穀貿出業に從事、之れを布哇に輸出しつゝありしが氏の朗かなる性格と誠實はそれらの事業をして悉く成功せしむるに至つた。

次で東京本重株式會社々長本重和助氏に懇請されて再び昭和二年六月來布、當ヒロ市に藤本貿易商會を開業して以來、僅々九ケ年なるにも拘らず今日では布哇島邦人貿易商として屈指の大繁榮を爲したのである。

過去九ケ年間氏は終始一貫社會公共團體の爲め物質的に將又精神的に多大の盡瘁をなして居る、殊に靑年善導の機關である布哇島日本人野球協會の生みの親として尊敬されてゐる。其他氏は凡ゆる方面の公共團體に關係し、就中布哇島相撲協會副會長、ヒロ淨土宗明照院敎團理事長、防長海外協會ヒロ支部長、布哇島日本人野球協會顧問を勤めてゐる。尙清酒「國粹」の醸造元日米酒造株式會社副社長として敏腕を振ひつゝある。

氏の令閨は鄕里山口縣大島郡浦野村にあり、子女の敎養に專念されてゐる。同夫妻の間には二男四女あり、長男茂樹君は東京法政大學出身で昨年來布、爾來父君の許で練記係を勤め、長女敎子さんは數年前父君日本訪問の際同伴して來布、目下ヒロ市藤本家で主婦代理として家を切りまはしてゐる。

畑貞之助

原籍　廣島縣安佐郡山本村、

慶應三年十月廿六日生、十三歳の時雜席業に從事（親の職業を繼ぐ）、雜席貿賣業に十ケ年從事、明治二十四年廿四歳にして渡布、最初の就勞地は加哇島マカウリ耕地で一年五ケ月働き、

原籍　廣島縣安佐郡山本村

明治十七年四月二日出生、同三十七年廣島第五師團第十一聯隊に入營し、後衛生隊の試驗に合格して日露戰役に出征、奉天、鐵嶺、昌圖に於て華々しく活躍す。第五師團は鐵道附近防衛の重大任務を負ひ、爆彈叢雨の中をよく戰ひ、重要地點であるので第九中隊の如きは一個中隊二百四十名中僅十六名生存した悲慘な場面を出現死體は纍々と山をなし血の海と化した。戰地に於て此等負傷者の應急手當を施した氏は陸軍か

女敎子さんは數年前父君日本訪問の際同伴して來布、目下ヒロ市藤本家で主婦代理として家を切りまはしてゐる。

畑　貞之助

原　籍　廣島縣安佐郡山本村

慶應三年十月廿六日生、十三歲の時商席業に從事（親の職業を繼ぐ）、商席賣買業に十ケ年從事、明治二十四年廿四歲にして渡布、最初の就働地は加哇島マカウリ耕地で一年五ケ月働き、條約を解いてもらひ、ホノルルに出づ、ホノルルで廣瀨安吉氏と共同で商賣を始む、一ケ年半にして廣瀨氏と別れ加哇島に去り、又ホノルルに出で王堂商店で一ケ年働く、明治三十一年一月三十日來廣初め馬車業を始む（二ケ年半從事）次にヒロ・ワイン商會に二ケ年働く、辭職して獨立で商業を開始、次に酒店六ケ年經營、次で商業專門となる。商店は明治三十五年、ヒロ市キラウエア街とマモ街角に開業（食料雜貨）布哇ホノルル―横濱間往復四十回（片道八十回）次でヒロ市に三萬五千弗（獨力、後增額十五萬弗）ヒロ酒造會社創立の爲め昭和十一年二月廿六日ヒロ着の平洋丸で技師三名同伴、酒造工場ビルデング、昭和十一年三月二日起工、同七月十一日竣工、內部の設備を終り、釀造に着手名釀多産、益々發展を遂げ、布哇邦人屈指の成功家、長男保君（三十歲）は昭和九年結婚大阪支店の支配人として活躍中である。

畑　輿一

現住所、布哇島ヒロ市、

原　籍　廣島縣安佐郡山本村

明治十七年四月二日出生、同三十七年廣島第五師團第十一聯隊に入營し、後衛生隊の試驗に合格して日露戰役に出征、奉天、鐵嶺、昌圖に於て華々しく活躍す。第五師團は鐵道附近防衛の重大任務を負ひ、爆彈霰雨の中をよく戰ひ、重要地點であるので第九中隊の如きは一個中隊二百四十名中僅十六名生存した悲慘な場面を出現死體は壘々と山をなし血の海と化した。戰地に於て此等負傷者の應急手當を施した氏は陸軍から左の如き善行證書を下賜されてゐる。

善　行　證　書

廣島縣士族
第五師團歩兵第十一聯隊
陸軍看護手
勳八等　畑　輿一

右現役中品行方正勤務勉勵學術技藝ニ熱達ス因テ此證ヲ附與ス

明治四十年十一月十九日
歩兵第十一聯隊長
陸軍歩兵大佐
從五位勳五等功三級
石　田　保　謙

畑氏は除隊となつて後明治四十一年四月泰洋丸にて歸布、直ちにヒロに於て令兄貞之助氏の經營する畑商店に入り數年間勤務したが、天性獨立覇氣に滿つ氏は一九一二年自らワイ畑商店を創立、日米間の貿易に乘り出し、慧眼豪膽にして商略に富む氏は爾來時運と相俟ちて隆々と發展し、今や布哇商界の重鎭となつた。現にシエル・オイル布哇島一手販賣權を持つてゐるが一九二七年には中央に進出しホノルルに支店を設置した。

氏は多忙な實業界に生活し乍ら一方に於ては文筆の趣味深く、一九二六年には世界を漫遊して其見聞記を日布時事紙上に連載し、其達筆なると着眼の新鮮さを賞された。公共事業、育英事業にも盡力し、ヒロ本願寺敎團重役、同附屬日本語學校委員長を勤めてゐる。

夫人なえ子さんとは明治卅八年に結婚し、男八人女二人の子福者で、長男克巳君は慶大を卒業し、三男稔、四男弘、五男進君は何れも明大に學び、次男敏憲は米國醫大に學ぶ。この外長

ヨンを新設するや東西の自動車は織るが如く殺到する大繁榮を見るに至つたのである。

次で、一千九百十二年、北川グラーヂを設置し、布哇島同胞間で唯一の自動車エジエントを把握し、今日では數種の自動車を販賣し、堂々白人の向を張り大成功者として布哇各嶋によく知られてゐる氏は赤布哇島水產株式會社、社長日米酒造株式會社々長をつとめ其他公共諸團體の顧問並に重役として布哇島財界に重きをなし

哇島相撲協會副會長、ヒロ淨土宗明照院敎團事長、防長海外協會ヒロ支部長、布哇島日本人野球協會顧問を勤めてゐる。御清酒「國粹」の醸造元日米酒造株式會社副社長として敏腕を振ひつゝある。

氏の令閨は鄕里山口縣大島郡浦野村にあり、子女の敎養に專念されてゐる。同夫妻の間には二男四女あり、長男茂樹君は東京法政大學出身で昨年來布、爾來父君の許で簿記係を勤め、長

女ユキ子、六男明、七男義祝、八男實雄君がある。

山本清三

原籍　山口縣都濃郡富田町
現住所　ホノルル市ハイビスカス通三〇五五番地

明治十九年四月廿一日出生、同三十二年（一八九九）六月廿八日コブチヅク號にて來布し、義兄本重和助氏の經營する本重商店に勤務しつゝ英語を學び、一九一二年本重氏の歸朝後は、本重商店の經營者として事業を益々繁榮に導き日布貿易業者中に飛躍を見せ、此間日本を訪問すること數回に及んでゐる。

氏は東京市本重貿易株式會社取締役、太平洋銀行副頭取兼常務取締役を始め、實業界に幾多の重席を持ち、ホノルル日本人商業會議所會頭ホノルル日本人聯合協會理事長、伏見宮記念奨學會監査役、布哇日本人慈善會等に歴任し、現在日本武德會布哇支部會長にて商、財界及一般公共事業界に活躍す。

家庭には夫人キク子刀自と長男正治あり。

川崎喜代藏

現住所　ホノルル市北ククキ街二八五。

川崎旅館主にて、在留同胞の長老の第一人者である。第一回移民船東京市號で來布し、耕地就働を振り出しに長き奮闘の歴史を持つて居る旅館業者としても故參の一人で、實務は若き人々に委ね堅實發展の道を辿りつゝあり。氏は既に八十餘歳で、白髪長髯は見るからに崇高な感じがする。篤信のクリスチヤンにて街頭說教などしたこともある。

橋本萬槌

原籍　山口縣大島郡屋代村
現住所　ホノルル市マウイ街二四五五番地。

明治十八年二月一日出生、同四十一年（一九〇八）一月八日に來布し、ホノルル市西村旅館の事務員たること二年の後、精々堂商店に入り支配人として今日に至る。

氏は明朗なる頭腦と慧眼を持ち、克く商界の趨勢を洞察して商機に乘ずること極めて敏速にて、常に實業界の尖端を走り、精々堂をして今日の繁榮に至らしめた。氏は又內外人間の信用厚く、多年ホノルル日本人商業會議所の役員として邦人實業界の爲めに盡力したが、一九三七年には山本會頭の後に推されて會頭の重任を負ひ、更に在留邦人の統一的團體たるホノルル日本人聯合協會の理事長にも選ばれた。

育英事業にも熱心にて多年パラマ學園の役員として盡してゐる。家庭には夫人ナカ、長女政江、長男政雄、次男政人、三男三郎、四男芳雄次女ミチ子あり。

飯田鴻一

現住所　ホノルル市パウオワ街一九一〇
飯田擧山堂南ベレタニア街二〇一二二
出生　明治二十一年五月二十日、大阪市北區宗是町十二番地

渡布　明治三十九年十一月一日、ホノルルなる飯田擧山堂商店を經營せる父松吉氏を訪れ

ちに語學研究のためロスアンジエルスに赴き約五年後歸布す。

修學　大阪商業學校卒。

職業　商業

父と共に飯田擧山堂商店を經營、父歸國後は益々其の商才を發揮しホノルル屈指の大商店たらしむ。ホノルル日本人商業組合組合長、ホノルル信用組合會計たり。

餘業　日本人聯合協會副會長、布哇講武館會長、布哇大神宮理事長、調和の道協會常務理事

生出　明治六年三月十九日、東京市神田區猿樂町。

渡布　明治二十九年三月五日。

職業　新聞社長。

東京にて英吉利刑法律學校英語法學科及東京藥學校修業、渡布して最初志保澤忠三郎氏經營のオアフ島ワイアナエ、ワイパフ及モロカイ島カウナカカイの各商店に勤むること四年其後同氏經營の布哇新報社に主筆たること七年、更にやまと新聞社即ち後の日布時事社に轉じその社長兼主筆として今日に至り同紙の

ちに語學研究のためロスアンジエルスに赴き約五年後歸布す。

修　學　大阪商業學校卒。

職　業　商　業

父と共に飯田掣山堂商店を經營、父歸國後は益々其の商才を發揮しホノルル屈指の大商店たらしむ。ホノルル日本人商業組合組合長、ホノルル信用組合會計たり。

餘　業　日本人聯合協會副會長、布哇講武館會長、布哇大神宮理事長、調和の道協會常務理事、佛教青年會管理者、フオート學園學務委員として同胞の指導に當つてゐる。

出羽五十人

現住所　ホノルル市北クアキニ街日本人病院

出　生　明治二十四年五月十八日、廣島縣高田郡來原村

渡　布　明治四十二年六月、ハワイ島カウパハラ耕地。

職　業　同四十四年ホノルル日本人慈善病院に事務員として入り、同病院クアキニ街に新築移轉、日本人病院となるや、主事代理となり更に主事に進み今日に至る。

餘　業　多年パラマ學園代表者として同校のために盡力し、本派本願寺教團會計、書籍商組合顧問、日本人商業信用組合取締役たり。

相賀安太郎

現住所　ホノルル市スプレツクルス街一五一八

事務所　ホノルル市ヌアヌ街日布時事社。

出　生　明治六年三月十九日、東京市神田區猿樂町。

渡　布　明治二十九年三月五日。

職　業　新聞社長。

東京にて英吉利刑法律學校英語法學科及東京藥學校修業、渡布して最初志保澤忠三郎氏經營のオアフ島ワイアナエ、ワイパフ及モロカイ島カウナカカイの各商店に勤むること四年其後同氏經營の布哇新報社に主筆たること七年、更にやまと新聞社即ち後の日布時事社に轉じその社長兼主筆として今日に至り同紙の發展に異常の努力を致した。此間明治四十四年オアフ島第一次の耕地勞働者大罷業に關聯して入獄すること二ケ月、其後大正十年にはホノルルに開催の世界新聞大會に參列し又華盛頓の世界軍縮會議を傍聽し、同十三年日本及鮮滿支地方を視察す。昭和九年十一月八日には故國訪問中、外務省關係民間功勞者の一人として新宿御苑の觀菊御會に御召を受けて參列す。伏見宮記念獎學會理事、ロータリー倶樂部會員、太平洋問題調査會顧問委員、汎太平洋同盟理事、ハワイ歷史協會及ハワイ美術協會々員、日米市民會議理事、著書には「布哇その折り〳〵」「菫の匂ひ」「日滿を覗く」あり、布哇言論界及內外人社交界に重きをなしてゐる。

相賀重雄

現住所　ホノルル市スプレツクルス街一

出　生　」一九〇五年九月三十日、ホノルル市

修　學　ホノルルにてセントラル・グランマースクール卒業後プナホースクールに學び、一九二四年卒業、布哇大學に一ケ年を過し、一九二九年ミゾリー大學を卒へバチエラ・オブ・アーツ及バチエラー・オブ・ジヤーナリズムの學位を得て歸布す。

職　業　新聞記者

就勞を振り出しに長き苦闘の歷史を持つて居る旅館業者としても故參の一人で、實務は若き人々に委ね堅實發展の道を邁りつゝあり。氏は既に八十餘歲で、白髮長髯は見るからに崇高な感

渡　布　明治三十九年十一月一日、ホノルルなる飯田掣山堂商店を經營せる父松吉氏を訪れ

歸布後父相賀安太郎氏經營の日布時事社英文欄記者となり今日に至る。此間一九三〇年より一九三一年まで日本朝鮮、滿洲等を視察す

餘　業　全米新聞協會、太平洋關係調査會、ホノルル・ライオンス・クラブ、布哇日系市民協會等に關聯して公共事業に盡力してゐる。

相賀誠子

日布時事社長相賀安太郎氏夫人は大津市の舊家の出であるが、夫君を援けて内外に活躍、永年婦人矯風會始めホノルル日本人婦人會其他の幹部に歴任し、社會、敎化及び社交界に活動す、一九三五年には夫妻揃つて故國を訪問、各方面を視察の後AKから布哇事情と日本の感想を放送して感動を與へた。

宮田喬一

ホノルル市北キング街三九五番地

出　生　明治十一年四月十四日、廣島縣佐伯郡五日市町に生る

渡　布　明治三十五年一月三日、ホノルル市。

職　業　商　業

最初ホノルル市フオード街ジョーダン呉服店デヴイス商會呉服卸部に勤務す。

一九〇七年ヌアヌ街和田商店を買收して宮田商店を開き、一九二四年切支店として開店したるパラマを本店とし、一九二五年現在の建物に移り、食料雜貨小賣店及酒店を經營して今日に至る。

餘　業　ホノルル日本人商業組合創立者の一人で、會計組合長等に歴任し、現在其組合長たり。其他日本人慈善會管理者、パラマ日本人町同志會々長を兼ね。社會的貢獻も大なり。

西島榮次郎

原　籍　福岡縣三井郡北野町

現住所　ホノルル市南クク牛街五三番地。

明治七年十月四日出生、同卅二年六月京都醫學專門學校卒業、同卅年内務省より醫術開業免狀を交附され鄉里なる九州生命保險會社の檢査醫に囑託せらる。同卅四年十二月十九日アメリカ丸にて來布し布哇縣醫術開業試驗に合格し加哇島カパアに開業、當時中央日本人會支部長に選擧せらる。明治四十二年四月醫術研鑽のため歸國し福岡醫大產科婦人科敎室に於て今濱、足立兩博士につき產科婦人科を伊東博士に又、小兒科を研究して大正元年歸布、ホノルルの現在の場所に醫院を開設した。更に大正五年歸國して福岡醫大に見學して翌年歸布す。氏は布哇日本人刀圭界の故參で、大正四年ホノルル日本人醫會理事、同八年會長に選擧せられた。

牧野金三郎

現住所　ホノルル市ニユー、クリオウオウ

事務所　ホノルル市北クキン街布哇報知社

明治十年八月廿八日に神奈川縣横濱市青木町に生れ、同三十二年四月布哇に來り、布哇島コナ及パパアロアに一ケ年滯して後、ホノルルに出で法律事務を執る傍ら、多年ホテル街ヌアヌ街角に牧野藥舖（後ピープルス・ドラッグと改名）を經營、其他にも種々の事業に關係した。大正元年十二月には日刊新聞布哇報知社を創立して新聞界に乘り出し、苦戰奮闘廿數年、其

努力は遂に酬ひられて今日の大を爲すに至る、氏は社主として自ら經營に當つて居る。言論界一方の旗頭で、去る一九二一年外國語學校取締法が實施せられるや氏は其非を鳴らし、主唱者となりて外國語學校試訴期成會を起し、之を援けて遂に合衆國大審院に勝訴の判決を得るの道を講じた。家庭に子供なくミチエ夫人と二人のみである。

君は趣味として釣魚を好み、每日曜、休日に

渡　布　大正元年十一月、オアフ島ワイアーナエ本願寺學園。

修　學　マウイ島ラハイナ・ルナ・スクールに

職業　商業
最初ホノルル市フオード街ジョーダン呉服店デヴイス商會呉服卸部に勤務す。
一九〇七年ヌアヌ街和田商店を買收して宮田商店を開き、一九二四年頃支店として開店したるパラマを本店とし、一九二五年現在の建物に移り、食料雜貨小賣店及酒店を經營して今日に至る。
餘　業　ホノルル日本人商業組合創立者の一人で、會計組合長等に歷任し、現在其組合長たり。其他日本人慈善會管理者、パラマ日本人

ナ及パパアロアに一ケ年暮して後、ホノルルに出で法律事務を執る傍ら、多年ホテル街ヌアヌ街角に牧野藥舖（後ビーブルス・ドラツグと改名）を經營、其他にも種々の事業に關係した。
大正元年十二月には日刊新聞布哇報知社を創立して新聞界に乘り出し、苦戰實踐廿數年、其

努力は遂に酬ひられて今日の大を爲すに至る、氏は社主として自ら經營に當つて居る。言論界一方の旗頭で、去る一九二一年外國語學校取締法が實施せられるや氏は其非を鳴らし、主唱者となりて外國語學校試訴期成會を起し、之を援けて遂に合衆國大審院に勝訴の判決を得るの道を講じた。家庭に子供なくミチエ夫人と二人のみである。
君は趣味として釣魚を好み、毎日曜、休日には多くは波上の人となり、悠然糸を垂れて鮮鱗を獲るを樂しむ、又家にありては、花を床上に生け、その自然の艶容楚楚に對して無我の境に入る。君が其の人生戰場に勇猛無比なる反面に此の閑境を有するの點正に水火一如の妙用が偲ばれる。

東海林甚七

出　生　明治二十一年四月三日、福島縣伊達郡掛田町字北町十九番地
渡　布　明治四十年六月二十二日、オアフ島エワ耕地
職　業　旅館主
最初エワ耕地に就働、六ケ年後ワヒアワ耕地にスケール係りを勤め、大正九年東北ホテルを讓受けて今日に至り最近はヌアヌ溫泉を買收し共經營にも當つてゐる。
餘　業　福島縣海外協會ホノルル支部長、ホノルル旅館業組合長、ベレタニア・リバー同志會々長、中央學院理事、日本人聯合協會評議員、曹洞宗別院監査役、赤十字特別社員等を勤め公共社會事業に盡力して居る。

松井登太良

現住所　ホノルル市カイムキ十七番街一〇〇四番地
出　生　明治二十六年四月六日、滋賀縣滋賀郡阪本村。
渡　布　大正元年十一月、オアフ島ワイアーナエ本願寺學園。

修　學　マウイ島ラハイナ・ルナ・スクールに三ケ年英語を研究す。
職　業　銀行支配人
オアフ島ワイアナエ本願寺學園及マウイ島本願寺學園勤務、布哇島ヒロ人民銀行日本人部主任を經、大正十年ビショップ銀行ヒロ支店に入社、大正十四年九月轉じて太平洋銀行支配人に就任した。

緒方清四郎

現住所　ホノルル市ハラ・ドライヴ一〇二〇
出　生　明治十四年十二月十五日、熊本市東寺原町一〇四番地。
渡　布　明治三十一年十月ホノルル。
修　學　ホノルルにて苦學學僕生活をなす。
職　業　布哇耕主組合移民課主任。明治三十五年布哇耕主組合日本人部に勤め、爾來勤續すること三十餘年、同組合移民課主任として勞働者輸入の支配をしてゐる。
餘　業　株式會社肥後商會を創め、又田代軍藏木村正作氏と共同して東京に手提金庫製造事業を開始せることあり。現在蓄音機のモーターに關する十六の專賣特許權を有し、東京大森の工場で製造販賣事業を經營してゐる。

龍溪玄深

現住所　ホノルル市マウナレイアベニュー三四五六番地
布哇中女學校長

明治二十四年十二月七日福井縣敦賀郡敦賀市字橋に出生

氏は明治四十三年三月京都市平安中學を經て第四高等學校に入り、大正六年六月京都帝大を卒業、大正八年三月招聘されて來布し、ヒロ學園長兼ヒロ中學校長に就任、ヒロに在ること五年、後大正十四年（一九二五）一月淺野孝之氏の後を繼ぎ、ホノルルの布哇中學校、布哇高等女學校長に就任して今日に至る。佛教青年會理事、伏見宮記念獎學會審記等に歷任、教化事業にも盡力してゐる。

中野教一

現住所　ホノルル市南クキン街九五一。

廣島縣出身で、現在ボンタン商會社長でありボンマシー呉服店主であるが、以前永らく佐村商店に勤め、又米倉商會食糧品部の主任も短期

間やつたことがある。物靜かな人であるが、其の頭腦は頗る冴え、商機を視るに敏である。ボンタン商會が進んで止まぬ婦人の服裝に眼を付け、高級フランス式から大衆的なものまで、あらゆる新スタイルと品質、柄、價格の點に於て各種の希望を立所に充たすべく特徴を發揮したことこそ今日の大發展を生むに至つたものであり、且つ同氏の誰よりも早く此點に着目實施したことも氏の才能を實證するものである。氏は最近恩賜記念館建設に五百弗を寄附したが、一般社會、育英にも盡力して居る。ホノルル酒造製氷株式會社の取締役第一副社長としても信任が厚い。

堀内良平

現住所　東京市深川區富岡町二ノ一

原　籍　山梨縣西山梨郡甲運村

明治十三年一月四日出生、少年時代十ケ年間東京三枝商店に勤め、明治卅四年八月來布し、ホノルルの三枝商店に入り、後同店パラマ分店に入り支配人となる。此を讓受けてからは堀内商店と改稱し日米雜貨を商つて大發展、多年商業組合長及幹部として盡瘁した。昭和初年歸朝して數年靜觀してゐたが、同十二年初めから前記の場所に文房具雜貨並に煙草店を經營、好成績を擧げてゐる。

山本常一

現住所　ホノルル市メルローズ・レーン・ビー一四七九

原　籍　岡山縣。

ホノルル酒造製氷會社書記、營業支配人として專ら對外的の差配に當り、如才なく立廻つて居る。一度渡米した事あり、布哇報知記者から各種販賣業者に轉じ、大正活版に入り電報新聞を三ケ月ばかり發刊した事あり、現在大正印刷株式會社の取締役であり、マキキ日語校父兄代表である。

後藤萬吉

現住所　ホノルル市南キング街一四七二。

廣島縣出身、ホノルルに於ける同胞建築請負業界の故參の一人で、大成功して歸朝し故國の斯業界に乘り出したが、布哇が忘れられずに再び歸布した、現在アロハ建築會社長として盛んに營業してゐるが、布哇日本人慈善會、建築請負業總合、其他數個の團體の幹部で、一般日本人社會の爲めにも大いに盡力してゐる。

高橋徳衛

原　籍　福島縣相馬郡小高町荒町

現住所　ホノルル市北ベニヤード街九五番地

明治十八年十一月二十日出生、同四十三年十二月廿七日東京帝大醫科を卒業し更に同月より大正二年二月まで帝大附屬病院近藤外科に在勤

淺海庄一

原　籍　山口縣都濃郡久保村

現住所　ホノルル市カイムキ十七番街七四二番地。

らゆる新スタイルと品質、柄、價格の點に於て各種の希望を立所に充たすべく特徴を發揮したことこそ今日の大發展を生むに至つたものであり、且つ同氏の誰よりも早く此點に着目實施したことも氏の才能を實證するものである、氏は最近恩賜記念館建設に五百弗を寄附したが、一般社會、育英にも盡力して居る。ホノルル酒造製氷株式會社の取締役第一副社長としても信任が厚い。

堀内良平

業界の故參の一人で、大成功して歸朝し故國の斯業界に乘り出したが、布哇が忘れられずに再び歸布した、現在アロハ建築會社長として盛んに營業してゐるが、布哇日本人慈善會、建築請

負業總合、其他數個の團體の幹部で、一般日本人社會の爲めにも大いに盡力してゐる。

高橋徳衛

原　籍　福島縣相馬郡小高町荒町
現住所　ホノルル市北ベニヤード街九五番地

明治十八年十一月二十日出生、同四十三年十二月廿七日東京帝大醫科を卒業し更に同月より大正二年二月まで帝大附屬病院近藤外科に在勤研究した。大正二年三月單西哥に渡り、翌年北米大陸を視察して歸朝、大正四年一月には支那浙江省杭州公立醫藥專門學校の招聘に應じて赴任し、大正六年七月まで同校外科教授として奉職した。大正六年八月より翌年五月迄帝大附屬傳染病研究所にて研究し、大正八年二月來布し布哇縣醫術開業試驗を受けてホノルルに開業しベニヤード街に移つて今日に至る。外科を得意とし手腕人格共に內外人間に信望あり、數回故國訪問、歐米巡遊、醫界の視察をした。多年日本人醫會の爲めに盡瘁し數回其幹部たり、一九三七年度に亦た會長に選ばれた。

河本勝一

原　籍　山口縣玖珂郡通津村
現住所　ホノルル市カイムキ十番街七四三〇

明治十四年九月二日出生、同三十二年十八歳の春志を樹てゝアメリカ丸に乘り、四月二十日來布す。初めモロカイ島耕地に於て一ケ年間就働し、ホノルルに出て後は布哇新報社に入りて活版工場に勤め、明治三十四年末やまと新聞即ち現在の日布時事の前身に轉じ、刻苦勉勵、此間職工長、營業部長を經て同社重役及總支配人

に立身して今日に至つたのであるが、其手腕は內外人より認められる。

氏は又貸家業を營みつゝあるが、新聞人として一般公共事業に盡す外に山口縣人同志會副理事、積善會顧問を兼ね聲望あり。

浅海庄一

原　籍　山口縣都濃郡久保村
現住所　ホノルル市カイムキ十七番街七四二番地。

明治廿七年五月九日出生、大正二年四月廿八日來布して數年間苦學す。大正四年ハワイ島ヒロに於ける雜誌「新世界」に執筆、大正五年三月には獨立して雜誌「布哇」を發刊したが、次で日布時事編輯局に入り後編輯長として敏腕を振ひ今日に至る。同氏はもとの聯合通信社時代以來の布哇通信員にて、現在同盟通信の特電を擔當してゐる。昭和五年には聯合通信社の依囑に依り高松宮及同紀兩殿下歐米より御歸朝の節御隨伴して歸朝給中の御動靜を報道した。

關屋吉太郎

原　籍　福岡縣福岡市瓦町一丁目
現住所　オアフ島ワヒアワ

明治三十五年七月十二日に來布、馬哇島ワイルク耕地に働き、後オアフ島ワヒアワに轉じて大貯水池開鑿工事を請負ひ僅か一ケ年で竣工せしめた。後に布哇アイランド・パツキング會社に入り鳳梨栽培の傍ら日米雜貨商を開業したが大正六年會社が布哇プロザービング會社と合併してカリフオルニア・パツキング・コーポレーションとなるや、氏は重役顧問相談役となる。氏は外に個人としてワヒアワ、ワイアルア、モクレアの各地に數百英町の鳳梨、甘蔗、バナナ等の大農園を有し、其他數種の事業の重責に携はり一大活躍をしたが、後に之を縮少した。公共事業や宗教、教育事業にも多大の盡力をしてゐる。又、君は曾て鳳梨事業で五、六十萬弗を贏ち得たことのある企業家で、今尙風雲の機を摑んで起たんとするの概あり、縣人特有の覇氣滿々たるものがある。

小田純二

原籍　廣島縣山縣郡壬生町
現住所　カイムキ十番街一二六五及びワイアラエ通二八〇八番地

一九一〇年に現在の建築請負業に進出したが氏はコンクリート建築に獨特の技倆を有し、事業は年を逐ふて隆昌に赴き、一九三〇年には株式會社に改組して愈々發展の域に達した。從來既に幾多の大コンクリート建築を完成し、今やコンクリート建築界の一大權威者である。

築山長松

現住所　ホノルル市リバー街一四九五
出生　一八九七年三月二十二日、ホノルル
修學　カママヌ校、マツキンレーハイスクールを經、伏見宮記念奬學資金を得て米大陸に學び、一九二四年シカゴ大學法科を卒へ法學士となり歸布す。
職業　ホノルル市郡檢事
最初ヒューバー・ケンブ代言組合員として一般法律事務を取扱ひ、一九二九年ホノルル市郡政府第三副檢事に任命され、一九三一年には第一副檢事に進み、一九三三年ライト市長より市郡檢事に任命され今日に至る。此間日系市民を代表して渡日し、日本政府と二重國籍問題及國籍離脫問題を協議し、又一九三四年大統領ルーズヴエルト氏來布の節、各國人聯合提燈行列の先頭に立ち一場の挨拶をなせり。
餘業　布哇檢保會社、ホノルル酒造製氷會社ホノルル洗濯會社、ナショナルモーゲージ・エンド・フアイナンス會社、日本人投資會社等の重役を兼ね實業界に活躍し、此間日系市民協會々長、日本人大學クラブ會長、佛教青年會々長等にも推されてゐる。

安森勝太郎

現住所　ホノルル市パシフイツク・ハイト二五三四
出生　明治十四年（一八八一年）七月十日、富山市櫻木町三十六番地
渡布　明治二十七年六月二十八日、ホノルル在住の父の許に來る。
修學　ローヤル・スクール、ホノルル・ハイスクール（現マツキンレー・スクール）及びプナホウ・カレツジに學ぶ。
職業　YMCA主事。
最初移民局通譯官となり、後ハインド・ローフ會社稅關事務部に勤務十餘年、一九二二年以來トレント信託會社に勤め、一九二八年ヌアヌ基督教青年會主事に就任今日に至る。此間布哇メソジスト信徒代表或は布哇基督教青年會を代表して左記大會に出席す。
一九一九年八月、北米オハイオ州コロンブス市開催萬國メソヂスト百年傳道記念大會。
一九二一年十月、日本東京開催、第八回世界日曜學校大會。
一九三一年八月、北米オハイオ州クリヴランド市開催、北米合衆國基督教青年會同盟大會
一九三二年七月、加奈陀トロント市開催、萬國基督教青年會第一世界青年大會。
一九三三年八月、比島バケーオ市開催、極東區域基督教青年會大會。
其他日本人共同墓地協會書記、ホノルル牧師會幹事、ホノルル基督教徒傳道團書記、滿洲傳道會布哇部幹事、ハリス記念教會日曜學校長等として活動して居る。

土屋精一

現住所　ホノルル市スター街二二四〇
出生　明治二十三年九月十五日、横濱
渡布　大正二年二月、ホノルル
職業　商業時報主幹
最初令兄牧野金三郎氏經營の布哇報知社勤務一九二〇年邦人間唯一の商業雜誌なる商業時報社を創め、一九三四年タイムス印刷事務所を買收し印刷所を兼ね今日に至る。

寺崎定助

現住所　ホノルル市マウナロア通三三〇九
出生　明治十三年十二月二十五日、北海國根室國根室郡和田村生
大正九年四月馬哇島ワイルクの馬哇新聞社を讓受け、社長兼主筆兼支配人として奮闘し大成功を收めた。マウイ島に於ける言論界の第一人者である。
餘業　ワイルク日本人會長、本願寺學務委員長、マウイ野球聯盟會長を勤め、社會公共事業に貢獻多大なり。

森藤定人

現住所　ホノルル市ピンハム街一八一六

職　業　商業時報主幹
最初令兄牧野金三郎氏經營の布哇報知社勤務一九二〇年邦人間唯一の商業雜誌なる商業時報社を創め、一九三四年タイムス印刷事務所を買收し印刷所を兼ね今日に至る。

寺崎定助

現住所　ホノルル市マウナロア通三三〇九
出　生　明治十三年十二月二十五日、北海國根室國根室郡和田村生
渡　布　明治三十九年八月
職　業　新聞記者
最初加哇島ケカハ日本語學校長勤務五ケ年、ホノルル中央學院、雜誌「實業之布哇」社を經、大正元年十二月日刊新聞布哇報知社編輯局に入り、主筆たること二十數年以て今日に至る。
餘　業　濵厚着實にして信仰厚くヌアヌ日本出基督教會附屬日曜學校長として同胞子弟の宗教的指導に熱心である。

安井里助

現住所　馬哇島ワイルク
生　明治十四年一月十二日、廣島縣佐伯郡人濱原村
渡　布　明治四十年七月十五日、ホノルル
修　學　明治三十三年廣島縣師範學校卒
職　業　新聞社長
最初鄉里にて小學校長勤務、來布後ホノルル本願寺學園及同布哇中學教師たること數ケ年轉じて布哇島パパイコウ本願寺學園長となる

大正九年四月馬哇島ワイルクの馬哇新聞社を譲受け、社長兼主筆兼支配人として奮闘し大成功を收めた。マウイ島に於ける言論界の第一人者である。
餘　業　ワイルク日本人會長、本願寺學務委員長、マウイ野球聯盟會長を勤め、社會公共事業に貢獻多大なり。

森藤定人

現住所　ホノルル市ビンハム街一八一六
出　生　明治二十二年六月三十日、山口縣玖珂郡伊陸村に生る。
渡　布　明治三十七年四月十八日、ホノルル
職　業　商　業
初め學僕生活をなし、英語を學ぶこと二ケ年其後商店會社に勤務し、一九一七年獨力にてラシヤ類卸商を開業。一九二〇年には株式會社布哇羅紗商會を創め、書記兼支配人として敏腕を揮つたが、一九三六年之を辭し獨力にて商店を經營中。尚日本人商業會議所の書記として信任厚し。

高桑周次郎

現住所　ホノルル市マウナケア街九五六番地
出　生　明治二十五年一月十日、東京市日本橋區濱町二丁目
渡　布　明治四十四年三月十五日、ホノルル
職　業　貿易商
初め實兄高桑輿市氏經營の高桑商店に勤務すること十數年、此間の經驗を以て一九二四年自ら老松商店を創め、日米雜貨食料品等の貿易に從事し今日の發展を致してゐる。
餘　業　ホノルル日本人商業會議所會計。

丸本正二

現住所　ホノルル市カイア街二三四
出　生　一九〇六年一月二十七日、ホノルル市
修　學　コナワイナ・ハイスクール、マウキン

系市民を代表して渡日し、日本政府と二重國籍問題及國籍離脫問題を協議し、又一九三四年大統領ルーズヴエルト氏來布の節、各國人聯合提燈行列の先頭に立ち一場の挨拶をなせり。
餘　業　布哇殖保會社、ホノルル酒造製氷會社ホノルル洗濯會社、ナショナルモーゲージ・エンド・ファイナンス會社、日本人投資會社等の重役を兼ね實業界に活躍し、此間日系市民協會々長、日本人大學クラブ會長、佛教青年會々長等にも推されてゐる。

一九三三年八月、比島バケーオ市開催、極東區域基督教青年會大會。
其他日本人共同墓地協會書記、ホノルル牧師會幹事、ホノルル基督教徒傳道團書記、滿洲傳道會布哇部幹事、ハリス記念教會日曜學校長等として活動して居る。

土屋精一

現住所　ホノルル市スター街二二四〇
出　生　明治二十三年九月十五日、横濱
渡　布　大正二年二月、ホノルル

レー・ハイスクール卒。伏見宮奨學資金を受け大陸に學び、一九二七年シカゴ大學にて哲學士、一九三〇年ハーヴアード法科大學にて法學士の學位を得。

職業　辯護士

最初トムソン代言組合に勤め、一九三二年八月獨立事務所を開き法律事務を扱ひ今日に至る。資性温厚、思慮周密にして將來を嘱望されてゐる。

餘業　布哇日本人公民協會副會長、佛教青年會幹部、日本人商業會議所監査、伏見宮記念奨學會委員などに歴任す。

朝比奈梅吉

原籍　靜岡市安西五丁目

現住所　ホノルル市ヌアヌ街

明治十三年六月五日出生、同二十九年東京市ヶ谷秀英舍に入り活版術を習得し、三十二年廣島に歸郷、藝備日日、廣島日報社に勤務し、明治三十六年五月布哇に渡航す。其他ヒロ新聞及布哇日日新聞の職工長たること約十ヶ年、次いで德城印刷所を三ヶ年經營したが、大正四年八月一日現在の布哇毎日新聞を買收し、個人經營として今日に至る。

氏は現に布哇毎日社々長兼支配人として、邦文英文各四頁の日刊新聞を發行する傍ら、十數年間ヒロ製麺株式會社の社長を勤めてゐる。一般社會公共事業にも努め、布哇島勞働同盟顧問ヒロ東本願寺重役、ヒロ日本人會常務理事、布佳島相撲協會々長の外、各種の團體の幹部に歴任蓮力して居る。

香川武雄

現住所　ホノルル市ハーディング・アヴエニユー三七三四番地

原籍　廣島市竹實町一六八五番地

出生　明治三十三年十月十八日マウイ島ラハイナに生る。

職業　保險會社長

日本留學後、一九二三年國際信託株式會社入社、信託業及保險部副支配人たり。一九三三年一月米國オクシデンタル生命保險會社布哇支店長に任命され、セキユリテー保險代理株式會社を組織し、各種保險事務を取扱ふ。國際ビルデング會社重役、セキユリテー保險會社々長、國際保險協會布哇支部副支部長、法律部委員並に會員部長、ホノルル商業會議所員、日系市民協會員として活動する少壯實業家なり。

德城信二

現住所　布哇島ヒロ市

原籍　廣島縣賀茂郡西志和村

安政四年十一月十二日出生、同十八年二月八日官約第一回移民船東京市號に搭じて來布、ニイハウ島牧場主ゲー氏の家庭に住むこと三年にして日本に歸つたが、明治二十一年十一月妻帶して再び來布し、同年十二月布哇縣政府の認可を得てホノルルに齒科醫院を開業す同胞中最初の齒科醫で、開業以來五十年斯業に携はり、社會公共の爲めにも盡したが、近年は斯業を令息に繼がしめて第一線から引退し、布哇と日本間を往來して餘生を送つて居る。氏は弓道の奨勵者としても亦貢獻大なるものがある。

小野義人

布哇住友銀行支配人、之迄の歴代の支配人中では恐らく第一番の隨筆家であり、心の鍛錬家でもあるらしい。營業の切り盛りにも伸々ソツがなく、先代村井福二郎氏の後を繼いで家風大事に要領よくやつて居る。他の銀行仲間にも評

職業　山城旅館支配人

ール卒後セントルイス校、太平洋學院、更に米大陸フイラデルフイヤなるテンプル大學に學ぶ。日本語は布哇中學出身。

でもあるらしい。營業の切り盛りにも仲々ソツがなく、先代村井縞二郎氏の後を繼いで家風大事に要領よくやつて居る。他の銀行仲間にも評判が好く、先づ天下泰平といふところであらう現住地はホノルル市アドルフ街一九〇一の社宅である。

諸橋宏

氏は横濱正金銀行ホノルル支店長、布哇の日本人銀行としては最古のものであり、又爲替及預金銀行として永い間在留民と最も密接な關係を保つて來た正金支店を預るに好適の人であり小粒だが何處かピリツとした感じのある人で、それに理財經世通で、又趣味も廣い。歴代支店長中でも評判の好い方である。現住地はホノルル市マノア街一九二〇の社宅である。

蘆野正

日本郵船會社ホノルル支店の支配人として任以來滿三年、內外に評判が好い。最近郵船は時代の波に乘つて非常に好況に面してをり、ホノルル出張所も頗る景気が好いが、之れ必ずも蘆野氏の手腕にのみ依るものではなからうが然し氏の人格と人氣は其の繁榮の上に大きな功績を垂れてゐる。好ましき紳士である。

山城正義

現住所　ホノルル市北ベレタニア街二〇六番地

出　生　一八九六年七月九日ホノルルに生る。

山城旅館主山城松太郎氏の次男なり。

修　學　一九一〇年ホノルル市ローヤル・スクール卒後セントルイス校、太平洋學院、更に米大陸ワイラデルフイヤなるテンプル大學に學ぶ。日本語は布哇中學出身。

職　業　山城旅館支配人

餘　業　一九三〇年一月の布哇縣會議員選擧に民主黨公認として下院議員候補に立ち、最初の日系縣會議員となる。

一九三二年の總選擧に再選、一九三四年にも民主黨公認として立候補したが僅少の差で落選した。然し氏の政治生活はこれからである日本人公民協會幹部、佛教青年會々計、同理事長、日本人民主黨クラブ會計等を歴任す。

久保田佐一郎

原　籍　廣島市仁保町字本浦

現住所　加哇島ワイメア。

廣島縣師範學校を卒業し鄉里で奉職中布哇から招聘を受け、大正二年七月に來布、加哇島ハナペペとワヒアワ兩校合併後同校に敎鞭を執り大正十一年九月にはワイメア日本語學校に轉任し現在其校長であるが、昭和十二年八月にはホノルルに轉任の由傳へられてゐた。

川崎正郷

現住所　ホノルル市リリハ街一五一七番地。

出　生　明治十二年七月二十八日、高知縣吾川郡小川村新別

渡　布　明治四十年七月八日

修　學　皇典講究所土佐分院にて古典を研究し神職社司試驗に合格す。

職　業　神官

員、日系市民協會員として活動する少壯實業家なり。

小野義人

布哇住友銀行支配人、之迄の歴代の支配人中では恐らく第一番の隨筆家であり、心の鍛錬家

明治四十一年八月ホノルル市アラレンの布哇大神宮社司に就任。大正五年リリハ街に敷地を購入し社殿其他を建立、同七年九月十五日遷座、同時に神道の布哇分院として神道大神宮教院を日本々院の直轄として神道管長允許の下に設置、布哇縣政府より神道布哇大神宮教團創立の認可をうけ、爾來本支部教務を管理す。

毛利元一

原　籍　石川縣江沼郡篠原村
現住所　ホノルル市ワイリー街
明治二十三年十一月二十二日出生、大正五年九州帝國大學醫科を卒業し、引續き同大學の醫化學教室及び三宅外科教室に在勤して二ケ年間實地研鑽に力め、大正八年十二月來布、翌九年に布哇縣醫術開業試驗に及第して同年嚴父伊賀氏と協同し、毛利醫院を經營して今日に至る。
氏は十數年間熱帶地と血液の關係を研究して一九三五年博士號請求論文を九州帝大醫學部審査委員に提出し、翌年醫學博士の稱號を許された。篤學の士であると同時に亦外科の權威である。

古野保

現住所　ホノルル市カイムキ第四番街一〇四五。
出　生　明治二十四年五月二十日、福岡縣宗像郡河東村大字須恵原
修　學　福岡豫習館卒、來布後アリオラニカレツヂに學ぶ。
職　業　保險業
初めホノルル本願寺別院並に佛教青年會及同婦人會書記、次いでオアフ島ワイマル本願寺學園長、エワ同學園長、カウアイ島カパア本願寺學園長、ケアリア同學園長に歷任す。大正十四年教職を去りヴオンハムヤング商會生命保險部日本人支配人となり今日に及ぶ。

古屋熊次

現住所　ホノルル市ギュリック街八一一
富士商會南ベレタニア街六〇一六二
出　生　明治二十二年二月二十二日、山梨縣南都留郡河口村
渡　布　明治四十年三月二十七日、ハワイ島ハイナク耕地。
修　學　農業補習學校。
職　業　商　業
初めハイナク耕地、マウイ島カエクリ耕地に働き、一九一二年同志とホノルルに富士商會設立、日米家具裝具の販賣に從事し今日に及ぶ。
ホノルル日本家具商組合理事長、ホノルル日本人商業組合監査役、布哇山梨縣人會相談役を兼ね各方面に活躍す。
趣　味　俳句、文藝、インドアボール。

福田闡正

現住所　ホノルル市マキキ街一四二九
出　生　明治九年十一月一日、愛知縣丹羽郡布袋町大字五明百五十二番地
渡　布　昭和二年八月、淨土宗ホノルル別院
職　業　淨土宗布哇開教監督、明治三十七年軍隊布教使として渡滿、翌年滿洲開教使を拜命爾來二十三年間教會を創立せしもの八、常に滿蒙を旅行し屢々滿鐵、關東廳、日本政府に

献策せり。滿支シベリヤ方面の事情に精通す

ホノルル別院着任後は布哇淨土宗教團の組織負債整理、敷地の購入、鐵筋コンクリート三階建の本堂及庫裡新築、境内整理等別院興隆のため盡瘁す。

當山哲夫

原　籍　沖繩縣中頭郡與那城村字伊計

米國政府の特許權を得てゐる。

氏は又勞資の協調に思ひを致し、之が實現を目差して在來の運動倶樂部を改造し、ワイパフ社交倶樂部を起し、久しく其の理事長として活動貢獻した。ワイパフ耕地有力者の一人で、一般から信望を得て居る。

川崎三藏

現住所　布哇島ヒロ市カマナ街

献策せり。滿支シベリヤ方面の事情に精通す
ホノルル別院着任後は布哇淨土宗教團の組織
負債整理、敷地の購入、鐵筋コンクリート三
階建の本堂及庫裡新築、境内整理等別院興隆
のため盡瘁す。

當山哲夫

原籍　沖繩縣中頭郡與那城村字伊計
現住所　ホノルル市スツリーム通二五三一番
地。

明治十六年四月八日出生、日露戰爭當時は第六師團の歩兵として出征、名譽の負傷をした。明治三十九年九月二日渡布、砂糖耕地の勞働者を振出しに漁夫、湯屋働き、クツク、商店員、活動寫眞助手等轉々と苦酸を嘗め、ホノルルに出て雜誌聽鐘社に手を着けて雜誌界に入り、大正六年同鄉友人の發刊する雜誌を引受けて「實業之布哇」と改題、爾來これに全力を傾注して夫人と倶に苦心經營繁榮し、一九三六年發刊二十五周年を迎へた。社長兼主筆として活躍中。

宮城武夫

現住所　オアフ島ワイパフ
原籍　山口縣玖珂郡日積村

明治二十二年四月八日出生、大正三年一月十日來布し、ワイパフに至り耕地商店に勤務したが、性來機械、汽罐等の製作研究に興味と天分を持つて居たので、遂に同耕地設計部に轉じ、今や製糖部の主任として數名の助手を督勵し、重きを爲してゐる。職務の餘暇には發明研究に沒頭し、今日までに瓦氣制動機、甘蔗運搬機等十數種の工夫發明をして居るが、其中の八種は米國政府の特許權を得てゐる。

氏は又勞資の協調に思ひを致し、之が實現を目差して在來の運動倶樂部を改造し、ワイパフ社交倶樂部を起し、久しく其の理事長として活動貢獻した。ワイパフ耕地有力者の一人で、一般から信望を得て居る。

川崎三藏

現住所　布哇島ヒロ市カマナ街
原籍　廣島市南觀音町三丁目

氏は年少青雲の志を抱いて三十六年前遙々布哇に渡り、各種の事業に就職し乍ら刻苦勉勵し十數年前より建築請負業に乘出したが、氏の明朗にして且つ豪快、機を見るに敏なると相俟ちて年々事業は繁榮した。ランバーヤードを開始してからも既に十六年になるが、これが又建築請負と相俟つて頗る成功し、今や斯界の重鎭として內外から認められてゐる。本業の外一般公共事業にも盡瘁し、共貢獻洩からぬものがある本年母國を觀光す。

安藤要助

現住所　ホノルル市ハウステン街八三〇番地
鄉里　福島縣出身

建築界でも古參の方で、着々と堅實な道を歩んで今日の成功を來したものであつて、一九三七年には日本人請負業者組合の組合長に選ばれた。確實な手腕と着實な風格で內外人間の信用厚く、組合の大世帶を圓滑に運轉してゐる。

小林元一

現住所　馬哇島カフルイ
出生　明治十二年三月一日、廣島縣深安郡道上村字道上
渡布　明治卅二年九月、馬哇島プウネ、耕地
職業　商業

初めプウネ、耕地に就働、其後カフルイに出で石金商店、村岡商店、カフルイ酒類商會を經、大正三年同地に小林商店を開き日米雜貨

出生　明治九年十一月一日、愛知縣丹羽郡布袋町大字五明百五十二番地
渡布　昭和二年八月、淨土宗ホノルル別院
職業　淨土宗布哇開教監督、明治三十七年軍隊布教使として渡滿、翌年滿洲開教使を拜命爾來二十三年間教會を創立せしもの八、常に滿蒙を旅行し屢々滿鐵、關東廳、日本政府に

修學　福岡豫備門卒、來布後アリオラニカレツヂに學ぶ。
職業　保險業

初めホノルル本願寺別院並に佛教青年會及同緣人會書記、次いでオアフ島ワイマル本願寺學園長、エワ同學園長、カウアイ島カパア本願寺學園長、ケアリア同學園長に歷任す。大正十四年教職を去りヴオンハムヤング商會生命保險部日本人支配人となり今日に及ぶ。

呉服食料品を販賣、一九三五年には馬哇酒醸造株式會社の社長となり今日に至る。東部馬哇日本人商界の有力な一人である。

餘　業　馬哇神社教團役員

ワイルク本願寺護持會理事、カアルイ日本語學校會計として社會公共事業に盡力す。

三枝欽三

山梨縣に生れ渡布後米倉商會に入り、故團三郎氏の歿後米倉商會主となつて今日に至る。資性温厚にして物靜かなれど意志強く、内外の信用厚く業務發展、商業會議所でも多年會計の重任に在つたが、今回第二副會頭に推されて益々重きを加へてゐる。趣味としてゴルフを樂しみ商界に對しても盡瘁深きものがある。

寺河内宇作

現住所　ホノルル市クアキン街十番地

出　生　明治二十二年九月四日、山口縣熊毛郡島田村

渡　布　明治四十年一月二十日、ハワイ島ハカラウ耕地

職　業　寫眞業

最初ハカラウ耕地に就働約一ケ年、其後寫眞業に携はり、又ホノルルに出て寫眞術を專攻すること數年、ホテル街二十番地の現在の所に美術寫眞館を創めて漸次發展す。

餘　業　ホノルル寫眞業組合長、オアフ寫眞協會々長及相談役等を勤め、斯界に對する貢獻大なり。

開屋長次郎

ホノルル市北ホテル街開屋理髪店主、明治七年愛媛縣松山市土橋に出生、明治三十三年月三日來布、數年後理髪店を開業し古參であり又成功者である。公共事業にも熱心で、ホノルル日本人理髪業同盟會々長、布哇日本人協會幹部として多年盡力多大なり。

黒川哲爾

現住所　ホノルル市セレノ街一八三〇

温厚篤實の士で社の内外に信用厚く、上田前社長の後を受けて社長に就任して以來、業務は益々繁榮してゐる。來布當時教師を振出しに禁酒前は住田商會員として勤務し信任厚かつた本願寺教團の幹部でもあり、教育事業にも盡瘁してゐる。

松平融

現住所　ホノルル市北キング街九七五番地

出　生　明治二十八年十一月十九日、愛媛縣實飯郡御津町廣石二十八、二十九合併地

渡　布　昭和七年八月、東本願寺布哇別院

修　學　京都大谷大學卒

職　業　東本願寺布哇別院輪番

最初度兒島駐在布教師、大谷大學々生課長を經、名古屋刑務所關係免囚保護事業に從ふ。渡布後東本願寺布哇別院輪番として、ホノルル東本願寺教團長、カネオへ同教所主任及教團長を兼ね今日に至る。

宮王重丸

出　生　明治三十六年四月十五日、廣島縣比婆郡峰田村二二六番屋敷

渡　布　昭和六年五月二十九日、ホノルル。

修　學　東京國學院大學國文學卒、文科士となり、出雲大社教權少教正、皇典研究所學階學正豫備陸軍歩兵少尉等の資格を有す。

職　業　出雲大社教海外布教師。

著布後ホノルル出雲大社教布哇分院布教師として父を補け神道の宣揚布教に從事し、昭和十一年父の歿後分院長の職を繼ぎ今日に至る

丹生實榮

現住所　ホノルル市セリダン街九一五番地

出　生　明治四年四月十六日、京都府天田郡西中筋村觀音寺四十六番地。

渡　布　明治四十二年十二月ホノルルに赴き十ケ年後歸朝、昭和七年再渡布。

修　學　早稲田大學文科卒。

職　業　宗教家。

本願寺附屬布哇中學校に教諭、後校長として約十ケ年在任、歸朝して高野山中學校長兼同大學々監、同山圓滿院住職、兵庫縣美方郡射添村長業寺住職に歴任。昭和七年六月三十日十日本派本願寺開教使としてホノルルに上陸した。六ケ年オアフ島ワイパフに駐在した後、大正二年九月馬哇に轉任して留まること三年、大正四年五月には加哇ケアリア本願寺に移り爾來十ケ年布教と教育事業に携はり、大正十三年十一月同島ワイメア本願寺に轉じて今日に及ぶ。

岡本讃則

大なり。

關屋長次郎

ホノルル市北ホテル街關屋理髪店主、明治七年愛媛縣松山市土橋に出生、明治三十一三年月三日來布、數年後理髪店を開業し、斯界の古參であり又成功者である。公共事業にも熱心で、ホノルル日本人理髪業同盟會々長、布哇日本人協會幹部として多年忠勤、盡力多大なり。

職　業　出雲大社教布哇分院布教師として父を補け神道の宣揚布教に從事し、昭和十一年父の歿後分院長の職を繼ぎ今日に至る

丹生實榮

現住所　ホノルル市セリダン街九一五番地

出　生　明治四年四月十六日、京都府天田郡西中筋村觀音寺四十六番地。

正豫備陸軍步兵少尉等の資格を有す。

渡　布　明治四十二年十二月ホノルルに赴き十ケ年後歸朝、昭和七年再渡布。

修　學　早稻田大學文科卒。

職　業　宗教家。

本願寺附屬布哇中學校に教諭、後校長として約十ケ年在任、歸朝して高野山中學校長兼同大學々監、同山圓滿院住職、兵庫縣美方郡射添村長樂寺住職に歷任。昭和七年六月三十日布哇眞言宗別院監督として再渡布して今日に至る。

駒形善教

現住所　ホノルル市ヌアヌ街一五七八番地。

出　生　明治九年一月九日、新潟縣南魚沼郡城內村字長森六六。

渡　布　大正八年七月十七日。

修　業　東京曹洞宗中學及大學卒。大正二年より八年迄曹洞宗眞主新井石禪師に師事す。

職　業　曹洞宗布哇開教監督、初め鄕里城內村善照庵住職、布教師、免囚事業に從事す。來布後大正十一年四月曹洞宗別院主任並に同布教開教監督に就任す。其他曹洞宗附屬ヌアヌ實科高等女學校及學校長、ヌアヌ和敬學園長、ヌアヌ和敬中學校々長である。

山根宇一

原　籍　山口縣熊毛郡東荷村一九九

現住所　ホノルル市北キング街二二九五番地

明治二年七月二十五日出生、同二十九年五月十日自由移民として加奈陀經由ホノルルに上陸クック學校を創立し、其生徒になり英語をも習得其後苦學力行、明治三十四年五月カリヒの現場にヌアヌ教會內に高等雜記學校を起して簿記法を修得した。其後土地家屋共他不動產に投資して發展し、アラ市場株式會社、布哇水產漁業會社其他各方面に關係して重席を占めた。現在山根商會主として日本語教育、宗教の方面にも多大なる貢獻をなしてゐる。

大江法爾

原　籍　福井縣坂井郡春江村大字隨應寺

現住所　加哇島ワイメア

明治十三年一月五日出生、同四十一年七月三十日本派本願寺開教使としてホノルルに上陸した。六ケ年オアフ島ワイパフに駐在した後、大正二年九月馬哇に轉任して留まること三年、大正四年五月には加哇ケアリア本願寺に移り爾來十ケ年布教と教育事業に携はり、大正十三年十一月同島ワイメア本願寺に轉じて今日に及ぶ。

岡本讚則

原　籍　高知縣長岡郡田井村

現住所　ホノルル市カイムキ第四番街一〇三八番地

明治二十一年八月十日出生、同四十年六月來布し、自動車關係事業の有望なるを觀じて自動車修理修繕の技術を習得、邦人最初のリペアシヤツプ藤井岡本自動車修繕所をパラマに開設した。其後業務の發展に伴ひ株式會社に改組してパラマ自動車商會とし、修繕工場を完備すると同時にシボレー自動車の公認代理店となりて、自動車及び附屬品の販賣に從事して今日に及ぶ氏は又教育事業等にも貢獻してゐる。

渡邊七郎

原　籍　福島縣耶麻郡岩月村

現住所　ホノルル市キヤムペル街三四一〇番地

明治二十二年二月二日出生、同四十二年三月福島縣會津中學校を卒業し、大正二年北海道廳立札幌師範學校第二部を卒へて教員生活に入る大正五年布哇島ヒロ實踐女學校教諭として招聘せられ來布す。爾來二、三校に轉勤の後ホノルル市ワイキキ日本語學校長に就任して今日に至る。職務の餘暇に布哇大學文科生として通學、之を卒業した。また布哇の史實研究に熱心で、昭和五年八月に邦文「布哇歷史」を、同十一年に其改訂版を出版した。

脇本勝一

原　籍　山口縣熊毛郡田布施町

現住所　ホノルル市ホロカハラ・レーン一六二八番地

明治二十二年二月二日出生、明治三十五年八月一日來布してワイパフに於ける叔父の商店に二ケ年間手傳ひ、後出府磯島商店員となり、更

にホノルル・ツレーヂング商會、ソルトン・エンド・ニーア商會に勤め、大正十二年同商會主タムソン氏がアメリカン・フアクターズ商會のヴライ・グツヅ部支配人に轉ずるや、誘はれて同商會の同部に入り今日に至る。多趣味にしてスポーツ界にも活躍す。

田坂聞政

原　籍　廣島縣賀茂郡西志和村
現住所　廣島縣佐伯郡大野村赤崎
明治十八年十月三日出生、明治四十年七月京都幾敎大學在學中、本派本願寺より布哇開敎使として出張を命ぜられてホノルルに來り、本願寺別院に三年間駐在、後加哇島コロア布敎場に赴任し、一年の後には馬哇島ラハイナに轉じて十年間布敎傳道の傍ら同和學園長として敎育事業にも盡瘁した。大正十一年歸朝し同十三年再び來布、別院詰となつたが、昭和の初め歸朝して廣島市安藝高等女學校の敎諭を奉職し、歸朝及び留學の第二世女學生を善導して今日に至る。

原田常太郎

原　籍　佐賀縣小城郡晴田村
現住所　ホノルル市北キング街八八四番地
明治十二年八月十二日出生、明治三十二年十一月來布、布哇島ヒロ附近の耕地に勞働後、オアフ島エワ耕地に移り、此處にて多年請負仕事に從事した。明治四十三年ホノルルに移り土木建築請負業を開始し、原田三交社を經營繁昌したが、後之を閉店し、昭和七年頃までワイキキ・インを經營し、之を讓渡して後は昭和九年から北キング街の現在の地所にアレキサンダー原田ホテルを經營して今日に至る。

河野喜好

原　籍　福岡縣三池郡二川村渡瀬
現住所　ホノルル市南ベニヤード街四二番地
明治十九年十二月十四日出生、大正十四年十二月八日九州帝國大學醫科を卒業して醫學士となり、數年間臨床の研究をして後、大正六年來布、布哇縣醫師開業試驗に合格してベニヤード街に開業し今日に至る。一九三六年には日本人醫師會の會長に選任された。

濃人欽一

原　籍　廣島市仁保町
現住所　加哇島ハナペペ
明治十五年二月十八日出生、明治三十年七月來布、布哇島で二ケ年耕地勞働の後、加哇島ケアリアに移り一ケ年後歸朝し日露戰爭の爲補充兵徴集に應じて兵役に服した。明治四十年五月再び來布、加哇島ワイメア王堂支店長となつて後ワイメア・ワイン商會に入つて支配人となり九ケ年勤續、禁酒法實施で同商會が解散されて後ホワイトミシン加哇代理店を經營して發展す大正十年にはワイメア・グラージを創立し共支配人となつた。氏は現在ハナペペに商店を經營し、ハナペペ・ワイン商會の支配人でもある會ではハナペペ貯金會社、故國紹介活動寫眞等に於て活動し、廣島縣海外協會役員、ワイメア水害救濟、母國大震災義捐金募集、獻身的母國訪問見學團主宰等、社會公共事業にも大なる努力を拂つてゐる。

伊勢本久人

現住所　布哇島ヒロ市ビイラニ街
明治三十年一月八日廣島縣佐伯郡八幡村に生る、同四十五年（一九一二）六月天洋丸にて來布す。直ちにヒロに渡りて各種の事業に携はつたが、一九一九年に獨力で請負事業を開始し、奮闘努力遂年隆盛に至らしむ。一九二五年には事業の擴張に伴ひ個人經營の不利を感じて株式會社に改組し、名も伊勢本請負株式會社と改めた。氏自ら社長兼支配人として事業は益々繁榮して居る。
家族にはチヨノ夫人、長女愛子、長男俊久、次女ユキエ、三女トミエ、次男俊次あり。

田原治久馬

原　籍　廣島縣甲奴郡階見村
現住所　ホノルル市フオート街一八四七番地

明治二十一年八月一日出生、同三十七年三月三十一日來布、砂糖耕地勞働、米人家庭働きの後明治四十年米人齒科醫の助手として勤務しつゝ英語を勉强すること十ケ年、大正五年米國パンダビルト大學に入り之を卒業してドクトル・オヴ・デンタル・サーゼーの學位を得、更にデルタ・シグマ・デルタ齒科醫學會の會員となる大正八年八月布哇縣醫術開業試驗に合格して開業今日に至つたが、氏は日本人齒科醫會長となつ

現住所　ホノルル市南ベレタニア街
明治四十五年二月父の呼寄で來布、大正七年米國選拔徴兵に應じ一ケ年兵役に服し、除隊後布哇新報社員となる。大正十四年三月には獨立して雜誌販賣業を開始し、大正十五年には明治大帝像業泰讃會布哇支部長を嘱託せられ明治大帝御寫眞帖を頒布した。この外廣く活動してゐる

河野一幸

河野喜好

原　籍　福岡縣三池郡二川村渡瀬
現住所　ホノルル市南ベニヤード街四二番地
明治十九年十二月十四日出生、大正十四年十二月八日九州帝國大學醫科を卒業して醫學士となり、數年間臨床の研究をして後、大正六年來布、布哇縣醫師開業試驗に合格してベニヤード街に開業し今日に至る。一九三六年には日本人醫師會の會長に選任された。

田原治久馬

原　籍　廣島縣甲奴郡階見村
現住所　ホノルル市フォート街一八四七番地

明治二十一年八月一日出生、同三十七年三月三十一日來布、砂糖耕地勞働、米人家庭働きの後明治四十年米人齒科醫の助手として勤務しつゝ英語を勉强すること十ケ年、大正五年米國パンダビルト大學に入り之を卒業してドクトル・オヴ・デンタル・サーゼーの學位を得、更にデルタ・シグマ・デルタ齒科醫學會の會員となる大正八年八月布哇縣醫術開業試驗に合格して開業今日に至つたが、氏は日本人齒科醫會長となり、現在布哇米人齒科醫師會、全米齒科醫師會々員である。國際基督教青年會に關係し、社會的にも多大な盡力をいたしてゐる。

上原與吉

原　籍　沖繩縣島尻郡大里村字與那原
現住所　オアフ島ワイパフ本町
氏は明治二十二年十一月五日出生、鄉里の中學校を經て東京慈惠會醫科大學に學び、大正五年これを卒業し、次いで各地の病院に勤務して實地臨床の經驗を重ね、大正六年八月十八日布哇に渡來した。大正十一年九月、布哇縣醫術開業試驗に合格、ワイパフに開業して好評今日に至る。

猫本俊一

原　籍　廣島縣安佐郡三川村字古市
現住所　ホノルル市ハウオリ街九一一番地
明治三十二年八月二十三日ホノルルに上陸し布哇島オーラー九哩に四ケ年間耕地勞働し、明治三十六年十二月にはオアフ島アイエア耕地經營の酒店に轉じて三ケ年間勤續、明治四十年獨立して酒店を開業した。大正元年にはアイエアを引揚げてホノルルに出で、土木建築請負業並に建築材料販賣に從事して今日に至る。曾ては日本人請負業組合長として大いに活動の歷史を殘してゐる。

松坂　茂

原　籍　熊本縣菊池郡大津町に明治二十八年九月一日生る

現住所　ホノルル市マオ・レーン（シー）一二〇二、南谷北クキン街七二〇二
出　生　明治二十三年三月二十四日、福島縣安達郡由井村生
現住所　ホノルル市南ベレタニア街
明治四十五年二月父の呼寄で來布、大正七年米國選拔徵兵に應じ一ケ年兵役に服し、除隊後布哇新報社員となる。大正十四年三月には獨立して雜誌販賣業を開始し、大正十五年には明治大帝像業奉讚會布哇支部長を囑託せれ明治大帝御寫眞帖を頒布した。この外廣く活動してゐる

河野一幸

原　籍　熊本縣下益城郡豐福村字豐福
現住所　オアフ島ワイパフ町
明治四十年七月一日來布しホノルルに於て米人家庭勞働と自動車運轉業を七ケ年營み、大正七年日本に歸り佐賀縣武雄溫泉にて自動車運轉業を開始したが、一ケ年にして再び來布、大正八年にワイパフ赤星藥店支店を讓受けて星光堂と改稱、日米各種賣藥並に小間物化粧品の直輸入販賣を爲し、後河野藥舖に改名、益々發展して店舖新築、河野藥器店も起し兩輪相俟つて業晴らしく繁昌してゐる。

林　吾一

原　籍　廣島縣雙三郡君田村字石原
現住所　オアフ島スコーフイールド・バラックス
明治四十一年五月來布、馬哇島キパフル耕地及布哇島等で普通勞働に從事し、大正二年出府して多年洋服仕立を研究し、一九一七年七月歐洲大戰當時にオアフ島スコーフイールド・バラックス內の大崎洋服店に入り、一九二二年九月に同洋服店を讓り受け、一九二七年三萬弗の株式會社に改め、米國陸軍御用軍服仕立所となる林氏は其社長で職人三十數名を使ひ繁榮してゐる。

安田嘉代治

渡布　明治四十年（一九〇七年六月、オアフ島エワ耕地

職業　貿易及製造業

最初エワ耕地就働數ケ年、列車事故のため右足切斷の大負傷を蒙り、このために同耕地に商店開業を許され又託兒所を經營、一九二〇年ホノルルに出で古タイヤ利用の勞働足袋、勞働着、勞働靴、トランク等を製造販賣して好評を博し、陸海軍被服製造を請負ふに至る其後シエールオイル會社より一手販賣權を得一九二三年には四人の合資にてユニオン・サプライ商會を組織して其社長兼支配人となり、更に日米雜貨食料品の貿易に從事し、大日本ビール株式會社の布哇一手販賣權をも獲得、三井物産、三共製藥、丸見屋商店、紐育、市俄古の大商會其他と取引す。

一九三六年にはユニオン・サプライ商會貿易部を全部個人で引受け、之を分離してユニオン・ツレイデング商會と改稱し、氏獨特の手腕を揮つて盛んに經營してゐる。氏は毎年渡日して商取引の促進を圖つてゐるが、一九三五年には滿洲を視察した。N・R・A發布當時には東洋人代表監督官として盡瘁した。

山名若松

現住所　ホノルル市カモホアリー街一六六七

原籍　廣島縣賀茂郡内海町北側

氏は來布後友人知己の多き加哇島に渡り、マカウエリ耕地に就働し、商業にも携はつたが思はしからず後オアフ島に轉し、ワヒアワにてサイザル栽培に轉じてゐたが、此頃から天分と興味を兼ね備へたる大工業に變り、ワイパフに於て久しく斯業に携はつた。此の時の經驗と研鑽が後に役立ちて、遂に土木建築請負業を以て身を立てるに至り、發展して今日に及んでゐる。

氏は性來豪膽のところあり、請負業も常に大仕掛なものゝみを目差し、殆んど軍部や政府の工事を受けて居る。十數年前カリヒ建築會社に改組したが、建築機械の完備してゐる點に於ても恐らく邦人陸一と見られてゐる。氏は本業の外育英事業にも盡力し、又永らく請負業組合の幹部を勤めてゐる。

柏龍天

現住所　オアフ島ワイアルア

原籍　福井縣丹生郡立待村

明治十六年三月二十四日蓮生寺に生る、同四十一年七月來布し、布哇島コハラ、ニユリ本願寺布教場に赴任、布教に努むること五年、大正二年三月には日本を勘問し、同年歸布すると馬哇島日本語學校々長として六ケ月間教鞭を執つた。同年開教使として同島ハナに駐在し、五ケ年後の大正七年九月一日にオアフ島ワイアルワ耕地に轉じた。こゝで本願寺教團を中心に佛教婦人會、日曜學校を統率し、且つワイアルフ學園學監として教學兩方面に活動してをる。

子福長者にて雪子夫人と二人を中心に家庭は賑やかである。

安井柳太郎

現住所　ホノルル市ヌアヌ街一八一六

原籍　廣島市中島本町二十二

明治二年三月四日出生、同二十九年十二月三十一日大晦日當日來布した。日本に於ける經驗に依りホテル街に理髪店を開業、當時白人軒を竝べて四十六軒の同業者中に伍し盛んにやつたその中明治三十二年のペスト燒拂事件の爲め邦人同業者は十六軒に激減したが、同業組合の必要を感じて居た氏は、日本人理髪業同盟會を發起組織した。これは次第に榮えて今日では會員二百數十名に達してゐる。氏は同胞理髪業界の元老で、一般同業界の爲めに盡すと共に多數の職人を養成して斯界の發達に寄與した。偖ては本業の傍ら時計商を營んだ事もあるが、寡眞に對しても早くより趣味を持ち、專門家に劣らない技倆を持つてゐる。家族にはトク夫人の外令息及び婿嫁した長女あり。

寺田安太郎

現住所　東京市麹町區九段一ノ二ノ一

原籍　奈良縣北葛城郡王寺村

明治十四年一月八日出生、同三十五年七月來

洗染組合長として同業者の爲めに盡して居り、ホノルル酒造製氷株式會社の取締役である。

野村進

現住所　ホノルル市ブース街二一五三

廣島縣出身、ホノルル酒造製氷株式會社取締役會計工場長にて、同社の機機を握り事實上の

原　籍　廣島縣賀茂郡内海町北側

氏は來布後友人知己の多き加哇島に渡り、マカウエリ耕地に就働し、商業にも携はつたが思はしからず後オアフ島に轉し、ワヒアワにてサイザル栽培に轉じてゐたが、此頃から天分と興味を兼ね備へたる大工業に變り、ワイパフに於て久しく斯業に携はつた。此の時の經驗と研鑽が後に役立ちて、遂に土木建築請負業を以て身を立てるに至り、發展して今日に及んでゐる。

その中明治三十二年のペスト撲滅事件の爲め邦人同業者は十六軒に激減したが、同業組合の必要を感じて居た氏は、日本人理髪業同盟會を發起組織した。これは次第に榮えて今日では會員二百數十名に達してゐる。氏は同胞理髪業界の元老で、一般同業界の爲めに盡すと共に多數の職人を養成して斯界の發達に寄與した。曾ては本業の傍ら時計商を營んだ事もあるが、寫眞に對しても早くより趣味を持ち、專門家に劣らな

洗染組合長として同業者の爲めに盡して居り、ホノルル酒造製氷株式會社の取締役である。

野村　進

現住所　ホノルル市ブース街二一五三

廣島縣出身、ホノルル酒造製氷株式會社取締役會計工場長にて、同社の樞機を握り事實上の支配者と言つて好い人、酒の品質の良否も、工場の運轉如何も又惹いては營業の如何も同氏の手中にあるとも言へやう。質實剛健の感のある人である。

仁井見得一

現住所　オアフ島カフク

原　籍　廣島市仁保町丹那

明治廿九年九月卅日加哇リフエに生る。幼時オアフ島に移り公立校、日語校布哇中學二期卒業、父君龜松氏の死後カフクの日米雜貨食糧店を引受けて盛んに營業中、郵便事務も取扱ひホノルル酒造製氷株式會社、ワイアルア・グラージ各取締役・ハレイワ劇場社長として各方面に活躍す。

矢野唯雄

現住所　ホノルル市ルシタナ街一六四六

原　籍　熊本縣熊本市新屋敷町

明治六年一月四日出生。同廿九年四月海外渡航會社員として移民監督の爲め來布、後ヤマト新聞主筆となり更にヒロで時報發刊、ヒロ新報布哇殖民新聞、ホ府の布哇新報、布哇報知、布哇日報の各記者となり後一時雜誌實社會發刊、現住自宅に於て學塾至精學舍を開いて居る。

寺田安太郎

現住所　東京市麹町區九段一ノ二ノ一

原　籍　奈良縣北葛城郡王寺村

明治十四年一月八日出生、同三十五年七月來布し、ホノルルで苦學二年の後和田商店に入り布哇オーカラ耕地ストア副支配人となり三ケ年の後出府、布哇新報社に入り間もなく同社支配人となり、之を辭して布哇便利社を起して大成功、此間ホノルル日本人商業組合、同信用組合の各幹部、二、三會社の重役を兼ね、本派本願寺、佛青の役員として盡力多大、昭和の初め歸朝し九段坂下に寺田商店を起して書籍美術雜貨の輸出を爲し、又各會社の大株主として實業界に活躍中である。

赤星見壽

現住所　ホノルル市北クキ街三五二

原　籍　熊本縣

在留同胞中の古參の部に屬する人で、藥劑師としても古い。氏が赤星藥舖をキング街アアラ公園前に開いた前後から、一時歸朝して再び來布、現在の赤星製藥所を開くまでには多岐な艱苦奮鬪の歴史がある。軍籍に身を置いた事あり正七位勳六等である。

松本正彦

現住所　ホノルル市キナウ街一二三九

原　籍　熊本縣

アイランド洗染所主で、同店が今日の隆昌を來すまでには同氏の永き間の刻苦勉勵があつた

又吉全興

現住所　布哇島ヒロ市ホク街
原　籍　沖繩縣中頭郡美里村字西原

明治廿五年八月八日出生、鄕里の中學を出で大正四年には熊本醫學專門學校を卒業し、大正七年九月布哇の人となる。布哇縣醫術開業試驗に及第、布哇ラハイナに開業人氣を得たが、大正十三年十月ヒロに轉じ故上江洲氏の病院を讓受けて經營、氏は溫良親切にして一般の氣受け好く、病院は繁昌しつゝあり。

岩佐新藏

現住所　ホノルル市ギュリツク街一〇一〇
原　籍　千葉縣夷隅郡大原町

明治十八年十月十六日出生、同四十年二月廿七日來布、加哇マカウエリ耕地に就働後出府し各種の事業に携はつて後大正十二年八月ギュリツク街角にギュリツク・サービス・ステーションを開業して邦人斯業の元祖となり、一九三〇年にはキング、リリハ角に第二のステーションヲ設く、米國禁酒法撤廢後昭和六年十二月第二ステーションと同じ場所にロール・インを開設し、各種酒類の小賣部を設けて內外人の好評を博してゐる。

藤川壽郎

現住所　廣島市水主町上組三
原　籍　廣島縣佐伯郡原村

明治廿三年八月五日に生れ、同四十四年十二月七日チヤイナ號にて來布、氏は渡布前鄕里にて銀行に勤務した經驗が幸ひにして成功した。

大島呉服店に數年間勤め、一九一七年頃藤井順一氏の經營する藤井商店に入り、後に支配人として活動し同店の發展上大いに貢獻したが、同店が株式組織となるや重役となり現在も其位置に在る、實業界に雄飛し、永年日本人商業會議所の幹部として盡力したが昭和十二年春一家を引連れて歸朝し、前記の場所に定住してゐる。ハルノ夫人との間に三女を擧げたが一名夭折し三女キミエ、長男壽男がある。

武智直道

現住所　東京市麻布區市兵衛町二ノ十三

明治十八年から三ケ年間、醫師の注告で保養の爲めハワイに渡り、プナホウ・スクールに學んだ經歷の持主である。このハワイ滯在中に砂糖のことを見學したのが奇緣となり、歸朝後明治三十三年豪洲製糖株式會社の創立に參與し、ハワイの製糖業を參考にしたり、ホノルルアイオン・ウアークスに機械やプランを依頼したりした。此業に關係する前に東京のハワイ公使館に奉職したことがある。東京生れの生粹の江戸ッ兒であり、日本實業界の大立者だ。

上原德一

事務所　東京市品川區大井北濱川町一一二三

太陽社工場、神田區田代町四、太陽社ハワイ島の勞働を振り出しに、苦學、商店勤務武村商會の支店創設、キユリオ店の開業と廻り來て、日本に歸り、間もなく現在の瓦斯器具の製造に着手し非常に繁榮してゐる。現在株式會社太陽社の社長で、外に釣尾鐵道、武州瓦斯鹽釜瓦斯、新發田瓦斯、新潟三條瓦斯等の重役である。

諏訪多　靖之助

現住所　麻布區本村町四八

日本製紙界の覇王たる王子製紙株式會社の參事だが、その昔正金銀行のホノルル支店に勤め日本人青年會を指導したことがある。

中村辰一

現住所　世田谷區上北澤三ノ一一七〇
事務所　麹町區丸の內二ノ八、十二號館中村商會

丸の內に建築材料輸出入商中村商會を持ち、日米間の取引きに活動してゐるが、社交もスマートなら商賣も上手で成功してゐる。布哇を引擧げたのは大正の半頃である。

淺野孝之

現住所　東京市外吉祥寺成蹊學院

成蹊學院長として共學德年と共に高く、曾て布哇にありても學徒に慕はるゝこと慈父の如くであつたか、母國に在りてはより以上の崇敬を集めてゐる。之れ正に共人格の然らしむる所である。

飯田松吉

現住所　大阪市北區宗是町十二

摯山堂の開祖でホノルルの店は令息鴻一君之を統率し、爺は大阪にあり專ら共仕入に任じてゐる。曾て布哇みやげとして彼地產物を內地にて加工し彼地人を狂喜せしめ、大に利を博せる才人である。

和田隆

現住所　ホノルル市カイムキ、熊本縣出身

本業は保險業だが、日本武德會の五段で布哇

明治廿三年八月五日に生れ、同四十四年十二月七日チャイナ號にて來布、氏は渡布前鄉里にて銀行に勤務した經驗が幸ひにして成功した。

現住所　麻布區本村町四八

日本製紙界の覇王たる王子製紙株式會社の參事だが、その昔正金銀行のホノルル支店に勤め日本人青年會を指導したことがある。

中村辰一

現住所　世田谷區上北澤三ノ一一七〇

事務所　麴町區丸の内二ノ八、十二號館中村商會

丸の内に建築材料輸出入商中村商會を持ち、日米間の取引きに活動してゐるが、社交もスマートなら商賣も上手で成功してゐる。布哇を引拂げたのは大正の半頃である。

淺野孝之

現住所　東京市外吉祥寺成蹊學院

成蹊學院長として共學德年と共に高く、曾て布哇にありても學徒に慕はるゝこと慈父の如くであつたか、母國に在りてはより以上の崇敬を集めてゐる。之れ正に其人格の然らしむる所であらう。日本の教育界に在つて重要な地位を占め、非常に多忙である。

井上敬次郎

現住所　東京市澁谷區代々木富ヶ谷町一四六

三

曾移民會社の主領株（熊本移民）で布哇を唯一の吐出地として殊腕を揮ひ鬼も角も我邦の海外發展に貢獻した人である。後東京の電氣局長になり、是れ亦た大に聲名を馳せた熊本出身で竹を割つた樣な肌合の人である。老來閑地にあり風雲の去來を微笑見てゐる。

清水文之輔

現住所　東京市澁谷區八幡通三ノ一九

其昔布哇新報主筆として社長志保澤氏より招聘され、同紙に健筆を揮つたことがある。其頃赤門出のチヤキ〳〵で大に持て囃された、後實業界に入り着々と頭を擡げ、今では太陽生命の專務として生保界に赫々の名を成してゐる。

今藤信一

現住所　兵庫縣武庫郡西宮市宮西町四三〇

曾てホノルルにあり、目下大阪市朝日ビル內紀洋貿易に在りて米材輸入に關係せり、阪神に於ける木材販賣に從事の傍ら布哇關係者懇親會等に善く奔走してゐる。

飯田松吉

現住所　大阪市北區宗是町十二

攀山堂の開祖でホノルルの店は令息鴻一君之を統率し、翁は大阪にあり專ら共仕入に任じてゐる。曾て布哇みやげとして彼地產物を內地にて加工し彼地人を狂喜せしめ、大に利を博せる才人である。

和田隆

現住所　ホノルル市カイムキ、熊本縣出身

本業は保險業だが、日本武德會支部等にあり斯界の爲に貢獻深い。氏は代々熊本藩指南番で其の血が流れてゐるものか令兄喜傳氏も使ひ手だし、令弟はもう氏を凌ぐ腕前だ。然し隆氏の太刀筋が一番良かつたと云ふから日本に居れば立派に範士として一大家を爲したものだが惜しいことだ。隆氏の劍は實に鮮やかで、高貴で冴えて居る。布哇の第一人者であること云ふ迄もない。

三上修治

現住所　ホノルル市キヤムベル街三三六

其身カバルの一商店主であり乍ら劍道四段、尺八の名手でもある。氏の劍は徹頭徹尾氣魄の鋭い剛劍で、和田さんに次ぐ使ひ手である。

佐伯隆一

現住所　布哇島ヒロ市、廣島縣出身

ヒロ日本人商業會議所會頭として、既に數回選ばれ斯界の爲め貢獻頗る大である。德望と器量の持主である。君の事業の堅確なると併せて其人の公平圓滿なるを偲ぶことが出來る。

今村寬猛

元オアフ島ワイパフ本願寺駐任

日本で教育を受けた慶應出身の第二世で、故總長惠猛氏の御曹子であることは誰も承知して

居る。溫厚篤實の士で、親の威力がまだ光つてはゐやうが原田義海氏の跡を承けて大きな一城を預つて健實にやつてゐたが昭和十二年の初夏に歸朝した。

西ケ谷政吉

現住所　ホノルル市北クヤキ街一四五、商店主、千葉縣出身

仲々の論客でその方面で大あばれ、吹いたり論じたりするので「西ケ谷エントツ」と云ふニツクネイムも冠せられてゐた。在留邦人の故參の一人で且つ世話役である。

大谷松治郎

現住所　ホノルル市コウラ街四一一〇

アマラマーケットの大谷商會の持主だが此の人仲々新しい物に眼をつけることが早く、先年は日本からスキ燒牛肉や珍らしい鯛の生を輸入しこゝ二三年此方凉凍鮎や同じく蛙を輸入して食者用を喜ばせ一般を驚かせてゐる。商賣の妙を得て發展してゐる。

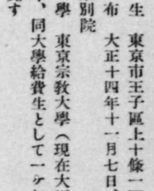
大牟禮與八郎

事務所　ビショップ銀行ビル三〇九

收稅事務を扱つて、一ケ月の收入千弗を下るまいと云ふのは驚異の一つである帳簿の整理や收稅局届出、其他諸般の檢査手續き等に大牟禮氏は在留民の便利を計つて居るので評判よく繁昌してをる。

安部島眞明

現住所　加哇島ワイメア



出　生　明治三十一年十一月二十日、奈良縣磯城郡櫻井町大字下六九二番地

渡　布　大正十五年二月、カウアイ島ワイメア眞言寺

修　學　大正十四年和歌山高野山大學卒業

職　業　大正十四年八月布哇開教使拜命、昭和五年八月示教に補せられ權大僧都に進む。眞言寺教團、カウアイ西部大師講聯盟、密教婦人會、密教日曜學校、密教維持會を主宰す。

秋田法隆

現住所　ホノルル市北キング街九七五

出　生　明治三十九年五月二十日、秋田縣山本郡檜山町檜山四一

渡　布　昭和五年十一月五日、ホノルル東本願寺布哇別院

修　學　京都大谷大學專門部卒業

職　業　開教使としてホノルル東本願寺布哇別院在勤

餘　業　同別院附屬大谷女學校主事として女子教育方面に活動す。

天野宗圓

現住所　加哇島カパア

出　生　東京市王子區上十條一四六三番地

渡　布　大正十四年十一月七日、ホノルル淨土宗別院

修　學　東京宗教大學（現在大正大學の前身）卒、同大學給費生として一ケ年社會事業を研究す

職　業　初め東京府中央社會事業協會に勤務し其後開教使として渡布す。大正十五年十月四日カウアイ島カパア淨土宗教會主任並に附屬日進小學校長に任命され現在に至る

餘　業　加哇中央教育會理事、カパア明照婦人會顧問、同明照處女會顧問、カウアイ東部明照青年會顧問、カパア墓地協會々計を兼ぬ。

出目常宣

現住所　馬哇島パイア

なる氏の性格は實業界に於ける多年の經驗と相俟ち今日の隆盛を致してゐる。布哇教育會發行の教科書は悉く同店の取扱なり。

土井祐太郎

現住所　オアフ島ハレイワ

出　生　明治六年八月十日、山口縣玖珂郡岩國町川西

渡　布　明治三十一年十一月、オアフ島カフク耕地

職　業　初め東京府中央社會事業協會に勤務し其後開教使として渡布す。大正十五年十月四日カウアイ島カパア淨土宗教會主任並に附屬日進小學校長に任命され現在に至る

餘　業　加哇中央教育會理事、カパア明照婦人會顧問、同明照處女會顧問、カウアイ東部明照青年會顧問、カパア墓地協會々計を兼ぬ。

出目常宣

現住所　馬哇島パイア

出　生　明治二十三年十月一日、福井縣南條郡神山村字妙法寺

渡　布　大正七年八月六日、ホノルル本派本願寺布哇別院

修　學　明治四十三年三月福井縣師範學校卒。大正二年四月佛教大學入學、同七年三月同校卒

職　業　開教師としてホノルル本派本願寺布哇別院、加哇島ワイメア本願寺に駐在し、大正十三年十一月同島ケアリア本願寺に轉勤、キラウエア、カパア兩本願寺教區を兼務す。此の間加哇島ワイメア日本語學校、マナ日本語學校長、カパア學園長、布哇島ヒロ中、女學校に歴任、昭和七年八月馬哇島パイア日本語學校長に轉じ、布哇教育會代議員、教科書編纂委員、マウイ教育會書記を兼ね教育事業に活躍す。

出羽一人

現住所　ホノルル市キング街スミス角

出　生　明治十九年一月三日、廣島縣高田郡來原村

渡　布　明治四十年一月、ハワイパハラ耕地

職　業　初めカウアイ島ハナペペ日本語學校長久いでマカヴイリ耕地商店支配人たり。其後ホノルルに出で、一九二七年七月寺田安太郎氏の布哇便利社を繼承今日に至る。溫厚着實なる氏の性格は實業界に於ける多年の經驗と相俟ち今日の隆盛を致してゐる。布哇教育會發行の教科書は悉く同店の取扱なり。

土井祐太郎

現住所　オアフ島ハレイワ

出　生　明治六年八月十日、山口縣玖珂郡岩國町川西

渡　布　明治三十一年十一月、オアフ島カフク耕地

職　業　商業

最初カフク耕地に働き、其後ワイアルにて多年商店、旅館の經營に從事し、更に電氣器具並に電氣工事請負業に轉じ、ワヒアワに支店を設け今日に至る

餘　業　ハレイワ北部組合長、ワイアル本願寺教團重役にして、社會的貢獻多く地方の重鎭なり。

土井來助

現住所　加哇島カラヘオ

出　生　明治五年十月十七日、廣島市仁保町

渡　布　明治二十七年一月、ハワイ島ハカラウ耕地在住四年。明治三十四年再渡布、オアフ島エワ耕地

職　業　初めエワ耕地に甘蔗栽培、大コックを營業、次いでカウアイ島にて工夫監督を勤め明治三十八年外人經營のガーデン・アイランド果物會社支配人に招かれ、勤續十三年大いに信用を博す。大正七年クイウラ公園附近にクイウラ・ストアを開き、今や同地方唯一の大商店なり。

餘　業　ラワイ日本語學校學務委員長、花園日本語學校學務委員長、其他各種團體幹部を兼ね公共事業に貢獻多し。

榮久庵鐵念

現住所　布哇島ハマクア、パウハウ

安部島眞明

現住所　加哇島ワイメア

出　生　東京市王子區上十條一四六三番地

渡　布　大正十四年十一月七日、ホノルル淨土宗別院

修　學　東京宗教大學（現在大正大學の前身）卒、同大學給費生として一ヶ年社會事業を研究す

出　生　明治三十九年七月二十六日、廣島縣沼隈郡鄕分村
修　學　東京大正大學卒
渡　布　昭和五年十二月八日、ホノルル淨土宗開教院
職　業　東京巢鴨家政女學校教諭、大正新修大藏經編輯員を經て渡布、一ケ年ホノルル淨土宗開教院駐在、後現職ハマクア佛教會堂主として今日に及ぶ。
餘　技　童話に於て一家をなし、ホノカア日本語學校にも勤務す。

福田弟一郎

現住所　オアフ島ヘイア、ルルク
出　生　明治十八年三月一日、廣島縣世羅郡廣定村
渡　布　明治三十九年四月、ハワイ島ラツパホエホエ日本人學校
職　業　廣島縣安佐郡後山小學校に奉職二ケ年渡布後はハワイ島ラツパホエホエ日本人學校同島カウ・パハラ本願寺學園、カウアイ島ベベケオ日本語學校長、ホノルル市モイリリ日本語學校に歷任、大正十一年十一月オアフ島ヘイアのルルク日本語學校長に招かれ今日に至る。

福永勝一

現住所　馬哇島ワイルク、ワイヘー

出　生　明治三十八年五月十七日、布哇生
原　籍　山口縣吉敷郡名田島村一六五九番地
渡　布　同四十三年日本に歸り大正十五年十一月歸布
修　學　大正十四年山口縣立中學卒
職　業　歸布後ホノルル市カリヒ東洋學園に約一年半勤務、昭和四年三月母國訪問、同年九月より八ケ月間ホノルル中央學院奉職、昭和六年二月より翌年七月迄マウイ島ワイルワ本願寺學校教師、昭和七年九月同島ワイヘア日本語學校長に就任して今日に至る。
餘　業　ワイヘア處女會顧問。

福永秀一

現住所　オアフ島ハレイワ

出　生　明治二十三年七月十日、廣島縣雙三郡川西村字海渡
渡　布　明治四十一年三月布哇島ハマクア、ククイハエレ耕地
修　學　大正七年ホノルル、イオラニ・ハイスクール卒、更に布哇大學に學ぶ
職　業　會社支配人
最初ハマリア、ククイハエレ耕地に働き、布哇大學中途退學後自動車修繕技術を研究す。大正八年先づハレイワ・グラーヂを買收、更に地方の三グラーヂを併せ資本金五萬弗の純日本人系株式會社ワイアルア・グラーヂを創め、會計兼支配人たり。其後同社は二十萬弗に增資され、フオード會社、ゼネラル・モータース會社の布哇代理店となり、ワヒアワ・サービス商會を新設しワイパフ・モータース商會を合併し、ホノルルにはイーヂー・アプライアンス商會を開設、邦人唯一の大會社の社長兼總支配人として布哇實業界に雄飛してゐる。

古川茂生

現住所　ホノルル市ギユリツク街八一〇

出　生　明治十八年十月三十一日、山口縣玖珂郡通津村
修　業　岩國中學及東京慶應義塾商科卒
渡　布　大正三年九月ホノルル
職　業　日布時事廣告部長
餘　業　運動競技界に活躍すること多年、即ち日布間の野球、庭球、水泳の競技等是れなり又日本語ラヂオ放送を開始して布哇ラヂオ協會を起し、自ら理事として其牛耳を執る等賞讃すべきもの多し。

古川章

現住所　ホノルル市カイムキ十番街七三四。山口縣出身
日布時事社の寫眞部長として獨特の腕を揮つて居るが、殊にデザインに於ては布哇の第一人者と目されてゐる。餘暇に藝術寫眞も試み米國、加奈陀及日本の寫眞展で數回受賞した

出　生　明治三十八年五月十七日、布哇生
原　籍　山口縣吉敷郡名田島村一六五九番地
渡　布　同四十三年日本に歸り大正十五年十一月歸布
修　學　大正十四年山口縣立中學卒
職　業　歸布後ホノルル市カリヒ東洋學園に約一年半勤務、昭和四年三月掛國訪問、同年九月より八ケ月間ホノルル中央學院奉職、昭和六年二月より翌年七月迄マウイ島ワイルワ本

現住所　ホノルル市ギユリウク街八一〇

出　生　明治三十九年三月十一日、富山縣新湊町
渡　布　昭和七年一月六日、ホノルル浄土宗別院
修　學　東京大正大學佛教科卒
職　業　開教使學校長
　ホノルル浄土宗別院駐在、同時に附屬女學校勤務、一九三四年十月エワ浄土宗教會主任並に附屬エワ新日本語學校長に命ぜらる。

藤花教道

現住所　オアフ島ホノウリウリ

修　業　岩國中學及東京慶應義塾商科卒
渡　布　大正三年九月ホノルル
職　業　日布時事廣告部長
餘　業　運動競技界に活躍すること多年、即ち日布間の野球、庭球、水泳の競技等是れなり又日本語ラヂオ放送を開始して布哇ラヂオ協會を起し、自ら理事として其牛耳を執る等賞讃すべきもの多し。

古屋理一郎

現住所　ホノルル市マオレーン・エワチ一二〇二
出　生　明治二十年七月十日、山梨縣東山梨郡岩手村
渡　布　明治四十年一月十八日、ハワイ島ハカラウ耕地
職　業　被服工場主任
　初めハカラウ、オーラー・ナレフ耕地に働き洋服店外交員を經て一九一五年ホノルル市パラマに富士洋服店を開業。一九二四年同市ホテル街に洋服裁縫店を開き支配人となる。翌年ユニオン・サプライ商會被服工場主任となり今日に至る。
餘　業　一九三四年十月ホノルル市公園劇場買收經營、フーア百貨店會計、旭家具商副社長カパマラ地方人會に長たり。

古川章

現住所　ホノルル市カイムキ十番街七三四。山口縣出身
　日布時事社の寫眞部長として獨特の腕を揮つて居るが、殊にデザインに於ては布哇の第一人者と目されてゐる。餘暇に藝術寫眞も試み米國、加奈陀及日本の寫眞展で數回受賞した著財も出來、日布時事社の幹部の一人である

小幡宗一

現住所　ホノルル市カイムキ街三一七二。山口縣出身
　日布時事外交部長として活動目醒しきものがある。スポーツに理解深く、一時は日布蹴の名を以て布哇角界に勇名を馳せたが、引退後も好角界其他の爲め盡力し、良き世話役を果して居る。

河村啓太郎

現住所　ホノルル市カリヒ街二〇一七。山口縣出身
　現在布哇報知の編輯長として才幹を揮つて居るが、曾ては永年日布時事の編輯長を勤めた同社辭任後英字新聞アドヴアタイザーに入り後此を辭して十餘年前布哇報知社に入る。氏は英文をよくするが、英文和譯には獨特の手腕を有して居る。

藤谷晃道

現住所　ホノルル市カパケアレーン九一二五
出　生　明治十九年六月二十七日、島根縣簸川郡久木村大字今在家八十六番地生
修　學　京都佛教大學在學中明治四十四年本派本願寺より印度カルカツタ留學を命ぜられ在學すること二年。渡布大正十年一月七日、ホノルル本願寺。
職　業　開教使
　曾つて沖繩縣那覇本願寺に駐在せることあり大正十年九月十六日マウイ島パウエラ本願寺開教使及附屬學園長たり。同十二年ハイク日本語學校長に就任、由來十數年同地教導事業貢獻す。昭和九年十月十五日ホノルル市モイ

り、本願寺開教使拜命現在に及ぶ。

一本杉隆一

現住所　ホノルル市アレン
出　生　明治廿四年三月、廣島縣安佐郡大竹町
渡　布　明治四十一年十二月
修　學　大正八年十月米大陸ウイスコンシン州マーケツト大學入學、同九年十月ミゾリー州セントルイス大學に轉じ齒科醫術を研究、同十二年六月大學を卒へ歸布す。
職　業　初めオアフ島ライエ日本語學校を創め同校に奉職後ホノルルに出で醫師フール氏の助手たること八年にして渡米す。歸布後大正九年九月以來リヴア街ベレタニヤ角に齒科醫院を開業し繁榮して居る。

岩佐新藏

現住所　ホノルル市北キング街
出　生　明治十八年十月十六日、千葉縣夷隅郡大原町
渡　布　明治四十年二月二十七日、加哇島マカワエリ耕地
職　業　商業（サーヴイス、ステーション主）初マカウエリ耕地就働六ケ月、後ホノルルに出で外國人家庭に勤め一時歸朝。歸布後カリヒにて養鷄事業に從ふこと三年、大正八年同地に自動車立場を設け乘客用自動車を運轉してゐたが、同十二年八月ギュリツク街角に、ギュリツク、サーヴイス、ステーションを開き、自動車用品、附屬品一切の販賣、自動車修繕に從事してゐる。

井田平

現住所　ホノルル市ヌアヌ街
出　生　明治十四年十二月二十三日、東京府荏原郡松澤村
渡　布　大正三年十二月十日、ホノルル修學デトロイト美術學校卒。加州スタンフオード大學に學ぶ。
職　業　商業（美術店）
美術店を經營し意匠、圖案、廣告看板の調製繪畫表裝等を業として居る。餘技東華と號し文筆に長す。

藤生宗劍

現住所　オアフ島カフク耕地
出　生　明治二十四年一月六日熊本縣益城郡高木村字甘木
渡　布　明治三十九年九月十日
職　業　開教使、學校長
ハワイ島九哩日本人小學校、ホノルル學園、オーラー九哩日本語學校、カヴを經て一九一〇年カプレナ日本語學校長就任、其後ハパロア日本語學校長、ニウリー學園長、オアフ島ハレヌノ學園長に歷任、一九三二年九月よりカフク日本語學校長として今日に至る。オアフ島聯合佛教青年會長、布哇全島佛教青年會聯盟副理事長たり。

合志實行

現住所　布哇ヒロ市
出　生　明治十三年八月三日、熊本縣熊本市迎町二九二
渡　布　明治三十四年、ハワイ島ヒロ
職　業　神　官
ヒロ大神宮宮司たり。同胞間の敬神思想の鼓吹に努め、此間邦人子弟の教育のため國民小學校を經營せることあり。大神宮奉齊會、神風會、敬神婦人會、處女會を指導す。

後藤鎭平

現住所　オアフ島カネオへ
生　出　明治二十年四月八日、岩手縣江刺郡岩谷堂町中町
渡　布　明治三十一年七月カウアイ島キラウエアなる兩親の許に來る。
職　業　牧　師
初めホノルル村田商店、布哇新報、岩上合名會社、植田商店玉堂商店、デヴス商會等に勤務、後マウイ島ラハナ日本語學校教師を經て同島プウユリ日本語學校長同地美以教會牧師となる。一九二七年オアフ島カネオへ轉任以來カネオへ美以教會、カイルマ美以教會、カハルク美以教會の組織、並各教會堂建立等に就任し今日に至る。

芳賀七郎

現住所　ホノルル市十五番街一一三七、出生明治二十三年四月十五日福島縣伊達郡長岡村
渡　布　明治四十年一月十一日、ホノルル市

現住所　ホノルル市ヌアヌ街
出　生　明治十四年十二月二十三日、東京府荏原郡松澤村
渡　布　大正三年十二月十日、ホノルル修學デトロイト美術學校卒。加州スタンフオード大學に學ぶ。
職　業　商業（美術店）
美術店を經營し意匠、圖案、廣告看板の調製繪畫表裝等を業として居る。餘技東華と號し

後藤　徳右衛門

現住所　布哇島コナ、ホナウナウ
出　生　明治三十二年十一月十三日、長野縣下伊那郡且開村五十五番地

修　學　年少にして上京苦學力行す、渡布後ヒロ英語夜學校、同ボーデングスクールに學ぶ
資性溫厚にして人望厚。
渡　布　大正七年十月十三日、父の呼寄せにてハワイ島ヒロに來る。
職　業　學校長
多年ハマクア郡カプレナ日本語學校長たり。
昭和三年八月コナ・ホナウナウ日本語學校長に就任し今日に至る。

芳賀　七郎

現住所　ホノルル市十五番街一一三七、出生明治二十三年四月十五日福島縣伊達郡長岡村
渡　布　明治四十年一月十一日、ホノルル市

修　學　來布後學僕たること數年
職　業　最初紙類輸入商パーテン商會に入り、其後同商會支配人テーラー氏獨立してホノルルペーパー商會を創立するや同商會日本人部主任となり現在同商會販賣部長兼日本人部主任にして、亦日本人商業會議所會員たり。

濱田　勘吾

現住所　ホノルル市ヌアヌ街
出　生　明治二十三年十月十日、廣島縣佐伯郡五日市町
渡　布　明治四十年一月、ハワイ島ヒロ
修　學　廣島縣立三次中學中途退學、明治四十五年ヒロ市ボーデングスクール卒。更に明治大學講義錄に依り勉學す。
職　業　旅館主
初めヒロ市に通信事務を開始し、其後住田商會支配人となり勤續すること十餘年、同十四年ホノルル市に出ヌアヌ街の旅館共樂館を引受け經營今日に至る。
カウアイ島マナ在住中はマナ教育會長其他の役員に推されマナ青年會を創立し會長に擧げられ亦大正十三年皇太子殿下御成婚泰祝記念堂建立を計企するなど公共事業に盡力せり。
餘　業　現在は日本人會理事、本願寺理事、五日市地方人會々長、布哇武德會顧問たり。

濱岡　敬一

現住所　加哇ワイメア

出　生　明治三十一年一月二十日、廣島縣廣島市仁保町字灘崎
渡　布　昭和四年九月二十一日、ホノル市
修　學　廣島縣修道中學卒
職　業　日語學校教師
ホノルル市カリヒ日本語學校教師を經てカウアイ島ワイメア日本語學校教師に轉じ現在に至る。
餘　業　夫人と共に和洋裁總學校を經營す。

濱村政信

現住所　マウイ島ワイルク
出　生　明治三十六年一月四日マウイ島ハマクアポコ
修　學　一九一九年マウイ・グランマー・スクール卒
一九二三年マウイ・ハイスクール卒。渡米後デクソン大學に學び、一九二八年テンプル大學齒科卒。更にニューヨーク大學大學院にて研究す。
職　業　齒科醫
歸布後マウイ島ワイルクに齒科を開業し今日に及ぶ。布哇齒科醫協會全米齒科醫協會、テンプル大學同窓會、デイクソン大學同窓會等のメンバーたり。

池田藤一

現住所　ホノルル市南キング街一四八三
出　生　明治二十一年三月十五日、山口縣佐波郡小野村
渡　布　明治三十七年三月十二日、ハワイ島パウハウ耕地。
職　業　商　業
初めパウハウ耕地に就働、次いで白人ホテルに職を得、其後シンガーミシンの販賣及諸雜貨の行商をなすこと十數年、一九二四年ホノルル市南キング街パワージヤンクションに西洋雜貨、反物及樂器店を經營、一九三三年十一月同街に店舗を移轉擴張し、R・C・Aラヂオ特約店、其他各種ラヂオ・蓄音器・レコード一切、電氣冷藏庫、電氣洗濯機・藥器類一切、朝鮮總督府發賣蔘精特約販賣等を營業して今日に至る。

池野正男

現住所　オアフ島カイルア
出　生　明治二十四年五月一日、東京市深川區龜住町
渡　布　大正元年十月五日、ホノルル
修　學　東京早稻田大學に學び傍ら書道を研究
職　業　學校長
初めホノルルにて書筆に親しみ、大正六年九月オアフ島フナルウ日本語學校に就任、一九二一年一月同島カイルア日本語學校長に轉じ今日に及ぶ。

今井重太郎

現住所　オアフ島ワイパフ
出　生　明治九年十一月十日、福島縣安達郡玉井村
渡　布　明治三十六年五月十日、ハワイ島ラツパホエホエ耕地
職　業　保險代理業並に請負業
最初ハワイ島ラツパホエホエ耕地、同ハマリマ耕地、其後オアフ島アイエマ耕地に就勞、更にワイパフ耕地に移り請負業及保險代理業を始め今日に至る。同地方の有力者たり。

今井諦全

現住所　マウイ島ワイルク、セントラル街
出　生　明治三十四年二月十五日、長野縣下伊那郡川路村字島十六番生
修　學　一九二二年ミルス・ハイスクール卒。一九二六年ペンスルベニア大學卒。一九二九年ボンブレツキ神學校を卒業、神學士となる

現住所　ホノルル市南キング街一四八三
出　生　明治二十一年三月十五日、山口縣佐波郡小野村

渡　布　明治三十七年三月十二日、ハワイ島パ

パホエホエ耕地
渡　布　明治三十六年五月十日、ハワイ島ラツ
職　業　保險代理業兼に請負業
最初ハワイ島ラツパホエホエ耕地、同ハマリマ耕地、其後オアフ島アイエマ耕地に就勞、更にワイパフ耕地に移り請負業及保險代理業を始め今日に至る。同地方の有力者たり。

今井諦全

現住所　マウイ島ワイルク、セントラル街
出　生　明治三十四年二月十五日、長野縣下伊那郡川路村字島十六番生

渡　布　昭和三年十一月五日、ホノルル淨土宗開教院
修　學　縣立飯田中學、京都佛教專門學校及大谷大學卒、更に東京大本山增上寺に學ぶ。
職　業　開教使
最初ホノルル開教院に駐在し、同院擴張の準備事務を執り、傍ら同宗經營の布哇女學校に教師たり、昭和四年八月廿日ワイルク淨土宗寺院主任に就任し今日に及ぶ。ワイルク淨土宗教團々長、全布哇明照佛教青年會顧問、ワイルク明照佛青總務たる人、同地にサンデースクール及明照佛教青年會を創立指導し、夜間學校をも經營する外、ワイルク獨立日本語學校長を兼ぬ。

石丸誓祐

現住所　馬哇島ワイルク
出　生　明治三十五年十二月二十九日、富山縣射水郡新湊町
渡　布　昭和四年八月ホノルル本願寺別院
修　學　富山縣立高岡中學、京都龍谷大學卒。
職　業　開教使・學園長
初めホノルル本願寺別院に勤むること四年、一九三一年九月ワイルク本願寺駐在兼附屬學園長となり今日に及ぶ。マウイ教育會理事たり。

石村德七

現住所　マウイ島パイア
出　生　明治三十二年十二月十日、布哇。
渡　布　幼少時日本に歸り小學教育を受け大正元年十月六日歸布。
修　學　一九二二年ミルス・ハイスクール卒。一九二六年ベンスルベニア大學卒。一九二九年ボンブレツキ神學校を卒業、神學士となる

職　業　牧師
一九二九年ハワイ島ホーカアユニオン教會牧師となり、一九三〇年バイア日本人基督教に聘せられ現在に至り、教勢大いに振ふ。

金城珍榮

現住所　加哇島コロア
出　生　明治三十二年十二月二十一日、沖繩縣那覇市上五蔵町一丁目三十七番地
渡　布　大正七年十二月十九日、オアフ島ワイマナロ耕地。
修　學　那覇市立商業學校卒、來布後ホノルルにて苦學し英語を學ぶ。
職　業　新聞社長兼支配人
初め父の在りしワイマナロ耕地に三ケ月就勞、其後山城商店、太平洋銀行、オアフ島貯金奬勵株式會社を經、一九二六年四月カウアイ島コロに移り、信用厚。
餘　業　ハヴイ日本語學校等に盡力す。

平山輯平

現住所　オアフ島ヘイア
出　生　明治十四年十二月二十八日、熊本縣上益城郡七滿村大字上野

渡　布　大正三年七月三十日、マウイ島オロワル
修　學　明治三二年八月熊本縣師範學校卒
職　業　學校長

最初熊本市熊本高等小學校等に奉職、來布後マウイ島オロワル日本語學校勤務、大正四年九月ハワイ島ホノカア日本語學校長就任、大正十三年オアフ島アイエア獨立日本語學校長に轉じ、昭和五年八月來ヘイア日本語學校長たり。

ホノカア在住當時は同地淨土宗派の學校合併問題に盡力せり。現オアフ島東部教育會理事長兼布哇教育會代議員、教科書編纂委員たり

平山眞靜

現住所　加哇島ハナレイ
出　生　明治三十三年五月五日、福岡縣朝倉郡夜須村字朝日
渡　布　昭和六年三月九日、ホノルル
修　學　高野山中學及大學卒。東京社會教化學院に社會學を學ぶ。
職　業　僧侶
來布後カウアイ島ハナレイ眞言宗教會堂主任兼同地ハナレイ日本語學校長として今日に及ぶ

廣澤蓮城

出　生　明治二十三年一月二十三日、廣島縣山縣郡吉坂村生
渡　布　一九二八年一月三十日、オアフ島ワイマナロ本願寺
修　學　大正三年京都佛教大學卒
職　業　開教師
初め開教使として渡米、ユタ州ソートレーキ市駐在十年、來布後オアフ島ワイマナロ本願寺駐在兼附屬ワイマナロ學園長として今日に至る。教學事業への貢獻大なり。同地本願寺教團佛教婦人會、青年會を指導す。

日野秀瑞

現住所　加哇島コロア
出　生　明治二十七年一月十四日、山口縣熊毛郡三輪村八百三十六番地
渡　布　大正十五年七月ホノルル淨土宗開教院

修　學　大阪上宮中學、東京宗教大學（現大正大學の前身）卒
職　業　淨土宗開教師
最初山口縣淨國寺住職兼淨土宗山口縣方面委員たり、渡布後ホノルル淨土宗開教院開教駐在、マウイ島ワイルア淨土宗教會主任を經、カウアイ島コロア淨土宗教會主任となり今日に至る。此間同地日本語學校長又は教師を兼ね更にコロア淨土宗維持會、同婦人會、同青年會、處女會、日曜學校、カラヘオ青年會、同日曜學校等を統率す。

本田榮作

現住所　ホノルル市コナカワイ街一七一一
出　生　明治十四年十一月十八日熊本縣鹿本郡三嶽村

渡　布　明治三十九年九月十一日。
職　業　學校長
大正六年ハワイ島ククイハエレのカプレナ日本語學校教師就任、同十一年八月ホノルル東洋學園長就任、一九二九年カリヒカイ日本語學校長に轉じ今日に至る。

一場勳

現住所　オアフ島エワ
出　生　明治二十七年三月二十九日、廣島縣安藝郡船越町生。
渡　布　大正四年一月二十五日、ハワイ島コナ
職　業　學校長

鄉里にて教師を勤め、招かれて來布しコナ・ホナウナウ日本人學校に就任、大正九年オアフ島エワ日本語學校長に轉じ今日に至る。此間オアフ教育會幹部、布哇教育會代議員、教科書編纂委員として日本語教育事業に貢獻するところ大なり。

一木正二

現住所　、ホノルル市北キング街アケボレーン角
和九年二月十九日馬哇島マカワオ日本語學校長に轉じ今日に及ぶ。
餘　業　マカワオ青年會顧問として同地方青年の指導に努む。

林久七

現住所　加哇キラウエア、コーラウ
出　生　明治二十三年九月十七日、三重縣志摩郡島羽町

郷里にて教師を勤め、招かれて來布しコナ・ホナウナウ日本人學校に就任、大正九年オアフ島エワ日本語學校長に轉じ今日に至る。此間オアフ教育會幹部、布哇教育會代議員、教科書編纂委員として日本語教育事業に貢獻するところ大なり。

一木正二

現住所　ホノルル市北キング街アケポレーン角
出　生　明治二十九年三月二十一日、福岡縣三潴郡荒木村
渡　布　大正二年マウイ島
職　業　初めマウイ島にて勞働に從事、其後同島ラハイナ商店ボコ支店に入り、一九二五年六月ラハイナに一本商店を獨立創設し、一九二九年同島ワイルクに支店を設け、後是を本店とし同島オロワル・マカワオ・ポパハタ等に支店を設く。其後米大陸、日本及滿洲地方に商業視察をなし歸布後ホノルル北キング街に一本百貨店を創設す。
餘　業　マウイ島ホノコワイ日本語學校創立者たり。マウイ商業組合會計として公共事業に盡力す。マウイ日本人ゴルフ倶樂部、日本人公民協會のメンバーなり。

林　明春

現住所　マウイ島マカワオ。
出　生　明治三十八年二月二十三日山口縣、萩市江向百二十四番地
渡　布　昭和四年七月十三日布哇島ヒロ市
修　學　大正十五年朝鮮大邱中學卒、昭和四年三月東京大正大學高等師範部卒。文部省より國語、漢文中等教員免許狀下附さる。
職　業　淨土宗開教使、學校長
　着布後直ちにヒロ明照中女學校長に就任、昭和六年二月十九日馬哇島マカワオ日本語學校長に轉じ今日に及ぶ。
餘　業　マカワオ青年會顧問として同地方青年の指導に努む。

林　久七

現住所　加哇キラウエア、コーラウ
出　生　明治二十三年九月十七日、三重縣志摩郡島羽町
渡　布　昭和七年九月十五日カウアイ島コーラウ
修　學　大正二年中央神學校卒
職　業　牧師、學校長
　初め日本基督教會所屬牧師として數ヶ所の教會に屬し、其後約十年間東京牛込眞余丁教會牧師兼牛込愛光幼稚園長たり。渡布後は布哇傳道協會に屬し自給布教をなす傍らカウアイ島コーラウ日本語學校長として今日に至る。

林　三郎

現住所　布哇島コナ、ホルアロア
出　生　慶應三年二月二十二日、青森縣三ノ戸町
渡　布　明治二十四年、布哇島ホノルル
職　業　醫　師
　ホノルル及コハラに在住すること數年、コナに移り醫術を開業して以來四十年今日に至る無欲恬淡、豪放磊落にして逸話に富み、同地方在留同胞のために貢獻すること極めて大なり
餘　業　明治卅年末コナ反響を發刊今日に至る

初め開拓使として渡來、ユタ州ソートレーキ市駐在十年、來布後オアフ島ワイマナロ本願寺駐在兼附屬ワイマナロ學園長として今日に至る。教學事業への貢獻大なり。同地本願寺教團佛教婦人會、青年會を指導す。

日野秀瑞

現住所　加哇島コロア
出　生　明治二十七年一月十四日、山口縣熊毛洋學園長就任、一九二九年カリヒカイ日本語學校長に轉じ今日に至る。

一場勳

現住所　オアフ島エワ
出　生　明治二十七年三月二十九日、廣島縣安藝郡船越町生。
渡　布　大正四年一月二十五日、ハワイ島コナ
職　業　學校長

林田周一

現住所　マウイ島キヘイ
出　生　明治二十七年六月五日、熊本縣鮎託郡海路口村字學料
渡　布　大正五年三月ホノルル
修　學　熊本にて濟々黌卒ホノルルイオラニ校に學ぶこと約四年。
職　業　初めマウイ島にて書籍店を經營、傍ら生命保險會社代理たること數年、マカワオ日本語學校に聘せらる。後商店員としてラナイ島に住むこと三年。一九三一年九月キヘイ日本語學校に聘せられ今日に至る。

橋本喜代一

現住所　布哇島コハラ、カパアウ。
出　生　一八九二年三月二十一日、布哇島コハラ。
修　學　コハラ公立學校卒
職　業　初めハヴイ耕地會社商店簿記係を勤め、後ヒロ第一銀行コハラ支店に入り、同行が布哇銀行と合併後も引續き勤務して現在に及び。勤續二十餘年、內外人間の信用厚し。

伊藤長一

現住所　加哇島ケアリア、アナホラ。
出　生　明治三十年八月二十日、山口縣大島郡小松町。
渡　布　大正三年一月二十六日、鄕里にて中學程度の課程を卒ふ。
職　業　學校長。
初め耕地勞働をしてゐたが、間もなくカウアイ島の洋園時報社に入る。其後日布時事社カウアイ支局員、洋園時報特別通信員として、傍ら雜誌取次業をなす。
大正十五年九月同島アナホラ日本語學校教師に就任、同三年來同校々長たり。
餘　業　此間アナホラ佛教會書記、同防長海外協會書記、同朝日青年會顧問、勞働組合評議員、更にカウアイ中央教育會幹部として地方教化事業に貢獻してゐる。

岩永　健

現住所　ホノルル市カパフル・ロード。
出　生　一九〇二年八月十六日、ハワイ島カウナアレフ。
修　學　一九二二年マツキンレー・ハイスクール卒、「九二五年優秀なる成績にて布哇大學卒業、バチエラー、オブ・アーツの學位を得
職　業　實業。大學卒業後布哇報知記者、ホノルル日本人請負業組合書記を經、ニュー・フオーア・デーリーの共同所有者兼支配人たり此間ベーリー・ベーカリー社長、ホノルル酒造製氷會社重役として實業界に活躍す。

久保田賢道

現住所　マウイ島ラハイナ
出　生　明治三十三年四月二十九日、福岡縣久留米市瀨下町。
渡　布　大正五年三月、マウイ島ラハイナ教會
職　業　淨土宗開教師、ラハイナ教會赴任以來同教會を擴張新築して其發展に盡力、又昭和日本語學校長を兼ね淨土宗明照青年會、同婦人會を率ひ教學方面にも活動す。

鞍掛實市

現住所　ホノルル市十番街一四一九。
出　生　明治十五年八月二十六日、廣島縣比婆郡小奴可村。
渡　布　大正元年末。
修　學　明治三十四年廣島縣師範學校卒。
職　業　學校長。
初め鄕里湯木及大屋小學校に勤務十年、來布後マウイ島カフルイ日本語學校長、マウイ貯金會社支配人、同島ラハイナ本願寺學園長を經、大正十五年九月ホノルル、カイムキ日本語學校長に轉じ今日に至る。

熊戸政照

現住所　ホノルル市十一番街六一九。
出　生　明治三十年十二月一日、布哇。
修　學　一九一八年マツキンレー・ハイスクー

草岡信次郎

現住所　布哇島ホノム
出　生　明治十一年三月十八日、廣島市仁保町

出生　明治三十年八月二十日、山口縣大島郡小松町。

渡布　大正三年一月二十六日、鄉里にて中學程度の課程を卒ふ。

職業＝學校長。

初め耕地勞働をしてゐたが、間もなくカウアイ島の洋園時報社に入る。其後日布時事社カウアイ支局員、洋園時報特別通信員として、傍ら雜誌取次業をなす。

大正十五年九月同島アナホラ日本語學校教師

日本語學校長を兼ね淨土宗明照寺靑年會、同志人會を率ひ敎學方面にも活動す。

鞍掛寅市

現住所　ホノルル市十番街一四一九。

出生　明治十五年八月二十六日、廣島縣比婆郡小奴可村。

渡布　大正元年末。

修學　明治三十四年廣島縣師範學校卒。

職業　學校長。

初め鄉里湯木及大屋小學校に勤務十年、來布後マウイ島カフルイ日本語學校長、マウイ貯金會社支配人、同島ラハイナ本願寺學園長を經、大正十五年九月ホノルル、カイムキ日本語學校長に轉じ今日に至る。

熊戸政照

現住所　ホノルル市十一番街六一九。

出生　明治三十年十二月一日、布哇。

修學　一九一八年マツキンレー・ハイスクール卒。此間中央學院に日本語を學び同學院中學部卒。

職業　商店支配人

多年布哇電氣會社事務員を勤め、一九三一年七月ラムゼー商會に入り電氣冷藏庫、洗濯機等の販賣に成績を擧げ、一九三四年八月同商會パラマ支店支配人に拔擢され今日に至る。

餘業　日本人市民協會々員、カイムキ地方人會副會長たり。

國村杏輔

現住所　布哇ヒロ市キノーレ街。

出生　明治二十六年八月十八日、山口縣。

渡布　大正五年六月十九日、ハワイ島ヒロ市

職業　商業。

初めヒロ市荒川睦計店支配人となり、一九三〇年店主荒川主馬之助氏歸朝するや自ら同店を支配經營して今日に至る。ヒロ中央協議會々計、ヒロ日本人商業會議所會員たり。

餘業　ヒロ日本人獨立學校學務委員として敎育事業に盡し、ヒロ日本人庭球クラブ主將たり。

草尾雄五郎

現住所　オアフ島ハレイワ

出生　明治二十年四月十日、廣島市大手町八丁目。

渡布　大正八年一月。

職業　新聞社員

故國にて時事新報社外交部に在り、大正元年渡米してロスアンジエルスなる羅府新聞に勤む。渡布後ホノルル布哇新報社に轉じ、同社オアフ島ワイアルア支社主任として今日に至る。公共事業に貢獻多し。

草岡信次郎

現住所　布哇島ホノム

出生　明治十一年三月十八日、廣島市仁保町

渡布　明治三十二年九月三日、ホノルル耕地

職業　商業

最初ホノルル及カウ耕地に働き、一九一〇年ホノムに轉じ商店を經營して今日に至る。

餘業　此間ホノム學園學務委員長、ホノム日本語學校委員長を勤め、現在東本願寺敎團常務理事、ホノム商業組合長たり。

桑原群一

現住所　布哇島ヒロ市カメハメハ街

出生　明治二十一年七月、廣島縣高田郡鄉野村。

渡布　明治四十年六月二十三日、ハワイ島ヒホヌマ耕地。

職業　商業

。最初ビホヌマ耕地に就働、後甘蔗栽培に從事すること八年にして同地に商店を開く。大正十年ヒロ、カメハメハ街に移り、日米雜貨食料品店を經營して今日に至る。

餘業　ヒロ日本人商業會議所常議員、ヒロ獨立日本語學校學務委員長及同校財團法人の管理者たり。

町田龍助

現住所　ホノルル市北キング街五二八

出生　明治十七年九月十七日、山口縣都濃郡高田町字川崎町

渡布　明治三十四年、ハワイ島ヒロ

修學　明治四十一年歸朝して藥劑師の免狀を得。

職業　藥店主

初めヒロにて兄町田友三氏の事業を補け、其後藥店をマウナケア街ベレタニア街角に開き

北キング街に移轉し今日に至る。
氏の兄弟四人各々藥店をハワイ島、マウイ島
ホノルルニ經營し皆な成功してゐる。
餘　業　パラマ日本語學校重役、布哇日本人藥
劑師會役員たり。
趣　味　將棋、角力。

榊田竹太郎

現住所　ホノルル市南キング街二六四二
出　生　明治二十二年八月八日、新潟縣北蒲原
郡葉雲寺村大字稲岡。
渡　布　明治三十九年三月、カウアイ島カパ
耕地。
職　業　酒造業
最初カパー耕地就働、共後ワイニハ水力電氣
會社勤務、大正元年ホノルル布哇清酒會社に
六年勤務す。禁酒法實施後は味噌糀製造に從
事、同法撤廢さるゝや酒造業をも開始し今日
に至る。
餘　業　布哇新潟縣人會々長、ホノルル商業組
合役員、曹洞宗教團重役たり。

冠　念一

現住所　ホノルル市センター・アベニュー一二
五四
出　生　明治十五年十二月二十日、廣島縣安藝
郡戸坂村
渡　布　明治三十八年、ホノルル
修　學　來布後ホノルルに學僕たること半ケ年
職　業　商　業
ホノルル・ラナイ島に一年餘を過し、共後多
年マウイ島ラハイナなる外人經營酒類商パニ
オニア・コンパニーに在り、累進して副社長
兼支配人たり。禁酒法實施後ホノルルに出で
シューマン自動車會社日本部支配人を經、同
島ワイパフ・モーター株式會社々長兼支配人
となり、一九三三年迄勤務す。一九三三年ス
タンダード・セールス商會を創め、ギルフラ
ン・ラヂオ布哇總代理店、共他電氣器具一切
の事業を經營す。

笠本貞一

現住所　布哇島ヒロ市ピオピオ街
出　生　ハワイ島ラツパホエホエ
修　學　一九二一年ヒロ・ハイスクール卒、一
九二九年加州大學醫科卒、醫學士となり、更
に二年間同大學病院にて實地研究す。
職　業　醫　師
歸布後ヒロ市に開業して今日に至る。
餘　業　ヒロ・ハイスクール同窓會々長、ヒロ
・ライオンスクラブ副會長、少年義勇團副團
長、日系市民協會々長として活動す。

片桐政利

現住所　オアフ島ハレイワ
出　生　一九〇四年五月十二日、オアフ島ハレ
イワ
修　學　一九二二年ホノルル市マツキンレー・
ハイスクール卒、一九二六年布哇大學卒、バ
チエラー・オブ・アーツの學位を得。
職　業　販賣支配人
初めヌアヌ基督教青年會男子部主任となり、
共後ワヒアワグラース會社販賣部支配人を經
同社ワヒアワ支店なるワヒアワ・サービス・
モータース商會販賣支配人として今日に及ぶ
新進氣鋭の青年紳士たり。
餘　業　ワヒアワ公民協會、ハレイワ青年會、
ワイアルワ・コスモポリケン社交クラブ、チ
カソウギルド、ワイアルワ・ゴルフクラブ、
ホノルル日本人ゴルフクラブ等の中堅會員た
り。

川上正三

現住所　ホノルル市北キング街四一五
出　生　明治二十三年三月二十日、廣島縣比婆
郡東城町
ラウ耕地。
職　業　商　業
初めハカラウ耕地に大工として働き、共後米
國政府監獄結乘組員たり。大正二年六月歸布
南キング街に肉類及雜貨商を開業し貸家業を

カソウギルド、ワイアルワ・ゴルフクラブ、ホノルル日本人ゴルフクラブ等の中堅會員たり。

川上正三

渡布　明治四十年四月七日
職業　商業
現住所　ホノルル市北キング街四一五
出生　明治二十三年三月二十日、廣島縣比婆郡東城町

最初白人經營の酒類卸商に入り旭商會に轉じ其後佐久間房吉氏と共同して野中商店を買收し、佐久間商會を創立す。數年前佐久間氏と別れ同商會を獨立經營して今日に至る。
餘業　本願寺學園學務委員、大神宮教圖鑒査役等にして公共事業に盡力す。

河村照道

現住所　オアフ島ハレイワ
出生　明治三十八年三月三十一日、奈良縣添上郡辰市村東九條、舊姓は藪田。

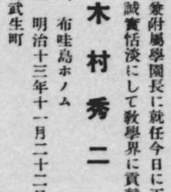
渡布　昭和六年四月十六日、オアフ島ハレイワ弘昭寺。
修學　高野山大學修了、僧階中僧都
職業　開教使、ハイレア弘昭寺住職

茅原長助

現住所　ホノルル市南キング街一四六九
出生　明治十九年七月一日、山口縣大島郡屋代村
渡布　明治三十六年十月十七日、布哇島ハカラウ耕地。
職業　商業
初めハカラウ耕地に大工として働き、其後米國政府巡邏船乘組員たり。大正二年六月歸布南キング街に肉類及雜貨商を開業し貸家業を兼ね今日に至る。
餘業　日本人慈善會理事、マキキ日本語學校會計、淨土宗教團顧問、マキキ地方人會副理事長、天台宗佛心會副會長、布哇羅紗會社監査役たり。社會事業に貢獻多し。

菊地智旭

現住所　布哇島ナアレフ
出生　明治九年二月二十五日、佐賀市道祖元町



渡布　明治四十年七月十日、ホノルル
修學　京都文學寮及佛教大學
職業　開教使
初め母國にて中等學校數學教師を勤め、來布後ハワイ島パハラ及カウナアレフ本願寺布教場駐在兼同附屬日本語學校長、カウアイ島ワイメア本願寺、ヒロ本願寺、マウイ島本願寺駐在を經、大正三年再びカウナアレフ本願寺駐在兼附屬學園長に就任今日に正る。人格高潔、誠實恬淡にして教學界に貢獻大なり。

木村秀二

現住所　布哇島ホノム
出生　明治十三年十一月二十二日、福井縣南條郡武生町
渡布　大正四年十月、ハワイ島ホノム

ホノルル・ラナイ島に一年餘を過し、其後多年マウイ島ラハイナなる外人經營酒類商パニオニア・コンパニーに在り、異進して副社長兼支配人たり。禁酒法實施後ホノルルに出でシューマン自動車會社日本部支配人を經、同社々長兼支配人となり、一九三四年迄勤務す。一九三三年ス

初めスアヌ基督教青年會男子部主任となり、其後ワヒアワグラース會社販賣部支配人を經同社ワヒアワ支店なるワヒアワ・サービス・モーターズ商會販賣支配人として今日に及ぶ新進氣鋭の青年紳士たり。
餘業　ワヒアワ公民協會、ハレイワ青年會、ワイアルワ・コスモポリケン社交クラブ、チ

木下白夫

職　業　學校長
現住所　ホノルル市フォート街一二八一
氏は明治三十年八月二十五日布哇に生れたが
初め鄉里武生南小學校勤務、後、神山小學校長を經、武生尋常高等小學校に轉ず。着布後ハワイ島ホノム學園長を經、大正十三年三月ホノム日本語學校長に就任し今日に至る。此間ハワイ島教育會幹部、布哇教育會代議員に推され邦語教育に盡せり。
修　學　明治三十五年三月福井縣師範學校卒。六週間現役服務、國民軍幹部適任證を受く。

木下梅市

原　籍　和歌山縣海草郡大崎村
現住所　馬哇島カフルイ。明治二十三年十月十八日に生る
渡　布　明治四十年二月マウイ島プウネネ耕地
幼時原籍旗島縣佐伯郡五日市町に歸國し、大正二年十一月來布、布哇中學に入り、更に獨學して早稻田大學校外生第三十五回卒業、木下家具店パラマ支店長たること二ケ年、後本店に入り貸家業も經營す。オアフ廻漕株式會社長たること二十年に及ぶ。氏は幼少の頃より家傳北辰一刀流を學び、大正十一年布哇講武會師範に推擧せられ、昭和四年には布哇武德館を新築して館主となり、大日本武德會より劍道五段の免許狀を授與された。布哇有段者會副會長、同審査委員、本派本願寺理事、五日市町人會顧問、實業同盟會理事等に歷任、大いに努力しつゝある。

北島良雄

現住所　布哇島コハラ・カパアフ
出　生　明治三十年四月三十日、佐賀縣佐賀郡中川副村字早津江
渡　布　大正十一年九月二十二日、ホノルル。
修　學　大正十一年東京大正大學卒
職　業　會社長兼支配人
大正二年株式會社カフルイ日本人商會簿記係となり、進んで同會社大株主となり、社長兼支配人として今日に至る。新進氣鋭の實業家にして社會公共事業に盡すこと多大。
餘　業　カフルイ日本語學校學務委員、カフルイ青年會顧問、同地野球團監督である。
修　學　ラハイナルナ・スタールを苦學卒業。

久慈月昇

職　業　淨土宗開教使
ホノルル淨土宗開教院駐在、ハワイ島オーカラ日本語學校長兼淨土宗オーカラ布教所駐在を經、昭和七年九月二十二日來同島コハラ郡カパアウ教會堂及附屬ホノマカウ日本語學校主任たり。コハラ教育會理事長、コハラ寺教團々長、布哇教育會第十二區地方理事等として社會事業に盡力す。
現住所　ホノルル市マキキ街一四二九
出　生　靑森縣下北郡川內町大字川內一七四番地
渡　布　昭和五年十二月四日、ホノルル
修　養　大正十一年四月一日僧籍に入り、昭和

職　業　淨土宗開教使
着布來ホノルル市淨土宗開教院に在り、同寺敷地購入、殿堂新築等のため活動し今日に及ぶ。
五年十月二十四日布哇開教區開教使拜命。
渡　布　大正二年。
修　學　明治四十一年廣島縣立廣島商業學校卒
職　業　商　業。
渡布前三菱合資會社若松支店勤務たりしことあり。着布後、精々堂商店、布哇清酒會社に勤め、一九一九年小林吳服店を獨立開業、傍ら一九二六年來キースター式布哇裁縫專門學校を經營、業勢發展して今日に至る。
餘　業　山口縣人同志會理事、ホノルル日本人商業組合理事、山口縣大島郡人會理事長、キースター式布哇裁縫專門學校支配人たり。

五年十月二十四日布哇開教區開教使拜命。

職　業　浄土宗開教使
着布來ホノルル市浄土宗開教院に在り、同寺敷地購入、殿堂新築等のため活動し今日に及ぶ。

勝沼富造

現住所　ホノルル市メトカーフ街二三〇四
出　生　文久三年十月六日、福島縣三春町亀井後、勝沼姓を襲ふ。

渡　布　明治三十一年一月十五日ホノルル。
修　學　仙臺外國語學校、東京大學豫備校岡塾共立學校、獸醫學校等に學ぶ。同二十二年四月兄重教氏と共に渡米、羊牛飼育、養蠶等を試み、ブリガムヤング・カレツヂに神學を修む。
職　業　獸醫
來布後米國移民局官吏たること二十七年、兩來獸醫として今日に至る。此間日米親善のため布哇同胞のために盡瘁す。

小林政一

現住所　ホノルル市北キング街二二七
出　生　明治二十二年一月五日、山口縣大島郡屋代村。

渡　布　大正二年。
修　學　明治四十一年廣島縣立廣島商業學校卒
職　業　商　業。
渡布前三菱合資會社若松支店勤務たりしことあり。着布後、精々堂商店、布哇清酒會社に勤め、一九一九年小林吳服店を獨立開業、傍ら一九二六年來キースター式布哇裁縫專門學校を經營、業勢發展して今日に至る。
餘　業　山口縣人同志會理事、ホノルル日本人商業組合理事、山口縣大島郡人會理事長、キースター式布哇裁縫專門學校主事たり。

小池美男

現住所　布哇島オノメア
出　生　明治十八年二月一日、廣島縣甲奴郡田總村本屋

渡　布　大正三年十二月二十日、布哇島パ、イコウ本願寺學園。
修　學　廣島縣師範卒
職　業　學校長
最初母國にて小學校長、實業學校長たり、渡布後パ、イコウ本願寺學園に勤務す。大正七年ヒロ肥料會社に入り、傍らヒロ本願寺中學に奉職、同十三年一月オノメア日本語學校長に轉じ、此間ヒロ肥料會社に勤續し今日に至る。
餘　業　布哇島中央教育會理事、同聯合青年會々長、布哇武德會々長、大正寺教團々長、ヒロ養鷄組合長、オノメア佛青名譽會長等を兼ね社會的貢獻多大なり。

小泉源作

現住所　オアフ島ライエ
出　生　明治三十一年八月二十六日、福島縣に生る。舊姓渡邊。
渡　布　大正三年六月六日。

主となり、大日本武德會より劍道五段の免許狀を授與された。布哇有段者會副會長、同審査委員、本派本願寺理事、五日市町人會顧問、實業同盟會理事等に歷任、大いに努力しつゝある。

木下梅市

原　籍　和歌山縣海草郡大崎村
現住所　馬哇島カフルイ。明治二十三年十月十八日に生る
渡　布　明治四十年二月マウイ島プウネネ耕地主任たり。コハラ教育會理事長、コハラ寺教團々長、布哇教育會第十二區地方理事等として社會事業に盡力す。

久慈月昇

現住所　ホノルル市マキキ街一四二九
出　生　青森縣下北郡川內町大字川內一七四番地
渡　布　昭和五年十二月四日、ホノルル
修　養　大正十一年四月一日僧籍に入り、昭和

學　修　着府後苦學して日英兩語の習得に努む
職　業　一九二四年オアフ島ラエイ日本語學校長に就任して今日に及ぶ。一九二七年同島ワヒアワなる小白貞次郎氏の婿養子となる。
餘　業　養鷄事業を營む。

小島定吉

現住所　ホノルル市ベレタニア街二八四
出　生　明治二十二年六月二日、東京

渡　布　一九一五年來布、其後世界各國を巡遊し、一九二四年二月再び渡布。
修　學　東京正則中學卒。一九二一年シカゴ、ネバビル西北大學卒。南米、歐洲、印度、支那、鮮滿に遊ぶ。
職　業　書籍店業
一九二四年二月再び布哇に來るや書籍店を創設して今日に至る。

小島彦治

現住所　馬哇島ハイクウ、ペアヒ
出　生　明治二十六年四月二十八日、山口縣都濃郡下松町東豐井

渡　布　大正六年。
職　果　學校長
母國にて小學校に來職し、來布後各地日本語學校に勤め、現在はマウイ島ペアヒ日本語學校長たり。

古明地利輔

現住所　ホノルル市イウリー街九六三
出　生　明治二十三年五月三日、山梨縣東山梨郡西保村字中村
渡　布　明治四十年三月九日、ハワイ島パヽイコウ耕地。
職　業　家具商
パヽイコウ耕地に就働一ケ年にしてホノルルに出で、布哇日日新聞社、林商店に勤め、更にオアフ島カハルウ・ストアを經て再びホノルルに出で富土家具商會に勤務す。大正十年同志と共に旭家具商會を開業、其支配人たり
餘　業　布哇山梨縣人會理事長、パラマ日本語學校副學務委員長、ホノルル日本人家具商組合會計、曹洞宗教團會計として社會公共事業に盡力す。

高無萬之助

現住所　オアフ島アイエア
出　生　明治十四年十一月十五日、山口縣都濃郡富田町。
明治三十一年十日ドーリック號にて來布、ホノルルに一ケ年を過して後アイエア耕地に就働し、間もなく同耕地病院に勤務することになりて今日に及ぶ。物質的にも社會的にも成功し、アイエア實業同志會々長、アイエア親交會顧問日本語學校顧問、日本赤十字社特別會員、ホノルル信託株式會社々長等の重席に在り、內外の信任も厚い。家族には夫人マキ、長女靜江、次女雪江、三女光江がある。

前田勘司

現住所　ホノルル市北キング街二四三
出　生　明治二十三年六月八日、長野縣東筑摩郡山形村
渡　布　明治四十年、ホノルル。
職　業　商　業
ホノルル日の出製麵會社支配人、カリヒなるアメリカ製麵會社支配人を經、一九二六年獨立してベレタニア街に「甘栗太郎」商店を開き、支那產菓並に菓子類一切を販賣す。其後北キング街に移轉、發展して今日に至る。
餘　業　ホノルル日本人商業組合理事、商業信用組合監査、太平洋釀造會社理事、信濃會々長、カリヒ同志會副會長である。

前山凜司

現住所　ホノルル市スクール街六一〇
出　生　明治三十一年四月七日、新潟市西堀通
麻里布町製東
家庭に働くこと約五年、一九一七年同地にホテルを經營し今日に至る。同地方有數の旅館である。

槇島靜

現住所　ホノルル市ホテル街六一
出　生　明治三十三年六月九日、山口縣玖珂郡

き、支那産樂並に菓子類一切を販賣す。其後北キング街に移轉、發展して今日に至る。

餘　業　ホノルル日本人商業組合理事、商業信用組合監査、太平洋釀造會社理事、信濃會々長、カリヒ同志會副會長である。

前山凜司

現住所　ホノルル市スクール街六一〇

出　生　明治三十一年四月七日、新潟市西堀通四番地

渡　布　明治四十三年十二月四日、ハワイ島ニノレの父の許に來る。

職　業　會社支配人

學僕生活、ヒロ市畑商店勤務を經、一九二〇年父の死後その商店を經營す。其後ヒロ市モゼス商會、ホノルル電報新聞を經、オアフ島スコツフイールドの長谷川商會支配人に轉じ後ワイアルアグレージ株式會社に入社、一九三三年十一月來同社ホノルル支店イージアプライインス支配人である。

前原禎一郎

現住所　マウイ島プウネネ

出　生　明治十七年六月十日、廣島縣甲奴郡吉野村字小堀

渡　布　明治三十七年三月十四日、マウイ島クラ日本語學校。

修　學　廣島修道校卒、小學教員の免狀を受く

職　業　學校長

マウイ島クラ日本語學校に勤務四年、轉じてプネネ日本語學校長に就任して今日に及ぶ。

マウイ教育會理事、布哇教育會代議員、同教科學編纂委員として教育事業に盡す。

眞子金藏

現住所　布哇島コナ・キヤプテン・クツク

出　生　明治二十四年七月七日、福岡縣久留米市國分町

渡　布　明治四十年一月二十八日、ハワイ島カウ耕地。

職　業　旅館業

最初カウ耕地に約八ケ月、次いでホノルルに約三ケ月を過し、其後ハワイ島コナにて白人家庭に働くこと約五年、一九一七年同地にホテルを經營し今日に至る。同地方有數の旅館である。

槇島靜

現住所　ホノルル市ホテル街六一

出　生　明治三十三年六月九日、山口縣玖珂郡麻里布町裝束

渡　布　大正十年五月、ホノルル。

修　學　岩國中學卒。

職　業　商　業

來布後ホノルル一流の時計貴金屬商店なる天賞堂時計店支配人として今日に至る。

餘　業　日本人時計店組合長、布哇佛教青年會理事である。

間宮敏雄

現住所　ホノルル市マキキ街一四二九

出　生　明治四十一年五月十日、滋賀縣蒲生郡中野村中野

渡　布　昭和七年一月二十日、ホノルル淨土宗別院。

修　學　東京大正大學高等師範部卒、國語漢文の中等教員免許狀を下附さる。

職　業　淨土宗開教師

來布前文部省普通學務局に勤め、來布後ホノルル別院詰兼布哇シユドハ學院女學校教諭である。

桝尾德二

現住所　オアフ島プーロア

現住所　ホノルル市北キング街二四三

出　生　明治二十三年六月八日、長野縣東筑摩郡山形村

渡　布　明治四十年、ホノルル。

職　業　商　業

ホノルル日の出製鋼會社支配人、カリヒなるアメリカ製鐵會社支配人を經、一九二六年獨立してベレタニア街に「甘栗太郎」商店を開

渡　布　大正六年。

職　果　學校長

母國にて小學校に奉職し、來布後各地日本語

出　生　明治三十一年十月一日、山口縣玖珂郡由宇町

渡　布　大正八年、マウイ島
職　業　學校長
マウイ島ワイルク學園教師、同島ハイク日本語學校長を經、一九三一年九月オアフ島プーロア日本語學校長に轉じ今日に至る。

眞下龍平

現住所　ホノルル市マキキ
出　生　慶應三年二月二十八日、栃木縣足利郡御厨町字福居九〇番地。

渡　布　明治三十五年八月一日、ホノルル
修　學　明治二十三年栃木縣師範學校卒
職　業　教育家
。最初栃木縣にて小學校、師範學校に奉職、明治三十五年八月一日ホノルル市ヌアヌ日本人小學校長に就任、同四十五年四月一日同市マキキ日本語學校に轉じ、勤續三十餘年にして一旦辭任歸朝し、一九三五年歸布して同校中會部に奉職し今日に至る。此間布哇教育會常務理事、新布哇教育會常務理事に就任した布哇日本人教育界の大恩人である。

松田隆彦

現住所
出　生　明治三十年八月一日、香川縣綾歌郡加茂氏部
渡　布　大正十四年六月、マウイ島パイア本願寺。
修　學　東京東洋大學哲學國漢科卒
職　業　開教使

最初東京商工學校に勤務、來布後マウイ島パイア本派寺駐在、ハワイ島ヒロ市本願寺立中女學校々長を經、ホノルル市本願寺駐在並に中、女學校教諭兼本願寺社會部主任として今日に至る。昭和六年日本內地及滿洲、滿洲、朝鮮方面を視察す。

松田猪七

現住所　ホノルル市ジヤツド街七九四
出　生　明治十一年十一月、山口縣大島郡小松町

渡　布　明治三十二年二月、ハワイ島ワイナク耕地。
職　業　商　業
。最初ワイナク耕地に就働、其後ホノルルにて白人家庭に働き、明治三十六年山一旅館を開業、九年にして日米雜貨食料品商に轉業す大正七、八年頃發起人となり同市にアラ市場を創立、今日の盛大を致し共重役である。氏の商店も同市場內に移り繁榮してゐる。
餘　業　大島郡人會、小松町人會、山口縣人同志會幹部等を勤め社會的貢獻が多い。

松村政人

現住所　布哇島ククキハエレ
出　生　明治二十三年二月二十二日、山口縣玖珂郡鳴門村字大久保
渡　布　明治四十年一月九日、ハワイ島ククイハエレ耕地。

職　業　耕地監督
來布以來ククイハエレ耕地に在り、多年同耕地勞働監督を勤め、耕地內外人間に重きをな

してゐる。
餘　業　ククイハエレ日本語學校學務委員長たりしこと十數年、同校をして今日あらしめた功勞者にして、山口縣防長海外協會同地支部長である。

正木知足

現住所　オアフ島ハレイワ
出　生　明治四十二年十二月十五日、廣島縣佐

職　業　淨土宗開教師
大正十年十一月三十日マウイ島プウネネ教會主任を拜命、同十一年一月同島ワイルク教會兼務を命ぜられ、更に附屬女學校を經營して今日に至る。

三宅昇

現住所　加哇島ワイメア
出　生　一八九六年カウアイ島ワイメア

布哇日本人教育界の大恩人である。

松田隆彦

現住所
出生　明治三十年八月一日、香川縣綾歌郡加茂氏部
渡布　大正十四年六月、マウイ島パイア本願寺。
修學　東京東洋大學哲學國漢科卒
職業　開教使

職業　耕地監督
來布以來クイハエレ耕地に在り、多年同耕地勞働監督を勤め、耕地内外人間に重きをなしてゐる。

渡布　昭和六年六月五日、ホノルル別院。
修學　福岡縣八幡中學及東京大正大學專門部佛教科卒。
職業　淨土宗開教使
最初ホノルル別院に駐在、其後オアフ島ハレイワ淨土宗教會堂駐在兼附屬大正學校教師として今日に至る。傍ら明照女子青年會及日曜學校主任である。

御旗義登

現住所　ホノルル市ユニヴアシチー・アヴエニユー
出生　一九〇六年十一月二十日、布哇島ヒロ
修學　マツキンレー・ハイスクールを經、一九二四年布哇大學を卒へ、バチラー・オブ、アーツの學位を得。在學中は辯論部一方の雄たり。
職業　劇場支配人
國際信託會社勤務を經、義父澤村氏の事業を補けてホノルル座支配人及會計となり今日に及ぶ。
餘業　日本人公民協會佛教青年會の中堅會員である。

三上運海

現住所　馬哇島プウネネ
出生　島根縣那賀郡三保村大字湊浦
渡布　大正十年七月、ホノルル開教院
職業　淨土宗開教師
大正十年十一月三十日マウイ島プウネネ教會主任を拜命、同十一年一月同島ワイルク教會兼務を命ぜられ、更に附屬女學校を經營して今日に至る。

三宅昇

現住所　加哇島ワイメア
出生　一八九六年カウアイ島ワイメア
修學　ワイメア公立學校卒

職業　會社支配人、郡參事會員。測量助手、ワイメアグレージの機械士を經、一九二一年ワイメアグレージ及電氣會社々長となり、一九三二年來同會社々長兼支配人である。此間一九三〇年カウアイ郡參事に當選、一九三四年再選され今日に及ぶ。
餘業　カウアイ郡租稅局顧問官、カウアイYMCA委員、西部カウアイ公民協會々長、ワイメア・コンミニテ・ホール常務理事、ワイメア青年會幹部、米國々民軍士官である。

宮城源永

現住所　ホノルル市ワイアラエ街オイリー角
出生　明治十七年二月八日、沖繩縣國頭郡羽地村字我部祖河五五九

渡布　大正八年
修學　中學、高等學校を經、明治四十四年東京帝國大學法科を卒へ法學士となる。
職業　學校長
大正十五年ホノルル市郊外ワイアラエ日本語學校に迎へられ校長となり今日に至る。
趣味　圍碁を能くし、昭和九年日本棋院より

三段を免許さる。

宮本文哲

現住所　オアフ島ハレイワ
出　生　明治二十一年九月三日、大分縣北海郡臼杵村。舊姓加納、十一歳にして同縣津久見町長泉寺、宮本玄哲の養子となり宮本と改姓す。

渡　布　大正四年七月、オアフ島ハレイワ。
修　學　大正四年淨土宗立宗教大學卒
職　業　淨土宗開教師
着布來オアフ島ハレイワ淨土宗教會堂及附屬大正大學主任として今日に至り、教學兩方面に活動す。

森村一二

現住所　ホノルル市北キング街四五七
出　生　明治二十四年四月十三日、廣島縣豐田郡川源村字清武。
渡　布　明治四十二年四月二十八日、布哇島。
修　學　布哇島ヒロ、ボーデング・スクール、同ハイ・スクールに學ぶ。
職　業　樂器店主
一九一三年布哇島プナ・パホアの布哇材木會社事務員となり、翌年布哇報知社事務局に入り、一九一六年パラマにパラマ樂器店を創立して今日に至る。
餘　業　パラマ日本人町同志會書記を勤め、亦柔道を好み多年春陽館道場役員たり。

毛利典儀

現住所　ホノルル市ワイアラエ街二八五五
出　生　明治二十九年三月二十四日、熊本縣玉名郡腰合村大字西照寺
渡　布　大正八年八月六日、ホノルル東本願寺
修　學　大正八年六月京都大谷大學卒。
職　業　東本願寺開教師。

最初ホノルル東本願寺に在勤二年にして、勉學のため渡米し、大正四年歸布しホノルル市

モイリ、東本願寺に在勤して今日に至る。敷地を購入して本堂及庫裡を新築する事等旺に活動してゐる。
餘　業　モイリ、日本語學校中、女學部講師である。

毛利忠弘

現住所　布哇島ラツパホエホエ
出　生　明治十九年一月一日、福岡縣鞍手郡吉川村字脇田二四一六番地。

渡　布　明治四十年六月四日、モロカイ島。
職　業　勞働監督
最初モロカイ島にて養蜂事業に從ひ、其後布哇島ホノムに移り製糖會社に勤務す。明治四十三年オーカラ耕地に轉じ、大正三年來ラツパホエホエに來り、甘蔗小作業兼勞働者監督である。
餘　業　オーカラ耕地在住當時は青年會、小作同盟會を組織して同胞のために盡し、現在はラツパホエホエ教會信徒總代、日本語學校學務委員長として教育、公共事業に活動す。

村上清一

現住所　ホノルル市コイン街二〇四五
出　生　一九〇〇年七月五日、カウアイ島コーラウ。
修　學　一九三〇年縣師範學校卒。其後渡米してシカゴ市クレン大學を經てシカゴ大學法科に入り、一九二五年卒業法學士の學位を得。

此間日本語は布哇中央學院一九一九年の卒業である。

職業商業
エワ本願寺學園及ホノルル本願寺學園教師、

柔道を好み多年春陽館道場役員たり。

毛利典儻

現住所　ホノルル市ワイアラエ街二八五五
出　生　明治二十九年三月二十四日、熊本縣玉名郡腰合村大字西照寺
渡　布　大正八年八月六日、ホノルル東本願寺
修　學　大正八年六月京都大谷大學卒。
職　業　東本願寺開教師。

村上清一

現住所　ホノルル市コイン街二〇四五
出　生　一九〇〇年七月五日、カウアイ島コーラウ。
修　學　一九三〇年縣師範學校卒。其後渡米してシカゴ市クレン大學を經てシカゴ大學法科に入り、一九二五年卒業法學士の學位を得。務委員長として教育、公共事業に活動す。

此間日本語は布哇中央學院一九一九年の卒業である。

職　業　辯護士。
最初トムソン代言組合に勤め、一九二七年以來獨立して村上法律事務所を開き一般法律事務を取扱つて居る。
餘　業　布哇日本人公民協會々長、布哇中央學院理事及書記として社會的に活躍すること多大である。

村丸馬太郎

現住所　布哇パウイロ、ポハケア
出　生　明治二十三年二月二十日、愛媛縣溫泉郡桑原村。
渡　布　幼年時代父母と共に來布。

修　學　一九一四年ホノルル太平洋學院（Mid-Pacific Institute）卒。
職　業　珈琲耕地支配人。
ホノルル、デヴイス商會事務員、ポールミチ-I果物會社簿記係を經、ハマクア珈琲耕地支配人となり今日に至る。地方の人望家で內外人間に重きをなす。
餘　業　曾てカパア日本語學校學務委員長たり

村田龍一

現住所　ホノルル市セレノ街一八二六
出　生　明治二十一年三月二十五日、山口縣玖珂郡柳井町姫田
渡　布　明治四十一年一月八日。
修　學　來布後暫時學生々活をなし英語の勉強に沒頭す。

修　學　明治三十三年淨土宗立名古屋第四教校卒。日露戰役に出征し、勳八等白色桐葉章及一時金を賜はる。
職　業　淨土宗開教師
最初ハマクア佛教會堂教育部主任兼ホノカア日本語學校長に就任、其後大正八年八月ワイナク淨土宗教會主任及附屬日本語學校長に轉じ今日に及ぶ。
餘　業　此間大正十三年布哇淨土宗開教區長代理を勤め、亦布哇教育會代議員に選出されたことあり、社會的に多大の活動をしてゐる。

中井佐次郎

現住所　ホノルル市ルナリロ街七七九（エフ）

職　業　商業
エワ本願寺學園及ホノルル本願寺學園教師、布哇佛教青年會主事を經、一九一八年より實業界に出づ。初め太平洋銀行に勤め、一九二〇年岩永商會に支配人として入り、一九三二年岩永氏隱退の後を受け同商會を改組、マルマン商會と改名し爾來經營に當つてゐる。
餘　業　布哇佛青聯盟理事長、布哇佛教青年會副理事長、柳井會々長、日本人商業組合理事日本人信用組合監査、布哇中學及フオート學園學務委員等として活躍す。

名護忍亮

現住所　布哇島ヒロ市
出　生　明治十四年七月十日、愛知縣海部郡江村字東條二九番地
渡　布　明治四十年十二月六日、布哇島ハマクア佛教會堂

出　生　明治十九年十二月十日、京都市下京區綾小路通堀川西入妙滿寺町五六七番地

渡　布　明治四十四年七月二十六日生

修　學　京都にて商業學校を卒へ、明治三十八年渡米して加州ヒールズ商業專門學校、イリノイ州ハミルトン法律專門學校等に學ぶ。

職　業　銀行員

最初布哇島ヒロ第一銀行に勤務すること九年轉じてヒロ太平洋貯金奬勵會社支配人たること二ケ年半である。此間ヒロ酒釀株式會社、ヒロ製麵株式會社、布哇漁業株式會社等の重役兼會計としてヒロ實業界に活動す。一九二二年ホノルル太平洋銀行に入り、其取締役及副支配人である。

餘　業　ホノルル實生會々員、同日本人商業組合會員である。

二井兼一

現住所　オアフ島ワイパフ

出　生　明治十一年三月十五日、廣島縣佐伯郡木野村

渡　布　明治四十一年一月四日、オアフ島ワイパフ耕地。

職　業　商　業

初めワイパフ耕地に就働約二年、其後現在の地に二井商店を創立して同地方唯一の大商店となし、內外人間に多大の信用を博して今日に及ぶ。

餘　業　ワイパフ本願寺教團重役、ワイパフ東町一心會々長、日本人商業聯合組合長、株式會社ワイパフ・グラージ社長を兼ね同地實業界及社交界に盡力す。

二井勘次郎

現住所　オアフ島ワイパフ

出　生　明治十八年六月二十五日、廣島縣安佐郡三入村

渡　布　明治四十年十一月九日、オアフ島ワイパフ耕地。

職　業　會社員

母國にて役場、郡役所、稅務署等に勤務す。來布後ワイパフ耕地會事務所に勤め、日本人關係の庶務を擔任して今日に至る。

餘　業　日本赤十字社特別會員、同布哇ワイパフ社員會長、ワイパフ本願寺教團重役、ワイパフ社交倶樂部理事長、布哇日本人體育協會理事長、オアフ角道教會副會長等に推され、社會公共事業に多大の盡力をしてゐる。

二木武夫

現住所　ホノルル市クツク街ビー七三五

出　生　一九一三年六月八日、ホノルル

修　學　幼時父母と共に歸朝し長野縣立木曾中學を卒へ、昭和七年一月二十九日歸布してイオラニ校に英語を學ぶ。

職　業　製麵業

父良平氏の創立せる日の出製麵株式會社支配人である。

西　力

現住所　ホノルル市北ベレタニア街二五〇

出　生　一九〇四年二月十七日、ホノルル。

修　學　幼時日本に歸り鄕里にて中學二年まで學び、大正九年二月五日歸布す。

職　業　旅館支配人

歸布後實母小林セキ經營の小林ホテル支配人として今日に及ぶ。資性溫厚誠實にして內外人より信賴さる。

餘　業　原籍地廣島縣佐伯郡なる石內村人會長である。

間佛具の新調、本堂庫裡の大新築を敢行した。目下マカウイリ布教所及同日本語學校長、ケカハ布教所に兼務し、更に日曜學校三ケ所ワイメア佛教青年會及婦人會、ケカハ佛教青年會、マカウイリ女子佛教青年會及婦人會を統轄し、カウアイ西部教育會常務理事である

餘　業　ワイメア武德會總務として武道の鼓吹に努めつゝある。

修學　幼時日本に歸り鄉里にて中學二年まで學び、大正九年二月五日歸布す。

職業　旅館支配人

歸布後實母小林セキ經營の小林ホテル支配人として今日に及ぶ。資性溫厚誠實にして內外人より信頼さる。

餘業　原籍地廣島縣佐伯郡なる石內村人會長である。

織田博愛

現住所　オアフ島アイエア

出生　明治二十六年二月十三日、山口縣吉敷郡平川村

渡布　大正十二年二月、ホノルル本願寺別院

修學　京都佛教大學（現龍谷大學）卒。

職業　開教師

初め京都駐在布教師たること一ケ年、渡布後ホノルル本願寺別院駐在一ケ年にして布哇島パパロア本願寺を經、昭和六年八月アイエア本願寺に轉じ今日に至る。

餘業及趣味　アイエア本願寺學園長を兼ね、赤生花の技に於て一家をなす。

大館誓

現住所　加哇島ワイメア

出生　明治三十一年五月八日、廣島市東日島町一三〇番屋敷

渡布　大正十年十月二十五日、ホノルル東本願寺別院駐在。

修學　廣島縣立一中及京都大谷大學卒。

職業　東本願寺開教師

初め、或は東京市社會局囑託として社會事業に、或は淺草本願寺別院囑託として教化聯盟の事業に携はる。來布後ホノルル東本願寺別院駐在を經、昭和三年カウアイ島ワイメア本願寺布教所主任となり今日に至る。資性濶達覇氣旺盛、着任以來鋭意教勢擴張に努め、此間佛具の新調、本堂庫裡の大新築を敢行した。目下マカウイリ布教所及同日本語學校長、ケカハ布教所に兼務し、更に日曜學校三ケ所ワイメア佛教青年會及婦人會、ケカハ佛教青年會、マカウイリ女子佛教青年會及婦人會を統轄し、カウアイ西部教育會常務理事である。

餘業　ワイメア武德會總務として武道の鼓吹に努めつゝある。

大藤忠

現住所　布哇島ヒロ市ハライ・ヒル

出生　一九〇三年十月一日、ハワイ島オーラーマウンテン・ビュー。

修學　ヒロ・ユニオン校及同ハイスクール卒

一九二四年より三年間布哇大學に醫科豫備科を修め、一九三一年セントルイス大學醫科を卒業して醫學士となる。同年渡日して京都府立醫科大學外科教室に助手を勤め、臨床研究を積むこと三ケ年、一九三三年歸布す。

職業　醫師

一九三三年來病院を設立經營して今日に至る。

餘業　ヒロ本願寺中學同窓會長、ヒロ佛教青年會幹部を兼ね、米國豫備陸軍少尉である。

緒方數彦

現住所　ホノルル市南キング街二五三五

出生　明治二十二年十月二日、熊本縣菊地郡西合志村大字合生。

渡布　大正三年五月二十日、マウイ島プウネネ日本語學校。

修學　明治四十三年熊本縣師範學校卒

職業　商業

初めワイパフ耕地に統勤約二年、其後現在の地に二井商店を創立して同地方唯一の大商店となし、內外人間に多大の信用を博して今日に及ぶ。

餘業　ワイパフ本願寺教團重役、ワイパフ東町一心會々長、日本人商業聯合組合長、株式會社ワイパフ・グラージ社長を兼ね同地實業

現住所　ホノルル市北ベレタニア街二五〇

出生　一九〇四年二月十七日、ホノルル。

職　業　學校長
最初母國にて師範訓導を勤め、來布後プウネネ日本語學校を經、大正七年四月ホノルル日本語學校に轉じ、同校々長及同校に併置されたモイリリ中、女學校長として今日に及ぶ。多年布哇教育會常務理事を勤め教育事業に多くの貢獻をしてゐる。

小原直喜

現住所　オアフ島プナルウ出生明治十九年三月二十五日、熊本縣下益城郡守富村大字椹津。
渡　布　明治三十八年十月三日、オアフ島ワイアルア耕地。
職　業　牧場主
初めワイアルア耕地に就働六ケ年、其後キヤスル氏經營のコーラウ製糖會社副支配人たること十八年、同會社がラエイ耕地に併合された後は大ルナとして同耕地を支配し、一九一八年獨立してオアフ島プナルウ山麓に約十英町の土地をリースして牧場を始め今日に至る餘業　プナルウ日本語學校學務委員長を勤め、同地方の有力者である。

大濱　太

現住所　ホノルル市ワイパ・レーン一〇三
出　生　明治二十五年二月一日、廣島縣安藝郡海田市町。
渡　布　大正六年七月十二日、カウアイ島ハナペペ日本語學校。
修　學　廣島縣立第一中學卒業後補習科一年修了、大正三年縣立師範二部卒業。
職　業　學校長
最初安藝郡青崎尋常高等小學校に奉職、渡布後カウアイ島ハナペペ日本語學校、ホノルル中央學院を經、大正十年九月マノア日本語學校長に就任し、共後フオート學園長となり、昭和二年更に轉じてパラマ學園長となり今日に及び、布哇中、女學校併置の師範科講師を兼ぬ。
餘　業　劍道を嗜み、中學在學中既に小野派一刀流初段の目錄を受け、昭和六年早稻田大學より二段の資格を認定され、翌七年大日本武德會より劍道二段を允許された。渡布以來各地の劍道師範に招かれ武士道精神を鼓吹してゐる。

大畑誠一

現住所　マウイ島パイア
出　生　明治十八年十二月二十一日靜岡縣志太郡東益津村字坂本
渡　布　明治四十五年三月一日、ホノルル日本人病院。
修　學　明治四十三年日本醫學專門學校卒。大正四年布哇縣醫術開業試驗合格。大正十年九月醫術研究のため歸朝し、同十二年六月歸布す。
職　業　醫　師
初めホノルル日本人病院に勤め、大正五年マウイ島ラハイナに於て開業診療に從事し、同六年七月より同島ワイルクに病院を經營すること五年である。大正十二年六月マウイ島パイアに大畑病院を設け、同十四年には所有地に宏壯なる病院を建設して今日に至る。
餘　業　マウイ教育會長、パイア日本語學校學務委員長、本願寺法務委員長を兼ね教育事業に盡瘁してゐる。

岡崎清四郎

現住所　ホノルル市
出　生　明治二十五年一月二十八日、廣島縣伊達郡掛田町。
渡　布　明治三十九年九月十一日、ホノルル。
職　業　柔道家
學僕生活、商店勤務を經、一八一〇年ホノルル商會を共同設立し、爾來電氣冷藏庫、ラヂオ、蓄音器其他一切の電氣器具の販賣に從事す。
餘　業　第二世中のリーダー格として活動し、布哇日本人公民協會、佛教青年會、布哇中學同窓會に屬し、ワイキキ日本語學校の少壯幹部である。

沖野留吉

ルより布哇島ヒロに移り商店に勤め、或は自ら卸商店ローヤル・サプライ商會を創立經營し、傍ら柔道マツサージを習得し、心勇會なる柔道々場を起し、ハワイ各島の支部二十八ケ所に達す。一九二二年英國ボクシング選手モリスの挑戰に應じ、之を一擊の下に打倒してより其名布哇全島は勿論、故國にまでも傳へられた。一九二四年故國に武者修業の途に

ルより布哇島ヒロに移り商店に勤め、或は自ら卸商店ローヤル・サプライ商會を創立經營し、傍ら柔道マツサージを習得し、心勇會なる柔道々場を起し、ハワイ各島の支部二十八ケ所に達す。一九二二年英國ボクシング選手モリスの挑戰に應じ、之を一撃の下に打倒してより其名布哇全島は勿論、故國にまでも傳へられた。一九二四年故國に武者修業の途に上り、講道館より有段免狀を下附された。其後マウイ島に移り、更に轉じて一九三一年一月ホノルルに整腹術院を開き今日に至る。一九三四年七月大統領ルーズヴエルト氏來布の折、其宿舍に伺候してマツサージをなすの光榮に浴した。

岡村重一

現住所　布哇島パパロア
出　生　明治二十一年八月二十二日、熊本縣
出身。大正三年布哇島パパロア岡村一氏の婿養子となり岡村姓となる。
渡　布　明治四十一年ハワイ島ヒロ。
修　學　鄉里にて中等教育を卒ふ。來布後ヒロ、ボーデング・スクールに學び、更に大陸に學ぶ。
職　業　商店主、學校長
初め實兄の經營せるヒロ市植民新聞社に翻譯記者を勤め、其後パパロアに移り日米雜貨商を開き、傍ら甘蔗栽培に從事し、大正十二年來パパロア日本語學校長を兼ね今日に至る。

沖石勇

現住所　ホノルル市ラウキマウ街三〇三一
出　生　一九〇四年二月二十二日、ホノルル。
修　學　ホノルル市ローヤル・スクールを經、一九二三年マウキンレー・ハイスクール商業科卒。此間日本語は一九一九年布哇中學を卒業してゐる。
職　業　商　業
初めターナー會社、シューマン自動車會社、シューマン・モーター會社に夫々帳簿係を勤め、其後チヤールスハセベ商會、ワイアラエ・セールス會社を經、スタンダード・セール、ランド會社、スタングード・セール一九三四年十一月緒方元藤氏とアロハ・セールス商會を共同設立し、爾來電氣冷藏庫、ラヂオ、蓄音器其他一切の電氣器具の販賣に從事す。
餘　業　第二世中のリーダー格として活動し、布哇日本人公民協會、佛教青年會、布哇中學同窓會に屬し、ワイキキ日本語學校の少壯幹部である。

沖野留吉

現住所　布哇島ヒロ市ミリアミ街
出　生　一九〇六年五月十日、布哇島ヒロ、ワイアケア
修　學　一九二五年ヒロ・ハイスクール卒、其後渡米し一九二九年オベリン大學を卒へ、パチエラー・オブ・アーツの學位を得。更にハアヴアード大學法科に學び一九三二年法學士となり歸布す。
職　業　歸布後ヒロ市に事務所を開き一般法律事務を取扱ひ、其後同島プナ郡裁判所判事を兼ね今日に至る。
餘　業　布哇辯護士協會、布哇ハーヴアード大學クラブ、ヒロ日本人中學校同窓會、ヒロ・ライオンス・クラブ、ワイアケア日本語學校同窓會、ヒロ・ハイスクール同窓會、ヒロ日本人庭球クラブ、日系市民協會等の中堅幹部として活躍して居る。

奥本義見

現住所　布哇島ククイハイレ街
出　生　明治二十七年十二月八日、廣島市仁保町字本浦
渡　布　大正元年十一月四日、布哇島ヒロ
修　學　廣島縣立工業學校卒。大正八年ヒロ・ボーデング・スクール卒業
職　業　學校長
大正八年ヒロ・ボーデング・スクール助教師となり、昭和八年クヽイハエレ日本語學校長

渡　布　大正六年七月十二日、カウアイ島ハナペペ日本語學校。
修　學　廣島縣立第一中學卒業後補習科一年修了、大正三年縣立師範二部卒業。
職　業　學校長
最初安藝郡青崎琢常高等小學校に奉職、渡布後カウアイ島ハナペペ日本語學校、ホノルル中央學院を經、大正十年九月マノア日本語學校長に就任し、其後フオート學園長となり、昭和二年更に轉じてパラマ學園長となり今日務委員長、本願寺法務委員長を兼ね教育事業に盡瘁してゐる。

岡崎清四郎

現住所　ホノルル市
出　生　明治二十五年一月二十八日、廣島縣伊達郡掛田町。
渡　布　明治三十九年九月十一日、ホノルル。
職　業　柔道家
學僕生活、商店勤務を經、一八一〇年ホノル

に轉じ今日に至る。布哇教育會代議員に選出されたこともあり、現在同地青年會、處女會等の顧問として教育事業に盡力してゐる。

大西譽

現住所　馬哇嶋カフルイ
出　生　明治三十六年四月十日、マウイ島。
修　學　十二歳より十九歳まで日本にて學ぶ。

職　業　商業
父大西善六氏は在布四十年、奮闘成功して郷里廣島に隠退してゐるが、布哇在留同胞の代表的人物で、日本貿易の功勞者として日本産業協會から表彰されてゐる。譽氏はその長男に生れ、今や株式會社大西商店の社長兼支配人として父の後を承け、新進氣鋭の實業家として大いに活躍して居る。

尾崎澤次郎

現住所　ホノルル市スミス街九一八
出　生　明治二十三年一月二十七日、靜岡縣濱名郡新居町

渡　布　明治四十年十月十六日、ホノルル
修　學　橫濱商業補習學校補習科二年修了。
職　業　自動車附屬品商。
最初ホノルル尾崎商店に入り、同商店酒店新支配人に進む。其後大正七年佐伯氏とホノルルに最初の自動車附屬品商である大正オートサプライ商會を共同設立して經營したが、同十四年八月獨立してスミス・オートサプライ商會を創立し一九三三年十月には大正オートサプライを譲り受け、第二スミス・オートサプライと改稱し繁榮して今日に至る。
餘　業　富士酒造株式會社取締役支配人を兼ね靜岡縣人會長、布哇中央學院副理事長、バウオア東部地方人會長等として公共事業に盡力してゐる。

小澤義淨

現住所　加哇島ワヒアワ
出　生　明治三十八年八月二十一日、山梨縣北巨摩郡龍岡村大字下條南割一三二〇番地。
渡　布　昭和六年三月二十一日、カウアイ島ワヒアワ布教師。

修　學　昭和五年駒澤大學佛教學科卒、中等學校修身科教員及小學校正教員免許狀を得、此間近衛歩兵第一聯隊幹部候補生として入營す
職　業　開教師
着布以來カウアイ島ワヒアワ布教所詰教師として今日に至る。此間昭和六年九月より同地日本語學校教師に就任、ワヒアワ青年團顧問ラワイステブル青年會夜學部日本語教師を兼ぬ。正八位陸軍歩兵少尉である。

大空與作

現住所　ホノルル市ヌアヌ街一八二〇
出　生　明治二十一年十二月二十五日、山口縣熊毛郡城南村字宿井
渡　布　明治四十年五月一日、ホノルル
職　業　寫眞業
最初布哇島カウ、パハラ耕地に從働、其後マウイ島にて甘蔗、鳳梨の栽培を試む。其間健康を害ひ寫眞技師を志し大正二年九月、カフライ金重寫眞館に入りホノルル山本寫眞館、同美術寫眞館の技師を經、大正十一年十二月永見氏經營の寫眞館を譲受け同十三年現在の場所に移り、パラダイス寫眞館の名の下に營業して今日に至る。
餘　業　布哇日本人寫眞師協會長、長田布施町人會幹事、フオート學園學務委員たる外、ホノルル寫眞師組合、布哇佛教青年會、本派本願寺護持會、山口縣人同志會、ホノルル日本商業組合等に關係す。

太田邦雄

現住所　布哇島ラツパホエホエ
出　生　明治二十一年六月十三日、群馬縣佐波郡連村大字八寸九一四番地。

力してゐる。

佐伯彌業

現住所　ホノルル市
出　生　明治二十三年五月、山口縣大島郡小松町。

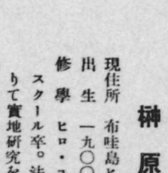
人會幹事、フオート學園學務委員たる外、ホノルル寫眞師組合、布哇佛教青年會、本派本願寺護持會、山口縣人同志會、ホノルル日本商業組合等に關係す。

太田邦雄

現住所　布哇島ラツパホエホエ
出　生　明治二十一年六月十三日、群馬縣佐波郡蓮村大字八寸九一四番地。
渡　布　大正七年七月十日、布哇島ヒロ市明照院。
職　業　淨土宗開教師
明治四十年群馬縣桐生市大善寺住職拜命、渡布後布哇島ヒロ市明照院駐在兼同附屬實踐女學校教師、同島ホノカア明照學院主任、オカラ日本語學校長を夫々歴任して大正十二年九月來ラツパホエホエ淨土宗教會主任及同附屬日本語學校長である。

佐伯一三

現住所　ホノルル
出　生　明治二十三年一月二十三日、廣島縣三郡八幡村檜



渡　布　明治四十年三月十一日、カウアイ島キラウエア耕地。廣島縣日彰館中學卒
職　業　印刷業
最初キラウエア耕地で請負業に從事すること一年餘、後ホノルルに出で太平洋學院に英語を勉强し、一九一六年十一月大正印刷會社に入り支配人に進み、現在社長兼專務たり。
餘　業　アラバイ地方人會、佛教青年會等に盡力してゐる。

佐伯彌藥

現住所　ホノルル市
出　生　明治二十三年五月、山口縣大島郡小松町。
渡　布　明治三十八年八月十五日、オアフ島ワイアル耕地。
職　業　養鷄業
ワイアル耕地に三ケ年就働、後ホノルルなるモアナホテルに勤むること十年。此間佐伯松太郎氏の婿養子となり佐伯姓を名乘る。大正九年現在の場所に數エーカーの地を購入、理想的設備の下に養鷄事業を始め、今や布哇屈指の養鷄場である。資性溫厚なるも意强く思慮周密にして果斷である。
餘　業　ワイキキ日本語學校の敷地購入及校舍新築に當り學務委員長として活動し、現在同校顧問である。其他カパフル金剛會幹部、小松町人會理事、淨土宗教團重役等を勤めてゐる。

榊原爲一

現住所　布哇島ヒロ市カラカウア街
出　生　一九〇〇年七月十七日、布哇島ヒロ
修　學　ヒロ・ユニオンスクール、ヒロ・ハイスクール卒。法律家を志し辯護士事務所に入りて實地研究をなし、遂に辯護士の資格を得
職　業　辯護士、布哇縣會議員。ヒロにて法律事務を取扱ひ辯護士として成功せる外、一九三二年布哇縣總選擧に共和黨公認候補として當選し、日系市民の爲に氣を吐いた。次いで一九三四年の總選擧に再選され今日に及ぶ。眞に獨立獨歩の青年政治家にして日系市民協會幹部、共和黨委員等を勤め、公共的社會的に活動すること多大である。

笹井貞三

現住所　オアフ島アナルー出生一八九八年三月二十日、カウアイ島コロア

職業　學校長

七歳の時兩親と共に日本に歸り日本にて教育を受け、京都日の出新聞社、關門日日新聞社、大島新聞社等の記者を勤め、一九二六年これ等新聞社特派員として歸布す。其後歸朝したが一九二七年再び來布、アエイア日本語學校長を經、一九三二年來アナール日本語學校長として日本語教育に盡力す。

餘業　此間オアフ島東部教育會理事、布哇教育會代議員等に推さる。

佐藤一郎

現住所　ホノルル市北キング街四九一

出生　一八九四年一月五日、ホノルル。

修學　二歳の時兩親と共に歸朝し、明治四十五年山口縣下關商業を卒へ同年五月歸布、太平洋學院に入り同校ハイスクールを卒業す。

職業　ホテル業

初め三枝貿易商會に會計帳簿係を勤め、大正十一年兩親の經營せる小松屋ホテルを引繼ぎ現在の家屋を買收移轉し益々發展して今日に至る。

餘業　パラマ青年會長、パラマ日本語學校書記、大島郡人會理事長及會計、旅館業組合書記、淨土宗教團書記及會計、出雲大社教團書記、眞言宗教團書記、日本人町同志會々長、日本人慈善會評議員、山口縣人同志會理事、日本人協會理事等を兼ね社會的貢獻多し。

佐藤郁三

現住所　オアフ島ハレイワ

出生　山口縣都濃郡末竹北村字花岡

渡布　明治三十三年、兩親の就働せるオアフ島エワ耕地に來る。

修學　エワ耕地にて公立學校を卒へ、ホノルルなるセントラル・ハイスクールに學び、日本語はホノルル中央學院を卒業す。

職業　商業

大正三年オアフ島ワイアルア耕地會社經營のカワイロア商店日本人部主任に就任して敏腕を揮ひ、同九年ハイレワに移り養蜂、養鷄を大規模に經營したが之を妹婿に讓り、自ら同地海岸勝景の地に宏壯なる料理店を經營して盛況を致し今日に至る。

餘業　ハレイワ淨土宗教團重役を勤め、又地方日系市民の指導者として活動してゐる。

澁川大嶺

現住所　布哇島ヒロ市キラウエア街

出生　新潟縣中蒲原郡鷲卷村。

渡布　大正十一年八月六日、ホノルル。

職業　僧侶ホノルル、ヌアヌ街曹洞宗別院駐在五ヶ年後、昭和二年ヒロ大正寺に轉任して今日に至る。

志田俊三

現住所　ホノルル市北キング街一〇九

出生　明治二十九年十一月二十九日、熊本縣上益城郡御船町城山

渡布　大正七年八月三十一日、ホノルル。

修學　佐賀縣立佐賀商船學校出身。來布後ホノルル太平洋學院及イオラニ校に夫々二年勉學す。

職業　商業

大正十二年より昭和二年迄米貨商會に勤務、昭和三年より同八年迄布哇繊紗商會勤務、同八年十一月布哇吳最商會を創立經營して今日に及ぶ。

進藤卓爾

現住所　布哇島ヒロ市カメハメハ街

出生　明治二十三年三月十五日、廣島縣加茂郡川上村

渡布　明治四十年五月、布哇島オーラー耕地

職業　商業

。最初オーラー耕地に就働、一九一四年ヒロ市に出で進藤藥店を創め、一九三〇年店舗を

り前後約二十ケ年を過す。大正八年ホノルル肥後商會カフルイ支店の大株主及支配人となな

現住所　布哇島ヒロ市カメハメハ街
出　生　明治二十三年三月十五日、廣島縣加茂郡川上村
渡　布　明治四十年五月、布哇島オーラー耕地
職　業　商　業
。最初オーラー耕地に就働、一九一四年ヒロ市に出で進藤藥店を創め、一九三〇年店舗を現在の地に移轉擴張し、益々繁榮して今日に至る。
餘　業　布哇小賣商組合理事長、布哇中央教育會役員等に推され、社會的に貢獻することが多い。

篠田政一郎

現住所　布哇島ヒロ市バナエワ街
出　生　明治二十九年七月二十三日、栃木縣栃木市
渡　布　明治四十二年十一月十五日、カウアイ島ハナペペ
修　學　鄉里にて中學教育を卒へ、來布後イオラニ・スクールに約二ケ年英語を專攻
職　業　自動車販賣業
最初カウアイ島ハナペペの父勝四郎氏經營の三角商店に一ケ年勤め、其後ホノルル、ヴオンハムヤング商會に約一ケ年、同商會ヒロ支店に六ケ月勤務し、一九一四年當時ヒロ第一の自動車會社なるフオード自動車會社日本人部販賣主任として入社し、大いに信用を博した。一九二七年現在の主人ラドル氏獨立して自動車業を創めるに及び、同氏の許に參加して今日に至る。性快活磊落にして社交界に人氣がある。
餘　業　ヒロ商業促進會長、淨土宗教團重役である。

下田半次郎

現住所　馬哇島カフルイ
出　生　明治十四年二月七日、熊本縣上益城郡白鳥村
渡　布　明治三十一年二月五日、マアイ島プウネネ耕地
職　業　商　業
初めプウネネ耕地に就働、後同耕地商店に入り前後約二十ケ年を過す。大正八年ホノルル肥後商會カフルイ支店の大株主及支配人となつたが經營思はしからず、遂に獨立して株式會社マウイ商會を創め、爾來逐年發展してマウイに於ける屈指の日米雜貨食料品店となり今日に至る。

下川範三

現住所　布哇島クカイアウ
出　生　明治二十二年十月三日、福岡縣八女郡山内村
渡　布　後、布哇島コハラなる下川次平氏の婿養子となり下川姓となる
職　業　明治四十二年十月初め渡米の目的にて來布したが友人に勸められて布哇に止り、明治四十四年四月ラツパホエホエ淨土宗附屬日本語學校に奉職。其後カアパフ日本語學校長布哇女學校勤務を經、大正七年五月クカイアウ日本語學校長に就任して今日に至る。
餘　業　ハマクア地方教育界の元老株で、同地教育會長、布哇教育會代議員、教科書編纂委員等に屢々推されてゐる。

島本清一

現住所　ホノルル市南ベレタニア街六五七
出　生　明治三十年五月二十三日、山口縣大島郡久賀町
渡　布　大正四年七月、ホノルル
修　學　ホノルルにて一ケ年英語を學ぶ。
職　業　花　商
初めボンハムヤング商會の自動車修理工場に

記、淨土宗教團書記及會計、出雲大社教團書記、眞言宗教團書記、日本人町同志會々長、日本人慈善會評議員、山口縣人同志會理事、日本人協會理事等を兼ね社會的貢獻多し。

佐藤郁三

現住所　オアフ島ハレイワ
出　生　山口縣都濃郡末竹北村字花岡
渡　布　明治三十三年、兩親の就働せるオアフ島ハレイワ

進藤卓爾

學す。
職　業　商　業
大正十二年より昭和二年迄米倉商會に勤務、昭和三年より同八年迄布哇繩紗商會勤務、同八年十一月布哇呉最商會を創立經營して今日に及ぶ。

會川政男

現住所　ホノルル市北ベニヤード街四五
出　生　明治二十一年二月二十六日、廣島市島
　　潮町
勤め、數年前より花屋を開業し大いに繁榮して今日に至る。資性溫厚にして各方面に交際を有してゐる。
餘　業　山口縣大島郡人會理事長、久賀町人會副會長、久賀校友會々長及副會長、ベレタニア地方人會理事、花屋組合長等を兼ね內外人間に重きをなす。

島村佳德

現住所　ホノルル市メグレン・レーン一一
出　生　一九〇七年二月十九日、ホノルル市
修　學　市內マエマエ公立學校に入りローヤル校に轉じ、一九二二年これを卒へ、一九二五年マツキンレー・ハイスクール卒。伏見宮記念奬學資金を得てオベリン大學に學び、一九二九年パチエラー・オブ・アーツの學位を得更に一九三三年ハーヴアード大學法科を卒へ法學士となり歸布す
職　業　判　事
デリンガム建物內に事務所を開き一般法律事務を取扱つてゐたが、一九三七年ワイアルア區裁判所判事に任命され就任した。資性溫厚にして內外人の信賴が厚い。
餘　業　ハワイ・ハーヴアード・クラブ、布哇日本人公民協會立法部長、ホノルル・ライオンス・クラブ定款部長、伏見宮記念奬學會委員、布哇大學同窓會委員、布哇オベリン大學クラブ會員として活動してゐる。

宗我部四郎

現住所　布哇島ホノム
渡　布　明治二十七年三月二十四日、布哇島ホノム日本人基督教會
修　學　京都同志社出身
職　業　牧　師
初め奈良縣郡山教會牧師、群馬縣藤岡教會牧師を勤め、布哇傳道教會の招聘に應じて來布後は、ホノム日本人教會牧師たること四十餘年の今日に至る。此間布哇島最初の日本語學校なるホノム義塾を開き第二世の宗教的指導に努め、氏の育英事業に對する功績は眞に廣大なるものがある。人格高潔にして信仰に生き、氏を知るもの皆慈父の如く敬慕し、或は人呼んでホノム聖人となす。近年布哇傳道協會百年祭の記念に聲樂家として令名ある養女靜子孃より八千弗の支出を受け、亦布哇郡政府より一千弗の補助、其他の寄捨を得て新禮拜堂及ホノム義塾を新築した。

宗我部幸

現住所　ホノルル市カアロア街七五三
出　生　明治二十二年五月五日、高知縣吾川郡下八川村字下八川
渡　布　明治四十年五月十日
修　學　一九〇九年より一九一四年迄日英兩學校に通學す。其後一九二〇年布哇大學に通學し商業經濟簿記等の研究に沒頭すること四年
職　業　會計士
來布後數ケ年耕地に就働、一九一四年より一九二〇年迄太平洋銀行勤務、一九二四年以來會計士として各商店會社の帳簿作成記入或は鑑査等の事務を引受け今日に至る。
餘　業　ホノルル日本人商業組合鑑査役、布哇教育會々計簿主任等を兼ねてゐる。

會川政男

現住所　ホノルル市北ベニヤード街四五
出　生　明治二十一年二月二十六日、廣島市島
　　潮町
餘　業　カカアコ日本語學校學務委員長たること六ケ年、外國語學校取締問題の折は試訴派のために奮闘した。

須內一信

現住所　ホノルル市南キング街七一一
出　生　明治二十二年二月二十二日、山口縣玖
　　珂郡鳴門村大畠

會川政男

現住所　ホノルル市北ベニヤード街四五
出　生　明治二十一年二月二十六日、廣島市島瀬町
渡　布　明治三十八年十月、ホノルル
修　學　廣島に於て中學中途退學
職　業　新聞社長

ホノルルの日刊新聞社、布哇日報社活版工場勤務、同社編輯局記者を經、明治四十四年共編輯長となり、大正六年社長鶴嶋半藏氏新聞事業より手を引くや、氏は友人服部毅氏と共にこれを引受け共副社長となる。同十二年服部氏の歸國後社長兼主筆として經營に當れるも同十三年二月退社す。其後暫く日布時事編輯局にあり、現在は週刊布哇新報社長兼主筆として布哇同胞の啓發指導に努めてゐる。尙「布哇日本人銘鑑」の著がある。

空中光太郎

現住所　ホノルル市アラモアナ街一〇〇八
出　生　明治七年七月十一日、廣島縣佐伯郡高田村

渡　布　明治三十年、布哇島ホノカア耕地
職業商　業

ホノカア耕地に就勞二ケ月、カウアイ島カパア耕地に就勞二ケ年後ホノルルに出で、日米食料雜貨店を開業して今日に及ぶ。此間邦人最初の鐘紡工場を企て、或はキンバ街魚市場附近に支店を設け魚具一切の販賣をしたことがある。

餘　業　カカアコ日本語學校學務委員長たること六ケ年、外國語學校取締問題の折は試訴派のために奮闘した。

須内一信

現住所　ホノルル市南キング街七一一
出　生　明治二十二年二月二十二日、山口縣玖珂郡鳴門村大畠
渡　布　大正元年十月十五日、ホノルル
職業商　業

初め養兒經營のホノルル市カリヒ山根商會に勤む、後尾崎商店に六ケ年勤務す。大正九年一月日米食料品店を獨立開業、同十一年現在の地に移り今日に至る。此間一九三一年一月ホノルル醬結組合を組織し共代理店となり。又シエール・オイル會社、オアフ・アイス會社等の特約代表店を兼ねてゐる。

餘　業　ホノルル日本人商業組合役員、アラバイ地方人會役員、鳴門、神代兩村人會々長、本派本願寺重役として公共事業に活動してゐる。

管村芳弘

現住所　布哇島コナ、ケアラケクア
出　生　明治十六年一月六日、鹿兒島出身
渡　布　大正二年五月
修　學　明治三十九年日本にて醫術檢定試驗合格、明治四十三年東京帝國大學醫科耳鼻咽喉科選科卒。大正二年五月布哇縣醫術開業試驗及第、同十一年ニューヨーク醫科大學大學院に耳鼻咽喉科を專攻す
職業醫　師

大正二年マウイ島ワイルクに開業數年、其後大陸より歸布して布哇島ヒロに開業したが、同島コナ日本人病院に聘せられ同病院々長に轉じて今日に至る。

趣　味　古事古典史籍及思想問題等の研究に興味を有し、既に數種の著書あり。

立川ゐ子

現住所　ホノルル市ライクロフト街一〇三
出　生　明治二十三年八月十九日、長崎縣北高來郡諫早村

にして內外人の信賴が厚い。

餘　業　ハワイ・ハーヴアード・クラブ、布哇日本人公民協會立法部長、ホノルル・ライオンス・クラブ定款部長、伏見宮記念奬學會委員、布哇大學同窓會委員、布哇オベリン大學クラブ會員として活動してゐる。

會我部四郎

現住所　布哇島ホノム

校に通學す。其後一九二〇年布哇大學に通學し商業經濟簿記等の研究に沒頭すること四年

職　業　會計士

來布後數ケ年耕地に就働、一九一四年より一九二〇年迄太平洋銀行勤務、一九二四年以來會計士として各商店會社の帳簿作成記入或は監査等の事務を引受け今日に至る。

餘　業　ホノルル日本人商業組合監査役、布哇教育會々計簿主任等を兼ねてゐる。

渡　布　明治四十四年五月三十日、前布哇淨土宗監督故立川眞敎氏と結婚して來布

修　學　福岡縣立柳河高等女學校及補習科を經東京女子美術專門學校卒

職　業　立川女學館主

初め夫の事業を補け、布哇島オーカラ日本語學校、ハカラウ日本語學校等に勤務、大正九年立川氏と共にホノルルに出でホノルル開敎院附屬布哇女學校に勤め、夫の死後同十四年より昭和二年九月迄同女學校を獨力經營す。其後故國滯在四年間美術音樂敎育等の研究を積み、昭和六年歸布して立川女學館を創立經營、傍らマキキ日本語學校敎鞭をもとり布哇女子敎育に貢獻して今日に至る。

趣　味　專門の美術を初め琴（山田流）生花（池坊）琵琶（八洲）茶の湯（千家表）に長じてゐる。

田原　弘

現住所　布哇島パパイコウ

修　學　神奈川縣師範學校卒

職　業　學校長

布哇島パパイコウ日本語學校長に聘せられ、着任以來二十餘年敎育事業に獻身してゐる。

田島　朝明

現住所　ホノルル市ロヒラニ街一九三〇

出　生　明治二十年三月十五日、沖繩縣八重山郡百垣村

渡　布　明治三十九年十二月十九日、マウイ島

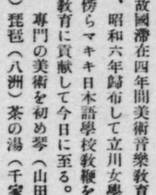
職　業　移民局吏マウイ島在住數ケ月後ホノルルに出で、明治四十五年七月以來ホノルル合衆國移民局通譯官兼日本人調査官として勤續三十餘年、以て今日に至る。着實精勵にして內外人間の信用が深い。

餘　業　首里市人會々長、南キング美以敎會書記として信仰生活を送る。

鳥取　密明

現住所　マウイ島ワイルク

出　生　明治三十一年五月六日、香川縣三豐郡笠田村大字笠岡二〇一五番地



渡　布　大正十四年十二月二十日、ホノルル市眞言宗布哇別院

修　學　大正十三年三月眞言宗敎大學卒。僧階中伽都、補敎

職　業　眞言宗布敎師ホノルル市眞言宗布哇別院駐在を經、昭和二年六月十七日眞言宗馬哇島管理及同島ワイルク光明寺主任を拜命し、其後大師敎會、日曜學校及青年會を創立指導する等敎線大なるものがある。

東福寺　子四郎

現住所　マウイ島ワイルク

出　生　明治九年二月二十日、長野縣更級郡共和地

渡　布　明治三十四年七月四日

修　學　明治三年東京濟生學舍卒、同年內務省醫術開業試驗合格、同三十五年布哇縣醫術開業試驗合格、其後大陸に醫術を研究することニケ年、日露戰役に二ケ年軍醫として服務す

職　業　醫師

最初ホノルル日本人病院に勤め、後布哇島コ

修　學　ホノルル市カフマヌ・スクール及萬國通信學校商科卒

職　業　ソーダ水製造及酒類醸造業、初めカウアイ島エレエレなるマグブライド製氷會社勤務十七年、後マウイ島に移り一九二七年以來ソーダ水、製氷並に各種アイスクリーム製造業を創め今日の繁榮を致してゐる。此間資本

渡　布　明治三十四年七月四日
修　學　明治三年東京濟生學舍卒、同年內務省醫術開業試驗合格、同三十五年布哇縣醫術開業試驗合格、其後大陸に醫術を研究すること一ケ年、日露戰役に二ケ年軍醫として服務す
職　業　醫師
最初ホノルル日本人病院に勤め、後布哇島コハラに開業。日露戰後明治四十年歸布しオアフ島ワイアルアに長谷川玄昌氏と共同病院經營半ケ年にして、布哇島ハマクア、ホノカアに招かれ開業十五ケ年に及ぶ。大正十年馬哇島ワイルクに轉じ東福寺病院を經營して今日に至る。
餘　業　ホノカア在住當時日本語學校學務委員長勤務十數年、ワイルク移住後はワイルク日本人會理事長、マウイ島教育會々長、ワイルク本願寺學園學務委員長に推され、公共事業に多大の貢獻をしてゐる。

東輪寺　香

明治二十二年五月十四日長野縣更級郡共和地に生れ、大正三年東京慈惠醫學專門學校を卒業し、同六年來布す。翌年開業醫試驗に合格し布哇島ホノカアに開業し、ラハイナ、パイア、ホノカアと移轉し、大正十三年又ラハイアに移つて今日に至る。社會公共事業にも盡瘁、人望あつたが一九三七年歸朝。

瀧谷勤一

現住所　マウイ島ワイルク
出　生　明治二十二年三月二日、布哇

修　學　ホノルル市カフマヌ・スクール及萬國通信學校商科卒
職　業　ソーダ水製造及酒類醸造業、初めカウアイ島エレエレなるマグブライド製糖會社勤務十七年、後マウイ島に移り一九二七年以來ソーダ水、製氷並に各種アイスクリーム製造業を創め今日の繁榮を致してゐる。此間資本金一千萬弗のブウネネ製糖會社の主任簿記係たること數年、目下カウハクロアに一大酒類醸造所を創め盛んに營業して居る。
餘　業　マウイ日本人會理事、マウイ日本人商業組合英文書記、マウイ日本人ゴルフ倶樂部書肥兼會計等として社會的活動大である。

十時竹次郎

現住所　加哇島マカウイリ
出　生　明治九年十二月二十日、山口縣玖珂郡鄕庄村、渡布明治三十二年六月十日
職　業　測量師
最初英語研究のため米人家庭に働くこと半年オアフ島ワイパフ耕地に轉じ耕地請負業に從事、明治三十五年カウアイ島に移りマカウイリ耕地オロケレ水道工事を請負、一年二ケ月にして竣工せしめた。其後同耕地測量部に勤めて信用を博し、大正六年同耕地最高の測量師となり重用せられて今日に至る。
餘　業　防長海外協會副支部長、カウアイ第一貯金會社副社長、マカウイリ日本語學校學務委員長、同日本人會理事長、昭和會副會長等を兼ね、社會公共事業に盡力して居る。

豊田法順

現住所　加哇島ワヒアワ
出　生　明治三十年九月六日、青森縣西津輕郡川除村大字蓮川一番地
渡　布　大正十四年四月十四日、カウアイ島ワヒアワ禪宗寺

布哇島ハイコウ日本語學校長に聘せられ、着任以來二十餘年教育事業に献身してゐる。

田島朝明

現住所　ホノルル市ロヒラニ街一九三〇
出　生　明治二十年三月十五日、沖繩縣八重山郡百埜村
渡　布　明治三十九年十二月十九日、マウイ島

出　生　明治九年二月二十日、長野縣更級郡共和地

修　學　東京駒澤曹洞宗大學卒
職　業　曹洞宗　開教師
最初横濱西有專修林教授を勤ゆ、來布後カウアイ島ワヒアワ禪宗寺主任に就任し、ワヒアワ日本語學校を創め同校々長を兼ねてゐる。

研岡節吾

出　生　明治二十三年三月五日、廣島縣安佐郡安村大字長樂寺

渡　布　明治四十年二月、最初耕地に就勞し明治四十五年三月以後商業に轉じ、事業隆盛に赴き今日に至る。カウアイ西部商業組合副組合長、同西部教育會々計、カパア日本語學校學務委員等を勤め、社會公共事業に盡力してゐる。

谷口圓藏

現住所　加哇島ワイメア
出　生　明治二十年十一月二十一日、愛媛縣北宇和郡九島村字小濱

渡　布　明治四十年六月二日、布哇島ククイハエレ耕地
職　業　ベクリー業
鄉里にあり海產物賣買に從事、來布後ククイハエレ耕地に就勞六ケ月、後コハラなる關谷商店に勤務三ケ年、ドクトル・ボンド氏の家庭に働くこと四ケ年であつた。其後カウアイ島ワイメア町に於てベクリー業を開き、發展して今日に至る。
餘　業　圓滿なる基督教信者にして、多年ワイメア日本人基督教會執事を勤め、ワイメア日本人會長、カウアイ島西部商業組合副組合長を兼ね內外人に信望が厚い。

豐福初太郎

現住所　加哇島ケカハ
出　生　明治二十年十月十日、福岡縣三井郡山川村字上追分
渡　布　明治四十年一月八日
修　學　明治四十三年ホノルル太平洋學院に入り英語を研究すること二ケ年
職　業　學校長
最初加哇島ケカハ日本語學校に奉職、其後明治四十五年以來同島ワヒアワ樹德小學校勤務約十ケ年、大正十年ケカハ日本語學校長に就任して今日に至る。資性謹嚴着實にして加哇島西部教育會理事或は監查役を勤め、教育事業に盡瘁してゐる。

田代學

現住所　加哇島コロア、ラワイ
出　生　一九一〇年一月一日、カウアイ島ワヒアワ

修　學　一九二一年二月渡日し小學校を卒へ、昭和三年二月熊本縣立第二師範學校本科卒、同年四月二十一日歸布
職　業　學校長
歸布後カウアイ島マナ日本語學校長を勤め、昭和九年一月同島ラワイ日本語學校長に就任し今日に至る。資性溫厚着實にして日本語教育のため大いに嘱望されてゐる。

田中ハル

現住所　オアフ島ワヒアワ
出　生　明治二十六年三月二十九日、廣島縣安藝郡江田島、舊姓脇本

名郡清里村
渡　布　大正四年一月四日、馬哇島カフルイ在住の父鶴藏氏の呼寄せにて來布
職　業　學校長
オアフ島ボールシチー學園、加哇島ラワイ日本語學校を經、布哇島コナなるホルアロア日本語學校長に就任、傍ら週刊新聞コナ週報を

田中ハル

現住所　オアフ島ワヒアワ
出　生　明治二十六年三月二十九日、廣島縣安藝郡江田島、舊姓脇本
渡　布　大正六年八月、布哇島
修　學　廣島女學校卒
職　業　學校長

最初江田島小學校、廣島市女子高等小學校勤務、來布後オーラー九哩本願寺學園、ヒロ獨立日本語學校奉職、此間田中隆純氏と結婚、其後夫君と共にワイアケア日本語學校勤務を經、オアフ島ワヒアワに轉任、田中氏他界後一九二八年九月ワヒアワ昭和日本語學校を創め、校長として理想的教育を施しつゝ今日に及ぶ。

田添龍壽

現住所　馬哇島ハイクー、カウパカルア
出　生　明治十九年十月十八日、熊本縣玉名郡彌富村

渡　布　大正三年二月八日、日本にて臺灣國語學校臨時教員養成所卒業
職　業　學校長

最初南部臺灣の學校に奉職、渡布後大正三年十月以來マウイ島ハイク耕地ベアヒ日本語學校長として今日に至る。資性溫厚の人格者である。

竹森遼二

現住所　加哇島エレエレ、ポートアレン
出　生　明治二十八年二月二十二日、熊本縣玉名郡清里村
渡　布　大正四年一月四日、馬哇島カフルイ在住の父爲藏氏の呼寄せにて來布
職　業　學校長

オアフ島ボールシチー學園、加哇島ラワイ日本語學校を經、布哇島コナなるホルアロア日本語學校長に就任、傍ら週刊新聞コナ週報を經營す。其後ホノルル中央學院勤務、布哇日報及布哇報知記者、カカアコ日本語學校勤務を經、大正十三年には布哇島ヒロに於て雜誌「布哇」を刊行し、同十四年馬哇島ワイルク學園長となり、昭和四年九月以來カウアイ島エレエレ日本語學校長として今日に至る。

竹井時次

現住所　馬哇島ケアフア
出　生　明治三十六年四月六日、福岡縣朝倉郡朝倉村惠蘇宿

渡　布　大正十一年九月六日、來布後マウイ島の兩親の許に落着く
修　養　鄕里にて中學卒昭和三年六月歸朝して一燈園に入り、同園にあること二年にして昭和五年歸布す
職　業　學校長、大正十三年マウイ島カフルイ日本語學校に奉職す。其後昭和五年九月より同八年迄パイア日本語學校に勤め、現在ケアフア日本語學校長である。

龍口五氣

現住所　ホノルル市カハカ・レーン一〇一四
出　生　明治三十一年七月十一日、廣島縣佐伯郡井口村八一二番地

渡　布　明治四十年六月二日、布哇島ククイハエレ耕地
職　業　ベクリー業

鄕里にあり海産物賣買に從事、來布後ククイハエレ耕地に就働六ケ月、後コハラなる關谷

修　學　一九二一年二月渡日し小學校を卒へ、昭和三年二月熊本縣立第二師範學校本科卒、同年四月二十一日歸布
職　業　學校長

歸布後カウアイ島マナ日本語學校長を勤め、昭和九年一月同島ラワイ日本語學校長に就任し今日に至る。資性溫厚着實にして日本語教育のため大いに嘱望されてゐる。

渡　布　昭和三年十二月三十日、ホノルル
修　學　廣島縣崇徳中學を卒へ京都龍谷大學入學、豫科を經て大正十五年學部卒。大正十五年十二月志願兵として入隊、正八位陸軍工兵少尉である
職　業　僧侶
布哇眞宗教會教團布教長として布教、傍ら最勝講婦人會、眞愛青年會、處女會、日曜學校等を率ゐる今日に及ぶ。

玉代勢法雲

現住所　ホノルル市マウナケア街一一六一
出　生　明治十四年二月二十九日、沖繩縣那覇市西新町三丁目十八番地

渡　布　大正九年十二月十三日、ホノルル
修　學　明治四十年東京眞宗大學卒業後、研究學院在學三ケ年。僧階は親授三級權大僧都
職　業　眞宗開教師
最初沖繩縣名護にて布教、後沖繩刑務所教誨師及釋放者保護主任を勤む。來布後ホノルル駐在三ケ月、カウアイ島マカヴイリ布教所在勤兼同地日本語學校長、ホノルル東本願寺別院駐在を經、大正十三年九月現在の布教所に轉じ布哇佛教會と改稱して今日に至る。
餘　業　此間布哇中央學院講師、星條學院教師を勤め、マカレー校に教鞭をとり今日に及ぶ

竹間竹喜司

現住所　ホノルル市セリダン街一四二二
出　生　明治四年七月十日、廣島市中田町三三〇番地
渡　布　明治二十六年十月、ヘイア耕地
職　業　神官
初めヘイア耕地に就勞數ケ年、後アイエア耕地に就勞約十ケ年、此間神道を研究して神官となりホノルル、セリダン街に稻荷神社を創建して今日に至る。

辻　德一

現住所　ホノルル市ロベロ・レーン九六七
出　生　明治十四年五月一日、廣島縣佐伯郡八幡村字利松
渡　布　明治三十年一月一日、布哇島コナ
職　業　ソーダ水製造業
最初布哇島コナの珈琲園に就勞後、白人家庭のコツクたること八ケ年、明治三十八年同志と合資でサンライス青達水會社を創立、パラマに工場を設く。同四十二年株式會社組織となし其社長となり、大正十四年現在の場所に工場を新築擴張して今日に至る。同社は日本人經營の此種會社中最大最古のものである。
餘　業　八幡村人會長、本願寺教團理事、パラマ學園學務委員等を勤め、社會公共事業に盡力してゐる。

時岡政幸

現住所　ホノルル市ギュリツク街一七五五
出　生　明治三十一年、岡山縣出身

渡　布　幼時父母と共に來布
修　學　一九二五年布哇大學卒業後ハーヴアード大學商科に學び、M・B・Aの學位を得て歸布
職　業　實業家
布哇コーヒー會社アドヴアイザーを經、一九二九年國際信託會社に現金掛として入社、一九三三年同社會計となり今日に至る。此間ナショナル・モーゲージ・エンド・ファイナンス商會支配人兼書記及國際建築貸付會社副書記を兼ね實業界に活躍してゐる。

谷川勝美

現住所　ホノルル市南キング街一五三三
出　生　明治三十五年八月十四日、熊本縣八代郡和鹿島村北鹿野
渡　布　大正七年七月十三日、布哇島カイピヰ
職　業　寫眞業
最初カイピヰにて甘蔗栽培に二ケ年從事、後ホノルル市大隅寫眞館にあること二ケ年、更に一ケ年ロスアンゼルス市にて斯業を研究す。歸布してホノルル市に谷川寫眞館を五ケ年經營、後、金栗氏と共同寫眞館を經營すること數年に及びしも、獨立して谷川寫眞館を開

職　業　商業
最初パアウハウ耕地に就勞、後同耕地商店に勤め、大正八年十月ホノカアに雜貨商店を創め共後擴張新築して今日に至る。
餘　業　ホノカア日本語學校學務委員等を勤め社會公共事業に盡力して居る。

宇野雅雄

渡布　大正七年七月十三日、布哇島カイピキ
職業　寫眞業
最初カイピキにで甘藷栽培に二ケ年従事、後ホノルル市大隅寫眞館にあること二ケ年、更に一ケ年ロスアンゼルス市にて斯業を研究す。歸布してホノルル市に谷川寫眞館を五ケ年経營、後、金栗氏と共同寫眞館を經營することと數年に及びしも、獨立して谷川寫眞館を開き今日に至る。
餘業　布哇寫眞師協會、ホノルル寫眞業組合熊本海外協會々員、八代郡人會書記を勤む。

上原征生

現住所　ホノルル市ヌアヌ街一八二二
出生　明治三十八年八月九日、熊本縣玉名郡綠村大字上板楠

渡布　大正八年三月十四日、カウアイ島
修學　一九二三年イオラニ小學部及マッキンレー・ハイスクールを經、一九三一年布哇大學卒業バチエラー・オブ・アーツの學位を得たのである。一九三二年日本語研究のため東京早稲田大學に學ぶ。
職業　大學講師
一九三三年九月以來布哇大學日本語科講師を勤む。
餘業　布哇大學々生の組織する「白馬會」「日本語研究會」等のアドヴアイザーたる外、布哇中、女學校同窓會幹部、「巴クラブ」「書記其他諸種の研究會に關係して居る。

氏木政次郎

現住所　布哇島ホノカア
出生　明治九年三月十五日、山口縣玖珂郡玖珂町
渡布　明治三十一年十月、布哇島パアウハウ耕地
職業　商業
最初パアウハウ耕地に就働、後同耕地商店に勤め、大正八年十月ホノカアに雜貨商店を創め其後擴張新築して今日に至る。
餘業　ホノカア日本語學校學務委員等を勤め社會公共事業に盡力して居る。

宇野雅雄

現住所　ホノルル市マツカレー街九二二
出生　明治二十二年七月二十四日、岩手縣上閉伊郡釜石町
渡布　明治四十四年（一九一一年）十月五日
ホノルル
修學　鄉里にて中學卒
職業　銀行員
最初ホノルル市本重貿易商店勤務五ケ年、一九一六年稅關ブローカー、デフリス組合に入り關稅事務を取扱ひ、一般貿易業者の信用を博し今日に至る。尚、一九三一年以來太平洋銀行副支配人を兼ねてゐる。

上田元一

現住所　ホノルル市北キング街一三二四
出生　明治二十一年五月十九日、廣島縣山縣郡都谷村

渡布　明治三十八年二月、カウアイ島リフエ耕地
職業　家具商
最初リフエ耕地就働約一ケ年、ホノルルに出でカカアコ村家具店に勤め後自ら家具製造業を創む。此間ホノルル・ジヤンク商會の株主

○番地
渡布　明治二十六年十月、ヘイア耕地
職業　神官
初めヘイア耕地に就働數ケ年、後アイエア耕地に就働約十ケ年、此間神道を研究して神官となりホノルル、セリダン街に稻荷神社を創建して今日に至る。

谷川勝美

現住所　ホノルル市南キング街一五三三
出生　明治三十五年八月十四日、熊本縣八代郡和鹿島村北鹿野
ス商會支配人兼書記及國際建築貸付會社副書記を兼ね實業界に活躍してゐる。

出　生　明治二十七年五月、山形縣庄内町一丁目四番地

修　學　中學卒後東京明治大學に學ぶ、昭和五

出　生　明治二十六年五月、山形縣庄内

となり同時に同商會に勤務することゝなり、一九二二年現在の場所に新築擴張して今日に至る。

餘　業　家具品組合理事長、山縣郡友會副理事長、カパラマ地方人會監査役、パラマ日本語學校會計、金比羅神社教圃會計を兼ね信用厚い。

渡部彌吉

現住所　マウイ島ワイカプ

出　生　明治二十年十月二十七日、福島縣北會津郡湊村大字原二十六番地

渡　布　明治四十一年十一月十四日、ハワイ島ヒロ

修　學　東京市慶應義塾普通部卒。正則英語學校、獨逸協會、法政大學夜間部に學ぶ。大正三年ヒロ、ボーデング・スクール卒

職　業　學校長

最初ヒロにて基督教會の事務手傳ひ、或は英語夜學の教師を勤め、大正三年ハックフィールド商會（アメリカン・フアクタース商會の前身）の簿記係となり、傍ら通譯を業とすること一年餘、病を得て歸國し大正六年十二月再び來布、布哇島にて基督教傳道、オーラ甘蔗小作同盟會顧問、ヒロ淨土宗女學校教會社簿記係、通譯等に服し、其後米大陸に在ること一年半、大正十三年四月以來馬哇島ワイカプ日本語學校長である。

餘　業　資性溫厚堅實、日英兩語に堪能にしてマウイ教育會理事、マウイ聯合農業組合顧問、布哇三島聯合農産組合顧問、ワイカプ貯蓄奬勵會長、福島縣海外協會ワイルク支部相談役として活躍して居る。

若尾朝吉

現住所　馬哇島パウエラ

出　生　明治十六年五月二十七日、横濱市宮川町一丁目四番地

渡　布　一九二五年五月十七日、ホノルル

職　業　學校長

一九〇五年渡米しロスアンジエル市、デトロイト市、ニューヨーク市に於て日米貿易に從事すること前後十六年、來布後ホノルル市パラマ日本語學校、マウイ島ワイルク本願寺學園勤務を經、一九三四年九月ハイワ日本語學校に就任して今日に至る。

山城秀正

現住所　馬哇島ワイルク

出　生　明治十五年十一月十一日、沖繩縣首里市山川町一丁目一番地

渡　布　大正二年二月六日

修　學　明治三十九年文部省醫術檢定試驗合格

大正二年六月二十一日布哇縣醫術開業試驗合格

職　業　醫師、最初沖繩縣首里市に開業、女子工業學校及首里小學校々醫を兼務。來布後ワイルク町に開業、其後一時醫術研究のため歸朝大正七年現在の地に理想的病院を設立して今日に至る。夫妻共に熱心な基督教信者である。

餘　業　ワイルク獨立日本語學校學務委員長である。

吉增正之

現住所　馬哇島ハマクアポコ

出　生　明治三十三年四月八日廣島市廣瀬町二五六番ノ一

渡　布　大正四年三月二十日、マウイ島ハマクアポコ

修　學　中學卒後東京明治大學に學ぶ、昭和五年マウイ・ハイスクール卒
職　業　學校長
　着布以來ハマクアポコ日本語學校長である。日英兩語に長じ眞摯な青年教育家である。
餘　業　同地佛教青年會顧問を勤む。

吉增新次郎

現住所　馬哇島ハイクー
出　生　明治六年（一八七一年）十一月二十一日、廣島縣安佐郡三篠村
渡　布　明治三十四年十一月
職　業　會社員
　着布後小林族館支配人たること九年、後マウイ島パウエラの日本人鳳梨會社支配人に聘せられ、一九一八年同會社が白人經營のハイク果物繊詰會社と合併されるや其日本人部主任となつた。
餘　業　ハイク日本語學校、パウエラ本願寺の役員として公共事業に盡して居る。

柳下慈明

現住所　馬哇島プウネネ
出　生　明治三十四年四月十六日、橫濱市中區中村町字平樂九九番地
渡　布　昭和五年一月二十一日、マウイ島プウネネ
修　學　昭和三年東京立正大學卒、文學士號及中等教員資格を得
職　業　日蓮宗海外布教使
　來布後馬哇島プウネネ日蓮宗教會主任に就任一九三一年以來同地日本語學校教師を兼務、一九三三年には寺院内に立正夜間中學校を創立し日本語教育に盡力して居る。

吉住浩巖

現住所　オアフ島アイエア
出　生　明治二十七年五月、山形縣庄内

渡　布　昭和二年十月十日、オアフ島アイエア
修　學　東京駒澤曹洞宗大學卒
職　業　曹洞宗布教師、學校長
　最初曹洞宗大本山總持寺布教部に勤め、又東京女子體操學校講師たり。着布してアイエアの曹洞宗太平寺主任兼教圃長となり、太平日本語學校長を兼ね其他布哇曹洞宗協會書記、青年會顧問を勤め太平婦人會、日曜學校等を指導して居る。

吉本武藏

現住所　ホノルル市カハラ
出　生　明治三十年一月一日、熊本縣上益城郡津森村大字杉堂

渡　布　大正元年十二月三十日
修　學　初めヒロ、ポーデング・スクールに入り、大正九年イオラニ・スクール小學部卒、大正十二年布哇中學高等科卒、同十四年イオラニ・スクール卒
職　業　學校長
　最初バラマ學園教師、日布時事記者を勤め、昭和五年三月マキキ日本語學校教師就任。同八年八月カハラ日本語學校長に轉じた。

山根梧一

現住所　ホノルル市北ベレタニア街
出　生　明治二十年八月十五日、山口縣玖珂郡御庄村
渡　布　明治四十年一月一日、ホノルル
職　業　商業

勵會長、福島縣海外協會ワイルク支部相談役として活躍して居る。

若尾朝吉

現住所　馬哇島パウエラ
出　生　明治十六年五月二十七日、橫濱市宮川

現住所　馬哇島ハマクアポコ
出　生　明治三十三年四月八日廣島市廣瀬町二五六番ノ一
渡　布　大正四年三月二十日、マウイ島ハマクアポコ

吉塚正之

最初ホノルル市カイムキに山根商店を開業、後、馬場氏に讓渡して一時歸朝。一九二七年山田健太郎氏と合資でギヤスリン・サービス修繕等の事業を經營、一九三〇年同事業を株式會社に改め、長男清氏は社長、氏自身は會計、次男榮氏は監査役となり、家族全員が經營に努力して今日の發展を致してゐる。

山本昌作

現住所　ホノルル市南ベレタニア街二二〇五
出　生　明治十四年十一月一日、廣島市下柳町二十五番地
渡　布　大正三年十一月三十日、ホノルル
職　業　商業

鄉里にて請負業等に從事、來布後現在の地に弟平田定省氏と共に平田商店を經營、大正八年獨立してヌアヌ街にヤマ商店を開業して同十四年迄經營、同年二月平田商島の全權を引受けて今日に至る。

山田政雄

現住所　布哇島コナ、ケアラケクア
出　生　一九〇七年カウアイ島マカヴエリ
修　學　カフマヌ・スクール、マツキンレー・ハイスクールを經、一九二九年布哇大學卒業バチエラー・オヴ・アーツの學位を得。其後大陸に遊學し神學士の稱號を得て歸布
職　業　牧師

最初布哇島ホノム基督教會曾我部牧師を補け後コナ、ユニオン教會日本人部牧師となり今日に至る。

芳野直信

現住所　ホノルル市キング街
出　生　明治二十三年九月六日、福岡縣朝倉郡安川村楠原

渡　布　明治四十年十二月二十二日、ホノルル
修　學　一九二六年二月布哇縣衛生局より藥劑師の免許を受く
職　業　藥劑師、商店主

來布後ホノルル精々堂藥店、布哇藥品商會、更にホノルル第一の藥店ベンソン・スミス商會に勤め、一九二七年藥店並に日用品一切の商店を開業、發展して今日に至る。

餘　業　マキキ日本語學校理事兼書記、マキキ地方人會々計、朝倉郡人會々長、昭和會理事布哇眞宗教會理事、ワシントン公立學校父兄教師會副會長等、社會公共事業に多大の盡力をしてゐる。

屋舗喜三郎

現住所　ホノルル市北スクール街三〇一
出　生　明治十九年十月二十日、山口縣熊毛郡田布施町
渡　布　明治三十八年、ホノルル
職　業　商業

ホノルル滯在一ケ月後渡米して葛栽培、寫眞業等に從事し一九一三年歸布。其後太平洋ソーダ水會社の創立、サルーンの經營、タイヤ修繕業等に從ふ。一九二七年モダン・ベーカリー會社副支配人となり、其後同會社の權利は氏の手に歸し、現在其社長兼支配人として盛大に營業して居る。

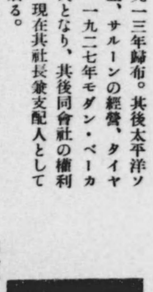
坂田吉蔵

明治十九年十二月二十七日、廣島縣神石郡小

業等に從事し一九一三年歸布。其後太平洋ソーダ水會社の創立、サルーンの經營、タイヤ修繕業等に從ふ。一九二七年モダン・ベーカリー會社副支配人となり、其後同會社の權利は氏の手に歸し、現在其社長兼支配人として盛大に營業して居る。

依田吉甫

現住所　加哇マカウエイ二番
出　生　明治二十四年二月二日、山梨縣東山梨郡日下部町



渡　布　明治四十二年十二月二十日、布哇島ヒイレア日本語學校
職　業　學校長

布哇島ヒイレア日本語學校長、オアフ島アイエア本願寺學園教師、ワヒワア日本語學校長ワイパフ學園教師、ホノルル・カハラ日本語學校長を歷任、現在カウアイ島マカヴイリ二番日本語學校長である。

安達正倖

現住所　ホノルル市橫濱正金銀行支店內

明治三十四年六月二十四日熊本縣上益城郡白糸村字白藤に生る。熊本農學校卒業後來布、太平洋學院から布哇大學に入り之を卒業、一九二七年布哇學生日本見學團を率ゐて歸朝、一九三七年初夏、堤千實さんと結婚す。

赤澤二一

現住所　加哇島マカウエリ同耕地の勞働者監督をしつゝ商店を經營して評判よし。

明治十九年十二月二十七日、廣島縣神石郡小畠村に生れ、同三十九年十二月二十七日のサイベリヤ丸で來布、加哇に渡りてマカウエリ耕地に就働今日に及ぶ。

有光正孝

現住所　ホノルル市カイムキ十番街七五

明治二十一年九月十五日高知縣安藝郡赤野村に生れ、同四十年一月渡航、英語勉强數年の後大正五年紙類文房具卸商パテン商會に入り、日本人部主任として今日に至る。數個の地方團體の幹部として貢獻多し。

秋山政一

現住所　ホノルル市カイムキ十七番街

明治三十三年十二月十五日山口縣玖珂郡秋中村に生れ、山口縣立農業學校獸醫科を卒業し、大正八年二月サイベリヤ丸で來布、一九二三年大正印刷株式會社に入り今日に及ぶ。

荒田品藏

現住所　ホノルル市北キング街四六三、時計商

明治二十三年八月二十一日生、原籍山口縣玖珂郡柳井町字古開作、明治四十年一月十五日來布、加哇島リフエに二ケ年就働後ホノルルに出で、後年時計修繕技術を習得し、一九二〇年開業、數種の地方人會の幹部である。

渡　布　明治三十八年、ホノルル
職　業　商業

ホノルル滯在一ケ月後渡米して苺栽培、寫眞

朝倉岩吉

現住所　オアフ島アイエア、機關士

明治十三年十二月二十五日千葉縣夷隅郡布施村下布施字大寺に生れ、同四十年四月八日來布、幾多の團體の會長及幹部で、公共事業に盡瘁して人望あり。

別井竹次

現住所　加哇ハナベベ、齒科醫

一九〇三年八月十四月加哇コロアに生れ、エレエレ公立學校、太平洋學院、布哇大學を卒業更にワシントン大學齒科を卒業して歸りて開業す。青年のリーダーとして活躍す。

伴敬三

現住所　マウイ島キヘイ、耕地商會支配人

明治九年二月八日山口縣玖珂郡鳴門村遠崎に生れ、同二十六年渡米苦學し、一旦歸朝從軍して軍曹となる。同三十九年五月來布、ホノルルから馬哇に渡り後キヘイ・ストアに入り、同店支配人となつて今日に至る。同地方の有力家で社會公共にも盡力す。

大師徳三

現住所　布哇島ホノカア、銀行員

明治二十七年十二月二十三日布哇島パパロアに生れ、公立學校卒業後ホノルル商會、ヒロ第一銀行に勤め、ホノカア支店に招かれて日本人部主任となる。內外人の信用厚し。

藤川春喜

現住所　ホノルル市南キング街二六三一、大學藥局主

明治三十四年十二月二十八日熊本縣菊地郡護川村大字杉水に生れ、大正九年一月來布、ハワイアン・ミシン・ハイスクール、布哇中學を卒業、インデアイ州パルパライソ大學藥學科及オハイオ州シンシナツ藥科大學を卒業、歸布後ホノルル藥局に勤務、昭和十年獨立藥局を開く、性溫厚篤實なり。

藤岡文八

現住所　布哇島ヒロ市、齒科醫

兵庫縣津名郡廣石村に生れ、中學卒業後明治三十六年渡米、オハイオ齒科大學を卒業して一九一六年來布、現在の個所に開業す。責性溫厚にして人望あり。

藤田卯一

現住所　加哇島リフエ、加哇新報主幹

廣島縣出身、同氏は溫厚謹直の人で、週刊加哇新報の社主兼主幹となるまでには刻苦勉勵、奮鬪の歷史がある。今や內外の信用を集めて抜く可からざる基礎を作り、將來の飛躍に備へてをる。

藤田定一

現住所　ホノルル市マラナイ・プレース一四八〇

明治二十二年七月十日山口縣大島郡小松町に生れ、同三十九年九月來布す、ワイマル鳳梨會社に入り、後一九一七年山本金物店に入り支配人として今日に至る。數個の地方團體の幹部として公共の爲めにも努力してゐる。

福本福一

現住所　大阪市北區堂島、大阪毎日新聞社外國通信部勤務

明治三十一年十一月二十三日山口縣大島郡小松町に生れ、同二十五年須親に伴はれて布哇に

ホノルル間定期自動車業を始め發展してゐる。

明治九年二月八日山口縣玖珂郡鳴門村遠崎に生れ、同二十六年渡米苦學し、一旦歸朝從軍して軍曹となる。同三十九年五月來布、ホノルルから馬哇に渡り後キヘイ・ストアに入り、同店支配人となつて今日に至る。同地方の有力家で社會公共にも盡力す。

大師德三

現住所　布哇島ホノカア、銀行員

人として今日に至る。數個の地方團體の幹部として公共の爲めにも努力してゐる。

福本福一

現住所　大阪市北區堂島、大阪毎日新聞社外國通信部勤務

明治三十一年十二月二十三日山口縣大島郡小松町に生れ、同二十五年頃親に伴はれて布哇に赴き、布哇中學校、マツキンレー・ハイスクール卒業後、一九一九年九月紐育に赴き、日本人會書記を六ケ年勤務、後に三菱銀行ニューヨーク支店に入り昭和三年退社、大阪毎日ニューヨーク支局に入り、一九二九年十一月に歸朝、爾來大阪本社に勤務し、今や副部長として編輯局內に重きを爲して居る。

福永是一

現住地　馬哇島ラハイナ

明治二十二年一月一日廣島縣雙三郡八次村に生れ、同四十年一月來布、大正九年日本人郵便事務の取扱ひを開始し、傍ら日布時事西馬哇支局主任を勤む、各種の團體の幹部にて公共事業に貢獻大である。

古川作太郎

現住所　馬哇島ワイルク、ワイカプ、商業

明治十四年一月十五日長野縣下伊那郡三穗村に生れ、明治三十二年四月渡米、桑港に於て苦學し、同四十二年三月來布す。ホノルルに一年滯在の後馬哇に渡り商店を開業して今日に至る地方の重鎭で公共事業に盡くしてゐる。

後藤吉吾

現住所　ホノルル市ヌアヌ街二四七、自動車業

明治二十二年二月二十八日福島縣伊達郡東湯ノ村に生れ、同三十九年五月來布、オアフ島エワ耕地、馬哇スペクルスビルに働いて後出府し商店を開業したが是を他人に讓りワイアルア、ホノルル間定期自動車業を始め發展してゐる。

橋本敬三

現住所　ホノルル市ホノルル街三二四四、商會員

明治二十八年九月二十一日布哇コハラに生れ小學校卒業後商會に勤め大正七年ホ府のルアスクツク商會に入り信用されて今日に至る。日系市民のリーダーの一人である。

橋本伊三吉

現住所　布哇島カウ・パハラ、商業

明治三十一年一月十二日ホノムに生れ、日英兩語小學校卒、後鄉里大島郡を訪ひて再び歸布パラニ商店開業發展、育英事業にも熱心である

林千里

現住所　布島哇コナ、ホルアロア、醫師

林三郎氏の息で、一九〇二年二月七日同地に生れ、ホ府のマツキンレー・ハイスクール及布哇大學卒業、三年後渡米し市俄古大學ラシュ醫科を卒業して一九三四年歸布、縣開業醫試驗に合格してコナに歸り父君と共に營業してゐる。

林利吉

現住所　オアフ島アイエア、農業

明治十二年十一月三十日山口縣都濃郡富田町に生れ、同三十二年十一月來布、直ちにアイエア耕地に就働今日に至る。着實勤勉、各方面の世話役として信用あり。

半澤徹治

現住所　馬哇島ハイクー、カウパカルア、商業

明治二十六年十一月七日福島縣信夫郡島川村に生れ、大正二年九月來布、苦難體驗後現住地に歸り令兄と共同で半澤商店を開始、兄のパイア日本人會入店後自ら引受けて繁昌してゐる。

半澤太郎一

現住所　馬哇島パイア、商業

明治二十年十月十七日福島縣信夫郡島川村に生れ、同三十九年十一月に來布、幾多刻苦奮勵を重ねて後パイア商會に支配人として招聘され今日の繁榮をもたらした。氏は實權を後進に讓り目下監督の任に在り、陰德の人である。

八景留八

現住地　オアフ島カネオヘ、商業

明治二十四年十二月十日福島縣双葉郡幾代橋村に生れ、同四十年八月來布、布哇島及馬哇島の耕地に就働後ホノルルに出で、後カネオヘに至り間もなく本田商店（氏の舊姓本田）を起し日米雜貨を販賣する一方、カネオヘ漁業地の漁獲運搬を引受け發展してゐる。地方の有力家である。

濱岡初枝

現住所　加哇島ワイメア、裁縫學校長

明治三十三年三月十八日廣島市仁保町に生れ小倉市勝山高女卒業後來布、ホ府マカレー日語カリヒ日語の教師を勤めたが、後濱岡教一氏と結婚し加哇ワイメアに至り、濱岡和洋裁縫學館を設立し自ら好評を得てゐる。

原田義海

現住所　福岡縣糸島郡怡土村井原、五十二歳

福岡縣立中學修獻館を卒業後、小倉市外北方工兵隊に入營し陸軍工兵少尉に任官す。除隊後鄕里で小學校代用教師を三、四ケ年勤め、更に京都佛教大學に入り之れを卒業、大正七年九月開教使として渡布し布哇中、女學校及寄宿舍に二ク年勤續、ワイパフ本願寺並同附屬學園をあづかる事十六ケ年、教學事業發展の爲め工事約三萬弗を完了す。一九三六年二月には馬哇島ワイルク本願寺に轉任し、同年八月歸朝したが、此間氏は布哇教育會の幹部として永年努力し、

本派本願寺教團の爲めにも畫策に參與して活動した。此の功に依り本山より親授二等及第二種三等二級の表彰にあづかつた。歸朝後は前記鄕里に在りて自坊の整理と教化に努力して居る。

原田信太郎

現住所　オアフ島ヘイア、商業

兼貸家業

本派本願寺教團の爲めにも盡策に參與して活動した。此の功に依り本山より親授二等及第二種三等二級の表彰にあづかつた。歸朝後は前記鄕里に在りて自坊の整理と教化に努力して居る。

原田信太郎

現住所　オアフ島ヘイア、商業

明治三十二年三月八日廣島縣安佐郡龜山村に生れ、大正六年一月來布、成功して一九二五年歸朝したが再渡來し、ヘイアの飯島商店を買收して原田商店と改名經營發展す。各種團體の役員で敎會的貢獻も多い。

原田清

現住所　ホノルル市北クク牛街一八二、食料品卸商

明治二十三年九月二日福岡縣朝倉郡福村に生れ、同三十九年八月來布、數種の事業に携はり相當の成績を擧げたが、昭和二年六月に現在の共同物産商會を創立して成功す。

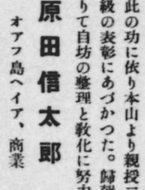
蛭谷孫太郎

現住所　ホノルル市ワイオラ街二二〇一、縣出身

ミルス・ハイスクールに學び、後、日布時事編輯局に入る船舶記者として新味を出してゐたが、數年前警察衛生方面に廻り、且つ電報翻譯を援けて實直に勤務中。

弘津益次郎

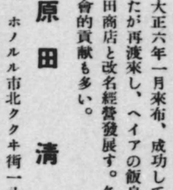
現住所　馬哇島ワイルク、マーケット街、商業貸貨家業



明治六年八月十八日山口縣都濃郡富田町に出生、同二十九年五月來布、各地で奮闘、同三十四年現地に洋服店を開業、時計貴金屬店も兼ねて繁昌してゐる。各種地方人會の幹部を勤め社會の爲めに盡力す。

星野利吉

現住所　オアフ島アイエア、農業



明治十九年十月十九日廣島縣佐伯郡玖波町に生れ、同四十一年一月來布、直ちにアイエアに赴き今日に至る。勤勉にして信用あり。

堀田善藏

現住所　加哇島コロア、ラワイ、耕地勞働者監督

明治四年十二月二十一日廣島縣甲奴郡田總村に生れ、同三十二年十月來布、加哇に渡り二ケ所で勞働後ラワイに來て今日に至る。耕主始め內外人の信用厚し。

本田政亥

現住所　ホノルル市セレノ街一八二六、新聞記者

明治二十八年十二月七日熊本縣上益城郡龍野村に生れ、同四十三年五月來布、布中卒業後布

八景留八

現住地　オアフ島カネオへ、商業

明治二十四年十二月十日福島縣双葉郡幾代橋村に生れ、同四十年八月來布、布哇島及馬哇島の耕地に就働後ホノルルに出で、後カネオへに開敎使として渡布し布哇中、女學校及寄宿舍に二ケ年勤續、ワイパフ本願寺並同附屬學園をあづかる事十六ケ年、敎學事業發展の爲め工事約三萬弗を完了す。一九三六年二月には馬哇島ワイルク本願寺に轉任し、同年八月歸朝したが、此間氏は布哇敎育會の幹部として永年努力し、

哇新報記者となり、大正九年布哇報知社に入り編輯局内に重きを爲す。

市川潔

現住所　ヒロ市ハライ街、商會員

明治二十二年四月三日千葉縣市原郡八幡町に生れ、立大商科三年の時一年志願兵となる。大正二年四月來布しヒロで就働しつゝ勉學、一九一五年アメリカン・フアクターズ商會に入り今日に及ぶ。商界や一般公共の爲めにも盡力す。

池上吉太郎

現住所　ホノルル市第九番街六〇四

明治三十年八月二十八日岡山縣吉備郡總社町に生れ、同四十一年一月渡米シアトルに上陸す勉學後商店を經營して居たが、一九二七年ステート建築貸付會社に入り同二九年同社布哇支店に出張、以後米布間を往復してゐたが、一九二二年十二月布哇支店日本人部支配人として來布翌年ユタ州から家族を布哇に呼寄せた。

今井友三

現住所　ホノルル市ホツフテイリング街一七一七

明治二十三年六月二十日廣島縣賀茂郡下野村に生れ、同三十五年六月渡航、一九一五年には布哇大學を卒業し此の方面に於ても先驅である多年カリヒのリビー・マクニール鳳梨株式會社に勤務して重きを爲してゐたが、一九三三年本平洋醸造株式會社を起し、自ら社長兼支配人として活動發展中、氏は又佛青、運動關係にも貢獻大なり。

井芹虎雄

現住所　加哇島リフエ、日布時事加哇支局長

君は熊本名家出身の熱誠率直の好漢、社務に忠實なるは云ふ迄もなく、克く社會公共の事業に盡くし又他の世話を厭はぬので大に衆望を集めてゐる。將來益々伸びる大度量の人である。

井上協平

現住所　ホノルル市オスチン・レーン一一四六

明治六年六月五日山口縣大島郡久賀町に生れ同四十一年十一月來布、教育家だつた人は大正五年紐育生命保險會社代理人となり、類苦勉勵して一大成功を納め幾多輩く成績を殘す、毎年勸誘數十萬弗に達してゐる。

石郷猪之吉

現住所　布哇ホノム、ベクリー業

明治二十一年一月二十日福岡縣糸島郡可也村に生れ、同四十年三月來布、ホノムに轉住してから菓子製造販賣業を始めて大發展し多くの貸家も持つて居る。氏は育英事業にも熱心に盡力中。

板倉健一

現住所　加哇島ワイメア、銀行員

明治二十八年加哇島パカラに生れ、渡米勉學して歸布し、一九二一年にはビショップ銀行ワイメア支店に入り、爾來精勤今日に至る。第二世の先驅で實業界に活躍、公共事業にも盡瘁す

岩井一雄

現住所　ホノルル市カハロア・ドライヴ二九四

ワクフイールド・ヒロ支店に入社、出府後ワイハウス商會に入り十數年精勤、目下北キング街二四三に商業器具販賣店を經營してゐる。趣味として短歌を試み綺書を愛す。昭和十二年夏母學覲祭。

鹿毛一男

現住所　馬哇島キヘイ、公立學校教師

明治二十八年加哇島バラに生れ、渡米勉學して歸布し、一九二一年にはビショップ銀行ワイメア支店に入り、爾來精勤今日に至る。第二世の先驅で實業界に活躍、公共事業にも盡瘁す

岩井一雄

現住所　ホノルル市カハロア・ドライヴ二九四

明治三十六年五月二十日廣島縣に生れ、幼時父母に伴はれて來布、一家を養ひつゝ苦學して布哇大學を卒業した力行家で、各種の事業に關係し、目下ベレタニア街でギヤスリン・ステーションと鳳梨汁小賣店を經營して繁榮してをる一九三三年にはマスター・オヴ・アーツの學位を得た。

和泉和一郎

現住所　ホノルル市デュバル街三三四

明治二十一年七月二十日廣島縣比婆郡庄原町に生れ、同四十一年四月來布、各種の事業に携はり、オアフ製氷會社には二十年近く精勤、今日では生魚商を營み一般に好評を博してゐる。

泉貞生

現住所　ホノルル市ワイアウ・プレース一一二九、山口縣出身

明治四十五年渡布、太平洋學院で苦學の後ハワイ大學卒業後渡米して銀行員養成所に學ぶ、歸布後リバティ銀行に入り、一九三四年八月太平洋銀行に轉じ今日に及ぶ。

ツクフイールド・ヒロ支店に入社、出府後ワイハウス商會に入り十數年精勤、目下北キング街二四三に商業器具販賣店を經營してゐる。趣味として短歌を試み繪書を愛す。昭和十二年夏母學視察。

鹿毛一男

現住所　馬哇島キヘイ、公立學校教師

一九〇九年十月二十八日マウイ島に生れ、縣立師範學校卒業後一九三一年九月よりクラ公立學校教師に就任して今日に至る。磊落な性質にて人氣あり、社會的にも大いに活動して居る。

神岡松太郎

現住所　ホノルル市南キング街一三八一

一八九八年三月二十八日ハワイ島ワイアケアに生れ、アメリカン・フアクタースに精勤十五年の後獨立してスタンダード・ツレーデング商會を起し發展す。公共事業にも盡力してをる。

加里本桂想

現住所　ホノルル市ワイアラエ街三七四三

一九〇一年十一月三日布哇島コハラに生れ、布哇大學卒業後渡米して銀行員養成所に學ぶ、歸布後リバティ銀行に入り、一九三四年八月太平洋銀行に轉じ今日に及ぶ。

二年十二月布哇支店日本人部支配人として來布翌年ユタ州から家族を布哇に呼寄せた。

今井友三

現住所　ホノルル市ホツフテイリング街一七一七

明治二十三年六月二十日廣島縣賀茂郡下野村に生れ、同三十五年六月渡航、一九一五年には

松倉優一

現住所　加哇島ワイメア、銀行員

菅野鐵次

現住所 オアフ島プーロア、耕地監督

明治二十年三月二十一日福島縣安達郡小濱町に生れ、同四十年二月二十六日來布、アイエア、コナ、アイエアを經てプーロア甘蔗園牧種監督となり十年一日の如く精勤、耕主の信賴厚く、社會公共事業にも盡して居る。

河村重博

現住所 ホノルル市クアリア・ドライヴ 一六二三

布哇に生れ、鄕里山口縣に歸りて教育を受けて再び渡布、日布時事編輯局内では淺海編輯長に次ぐ古參、船舶係として活動中だが、寫眞技術に最も優れてゐる。

川崎寅雄

前、駐日滿洲國大使館參事官（初代駐任）

明治二十三年三月十二日岡山縣上道郡津田村に生れ、同四十年渡布、ミルス・ハイスクール卒業後一九一六年から一八年迄日本人基督教青年會の總主事を勤め、渡米して一九一九年卒業、チュセツツ州スプリングフキルド大學を一九二〇年から同三二年まで外務省囑託となり此間桑港總領事館に勤め、大正五年歸朝後は本省情報部に在つたが、一九三二年奉天總領事館勤務となり、後に滿洲國外交部宣化司長（初代）、國務院總務廳情報處長（初代）、駐日大使館參事官（初代）となつたが、一九三六年辭任す。氏は米國在勤中全米各地大學諸種主要團體の招聘に依り、日本文化並同情紹介講演に出講すること數百回を越え、國際聯盟派遣のリットン滿洲調査團の通譯の任に當つた。滿洲國から勳三位景雲章に叙勳されて居る。

川添善市

現住所 ホノルル市フォート街一九四三

布哇島に生れ、幼時歸朝して勉學後再び渡布速記術を修業して一九二七年日布時事編輯局に入り、對世間的にも如才なく努めて居る。

城戸千代一

現住所 ホノルル市マゼラン街二二七

明治二十九年一月十三日ヒロ市に生れ、マツキンレイ・ハイスクール及布哇中學に通學、ヒロ・ハイスクールを卒業、一九二二年出府しデイヴイス商會に勤務して後、ホノルル市郡政府に職を得、目下水道局に勤めてゐる。

兒玉令一

現住所 ホノルル市モアナルア

明治二十二年六月二十日廣島縣高田郡可愛村に生れ、同三十九年十一月渡航、多年モアナルアのデーモン邸に勤めたが、大正六年頃現地に日米雜貨食料品店を開業し、後自動車附屬品部も設けて繁榮今日に及ぶ。

今野一郎

原籍 宮城縣石卷市

現住所 オアフ島ワイパフ町

大正元年十一月來布して、二ケ年間オアフ島カフク本願寺學園に教鞭を執り、後三ケ年間商店員として働き、大正九年耕地勞働同盟會が組織されて增給要求運動が起るや其幹部に選ばれ聯盟の代表者として出府、勞働運動の結末まで二年間獻身的に盡力した。大正十二年七月布哇新報社に入り、後實業之布哇副主幹兼支配人に轉じ、同社を辭して後日布時事社に入り、ワイパフ支局長に據つて今日に至る。

久島泉

現住所 オアフ島ホノウリウリ、自動車業

白人靴店に入り、再び萬歳靴店に歸つて支配人たり。一九三二年ライオン靴店に入り後同社長兼支配人となる。着實溫厚の人。

松村友次

現住所 布哇島ヒロ市クアウ街、熊本縣出身

久島泉

現住所　オアフ島ホノウリウリ、自動車業

明治三十一年十二月二十一日オアフ島ワイマナロに生れ、布中卒業後渡米して自動車業を修業して歸布、一九二四年に現在の場所に自動車修繕及ギヤスリン販賣業を開始して發展、商業及公共事業に盡力してをる。

前原賢三

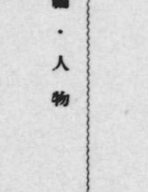
現住所　ヒロ市カメハメハ・アヴェニュー五八

寫眞館主、廣島縣出身、ヒロ市の古參株、その技術の鮮やかなると、其人の明朗懇切に依り人氣を集め繁榮して居る。

眞野重太郎

現住所　馬哇島ワイルク、商業兼貸家業

明治五年五月十五日香川縣綾歌郡坂出町に生れ、同三十二年來布、プウネネに就働後ワイカブで事業に携はり、昭和二年現在の地に轉じて食糧雜貨店を經營する傍ら貸家業をも營んで居る。社會的にも活躍し重鎭の一人である。



松田了

現住所　ホノルル市北キング街二一九、靴店主

明治三十三年三月六日山口縣熊毛郡大野村に生れ、大正四年十二月二十二日來布、勉學の後白人靴店に入り、再び鳶歳靴店に歸つて支配人たり。一九三二年ライオン靴店に入り後同社長兼支配人となる。着實溫厚の人。

松村友次

現住所　布哇島ヒロ市ククアウ街、熊本縣出身

ヒロ肥料會社長にて同市屈指の成功者であり重鎭である。實業界に活躍の傍ら一般公共社會事業にも熱心に援助を與へ人望頗る厚いものがある。昭和十二年母國へ療養を兼ね數月歸朝す

光森政登

現住所　ホノルル市カイムキ、パクキ街三四六七

明治二十三年二月二十一日廣島縣甲奴郡領家村に生れ、同四十年三月十五日來布、加哇生活一年後、ホノルルにて鐵管業を起し今日に至つたが、外にもホノルル・プラミング會社、自動車關係業に携はり發展しつゝある。

光安清次郎

現住所　オアフ島エワ・ビーチ

明治十九年五月十日福岡縣粕屋郡志免村に生れ、同三十八年十一月來布、日英兩語を勉學し一九二一年現在の場所に大規模の事業を始め、石割場、木炭製造所、薪切出し場を經營し使用人五十餘名、益々大發展しつゝある。

宮本庄次郎

現住所　廣島市宇品町神田通十三丁目四七七

、明治二十五年九月十日廣島市仁保町瀬崎に生れ、同四十年十一月渡布す、ヒロ及ホノルルにて苦學數年英語を修め、結婚後本重商店に入り七年勤續後、獨立して吳服雜貨商を開始發展したが、昭和十年三月子供の教育上歸朝、現場所に於て輸出貿易に携はり繁昌して居る。

宮本友幸

現住所　馬哇島プウネネ、齒科醫

一九〇二年五月二十四日プウネネに生る、シンシナツ大學齒科卒業、現在の地に開業した。社會的にも大いに盡力してゐる。

宮里武太

現住所　ホノルル市カメハメハ街二一三九

明治二十二年十一月二十九日沖繩縣中頭郡美田村に生る、同四十年七月來布、加哇で働いて後出府、保險業に入り經驗を積んで後、一九三〇年に現在のクラウン生命保險會社に入り活動し信仰心に富む。

宮崎實吉

現住所　布哇島パウイロ

明治十一年二月一日熊本縣上益城郡大島村に生る、同三十二年九月來布、パウイロに赴き商業修業の後商店を開始、着實勉強して信用を博し、地方の重鎭として公共に盡して居る。

水田謹一

現住所　ホノルル市北ベニヤード街二三六

明治十八年三月一日廣島縣廣品郡栗生村に生れ、同三十七年三月渡航、初め校長兼教師の外數種の職業に携はりて奮闘、大正七年には自動車業に轉じ、貸家業を兼ねて成功す、幾多の團體の幹部として多年社會公共の爲めに盡して居る。

守川政雄

現住所　オアフ島ホノウリウリ

一九〇五年オアフ島エワに生れ、日英兩語の勉學後スタンダード石油會社ホノウリウリ支店に入社して精勤今日に至つてゐるが、內外人より信用されて居る。

森田由一

現住所　布哇島ホノカア、旅館業

明治三十五年六月二十六日熊本縣八代郡吉野村に生れ、大正十四年二月二十九日來布、ヒロ・ハイスクール卒業、父の經營する旅館ホノカア・クラブを繼ぎ發展しつゝあり、內外人の信用が厚い。

村上實

現住所　ヒロ市キラウエア・アヴェニュー、山口縣出身

日布時事ヒロ支局長たり、其人怜悧潑溂、社務と併せて市の事にも終始奔走能く他の信頼を博

明治十年山口縣萩市に生れ、同三十五年渡航中學卒業後東京にて寫眞術を學んで居たので、ホノルル及ヒロに寫眞館を開設して繁榮し、後イーストマン寫眞會社に招聘せられ紐育州チエスター市の本社に至り、亞いで東京支店詰となつて活動す、大正十二年の大震災後退社し、福岡市の現場所に「福岡カメラ」を開店して寫眞

ア・クラブを繼ぎ發展しつゝあり、內外人の信用が厚い。

村上實

現住所　ヒロ市キラウエア・アヴエニユー、山口縣出身

日布時事ヒロ支局長たり、其人怜悧潑溂、社務と併せて市の事にも斡旋奔走能く他の信頼を博してゐる、又俳句に巧に、同好相結びて俳團を作り、毎月巡番に各自の宅に句會を開きて胸中の錦繡を吐き、酒杯を傾くることゝしてゐる。

村田勝平

現住所　オアフ島ホノウリウリ

明治二十五年十一月十五日靜岡縣小笠郡河城村に生れ、同四十一年一月來布、各地で奮鬪後一九一五年ホノウリウリに商店を開業、六年後現在の場所に店舗新築、數年前株式會社に改組しホノウリウリ商會と改名、自ら社長兼支配人となる。ホノルル市ベレタニア街にも商店を設け靜岡產の茶を賣つて繁昌中。

永井秀男

現住所　ハワイ島ホノカア

明治三十年十一月二十一日廣島市西片田町に生れ、大正元年十月來布、パパロア耕地就働後現地に移り、昭和四年轉業してハマクア洗濯染物所を開始して繁昌す。地方團體數個の幹部として活躍す。

永見俊一

現住所　福岡市片土居町電車通り

明治十年山口縣萩市に生れ、同三十五年渡航中學卒業後東京にて寫眞術を學んで居たので、ホノルル及ヒロに寫眞館を開設して繁榮し、後イーストマン寫眞會社に招聘せられ紐育州チエスター市の本社に至り、亞いで東京支店詰となつて活動す、大正十二年の大震災後退社し、福岡市の現場所に「福岡カメラ」を開店して寫眞機械及材料の販賣に從事し發展しつゝあり、氏は趣味として俳句をたしなむ風流人である。

長澤周吉

現住所　オアフ島ワイパフ耕地

福島縣出身、ワイパフ日本語學校教師として、多數の生徒から慕はれ、父兄から尊敬されてゐる良教師である。

中原峯藏

現住所　布哇島パアウイロ

明治十三年四月二十六日山口縣大島郡家室西方村に生れ、同二十九年十二月來布、ハカラウ耕地に就働後同三十九年現住所に移り、商店を開いて切瑳琢磨し遂に布哇島有數の成功者となる。宗教、教育事業にも盡瘁して貢献多大である。

中原信之丞

現住所　ハワイ島コナ・ホナウナウ

明治九年四月四日山口縣大島郡東平郡村に生れ、同三十五年十一月渡航、パパイコウ砂糖耕地に二十ケ年就働、此間砂糖關係事業、信用組合、夜學校開設等大いに活動し、後出府六ケ年

働いたが、目下現住所に餘生を送る。幾多の公共事業に盡瘁し各種表彰狀は十數通に上つて居る。

中丸要

現住所　布哇島北コナ・ホルアロア、歯科醫

一九〇五年二月四日コナ・ホルアロアに生る太平洋醫院卒業後渡米し南加大學歯科を卒業して歸布、成績優等にて全米名譽學生賞の會員に擧げられた、現地に開業し重きを爲してゐる。

中村亀輔

現住所　ホノルル市パシフイツク、ハイト二〇二〇、山口縣萩市出身

日布時事編輯局日本電通部主任として既に十八年間精勤す、溫厚の人士にてゴルフを好くし既に十回近く布哇日本人の覇權を握つた。

中野政一

現住所　マウイ島ワイルク、マーケツト街

明治十五年八月一日廣島市仁保町に生れ、同三十六年十二月來布、ホノルルで奮闘後マウイに渡り玉突場、自動車業、食堂を開業して發展してゐる。教育事業にも多年努力して功あり。

中野房次郎

現住所　ホノルル市クキレイ・レーン二五五五

福岡縣出身、建築請負業界のリーダーの一人である。永年日本人建築業組合の幹部として盛衰す、公共育英事業にも熱心である。

中尾茂造

現住所　加哇島ハナペペ、請負業

明治十二年廣島縣雙三郡川地村に生れ、同三十九年十一月來布、各島に於て水道工事に活躍大正三年加哇ワヒアワに於て耕地支配人に信用され、耕地關係の仕事を請負つてゐる。ハナペペの實業界にも活躍し、公共事業にも盡くしてゐる。

小田顯三

現住所　ホノルル市ブルレ街二〇一

明治二十二年十二月十九日廣島縣山縣郡王生町に出生、同四十年十一月來布、勉學後ホノルル停車場前に食堂を開業して成功し一旦歸朝、再渡米後は食堂を經營する傍ら現在の場所に大規模の養鷄業を始めて成功す。

緒方熊市

現住所　ホノルル市南キング街一四八六

明治二十七年ハワイ島フムウラに生れ、四才にして父母に伴はれて歸朝、勉學後熊本縣下小

學校に數年を執つたが、後商會に勤めて自動車に關する智識を得、現在の場所に自動車修繕、附屬品、ギヤスリンの販賣を開始し、盛んに營業中である。

緒方元藤

現住所　ホノルル市ベレタニア街二五八

十年結婚し市民權を失つたが、後回復す。昭和十年ホナウナウ郵便局長に任命さる、女子4且倶樂部、ホーム・メーキング倶樂部の外宗教々育團體の幹部として社會的にも貢獻して居る。

岡田勝

現住所　ホノルル市北キング街七一一

學校に教鞭を執つたが、後商會に勤めて自動車に關する智識を得、現在の場所に自動車修繕、附屬品、ギヤスリンの販賣を開始し、盛んに營業中である。

緒方元藤

現住所　ホノルル市ベレタニア街二五八

一九〇二年四月二十四日オアフ島ワイルアに生れ、耕地就働後出府して四、五の商會に勤め數年前沖石勇氏と共同にてアロハ・セールス商會を開設經營中、幾多の團體の幹部として公共の爲めに盡力して居る。

及川德司

現住所　布哇島コナ・ホナウナウ

明治十四年四月一日宮城縣登米郡錦織村に出生、同三十三年一月渡布、耕地就働後雜貨店、酒店、珈琲製造所等に勤め、大正十年キヤプテン・クツク珈琲會社支店支配人となり、昭和七年之を讓受けて個人經營とし爾後繁榮の道を辿つてをる。地方團體數種の幹部たり、公共事業に盡力中。

及川カツヨ

布哇島ホナウナウ郵便局長

明治三十六年十二月九日ハワイに生れ、大正十年結婚し市民權を失つたが、後回復す。昭和十年ホナウナウ郵便局長に任命さる、女子4日

岡田勝

現住所　ホノルル市北キング街七一一

明治三十五年一月二十二日熊本縣下益城郡豐野村に生れ、大正四年三月來布、英語學校終了後渡米し各地で活躍、紐育の齒科技工學校にも通學、歸布後一九三〇年に現在の地に藥店を開き、公共事業にも努力中。

岡田春人

現住所　布哇島ホノカア、一九〇四年ホノカア

に生れ、渡米してハイスクール及イリノーイ醫科大學を卒業、歸布後生地に開業。氏は各種クラブの會長にて第二世の指導者であり、一般から尊敬を受く、昭和十二年壯麗の醫院新築す。

小野藤三郎

現住所　ホノルル市北キング街二〇二九

明治十七年六月十日福島縣伊達郡伏里村に生れ、同四十年四月來布、一九一九年商店を開業

明治十五年八月一日廣島市仁保町に生れ、同三十六年十二月來布、ホノルルで畜產後マウイに渡り玉突場、自動車業、食堂を開業して發展し

再渡米後は食堂を經營する傍ら現在の場所に大規模の養鷄業を始めて成功す。

緒方熊市

現住所　ホノルル市南キング街一四八六

明治二十七年ハワイ島フムウラに生れ、四才にして父母に伴はれて歸朝、勉學後熊本縣下小

して發展し、後現在の場所にコンクリート造り小野ビルデイングを建築して繁昌し、同業者間に重きを爲してゐる。

尾上久二

現住所　ホノルル市ミロ・レーン一一六

明治二十六年九月十五日香川縣小豆郡西村に生れ、大正五年三月小豆島丸島醬油會社員として來布。大正六年七月再び來りてリヴア街に日米食料雜貨店島屋商店を開業して今日に至る。堅實にして一般の信用厚し。

大久保源一

現住所　布哇島ヒロ市布哇商業社長兼主筆、山口縣出身

日布時事記者だつたが、大正九年布哇毎日の主筆に招聘され、爾來十數年精勤し、ヒロ地方の言論界に重きを爲して居た。昭和十一年同社を辭し、獨立して布哇商業社を起し、翌十二年初頭雜誌型の布哇商業時報を二回發行、亟いで新聞四つ折型隔週發行に改む、印刷業も併せ行つて今日に及ぶ。清廉篤實にして人望厚し。

大久保長吉

現住所　ホノル市マノア谷七九一

明治二十三年十月三日新潟縣北蒲原郡加治村に生れ、同三十九年五月來布、各種の事業に携はつて奮闘し、昭和の初め現在の地に花作業を始めて今日に至る。

大角實吉

現住所　ホノルル市ホテル街リバー街角

明治八年二月二日廣島縣豊田郡須波村に生れ、明治十七年十二月六日廣島市觀音町に生れ、同三十三年七月來布、各地で活躍後歸朝して再び渡來、現在の場所に商店を開き、アイランド・マーケットの外ギヤソリンを販賣し、ホームステツドを經營盛大に營業中、育英方面にも力をいたして居る。

廣島市出身、多年福壽食堂を經營し調味上手と敏速に依り人氣を集めて大繁昌、氏は氣前好く且つ研究心に富み、毎年のやうに故國を訪問して新しい料理法を研究して來る。信仰にも厚く出雲大社教の幹部として盡力す。

奥村實次

現住所　マウイ島ワイルク

明治二十四年十二月二十日熊本縣上益城郡瀧尾村に生る、同四十年七月來布、外人經營の寫眞館に勤め、大正六年ワイルクに移り奥村寫眞館を起して今日に至る。

大岡寛

現住所　マウイ島カフルイ

明治十六年七月九日山口縣玖珂郡麻里府村に生れ、同三十二年一月來布、各地で奮闘後カフルイ商會に入り二十年勤續、百數十名の店員中首位を占めたが、後に獨力數百弗を投じて市場を開設し日增しに繁榮しつゝあり。此外幾多の生産業に關係し、一方公共事業にも貢獻して居る。

大塚末吉

現住所　加哇島カパア

に生れ、同三十九年五月來布、各種の事業に携はつて奮闘し、昭和の初め現在の地に花作業を始めて今日に至る。

大角寅吉

現住所　ホノルル市ホテル街リバー街角

明治十七年十二月六日廣島市觀音町に生れ、同三十三年七月來布、各地で活躍後歸朝して再び渡來、現在の場所に商店を開き、アイランド・マーケットの外ギヤソリンを販賣し、ホームステツドを經營盛大に營業中、育英方面にも力をいたして居る。

太田達一

現住所　オアフ島ワイパフ

明治十三年一月十日廣島市仁保町に生れ、同三十四年十一月渡布、ワイパフに於て島本支店の簿記係をして居たが、同三十七年同店を讓受け太田商店と改稱、日米食料雜貨を扱つて成功す。幾多の公共團體幹部として奮瘁す。

大内民惠

明治十年福島縣伊達郡杉田村に生れ、師範學校卒業後シアトルに渡る、明治三十九年ホノルル本願寺小學校長として招かれて來布、約十年間勤續して歸朝す、其後福島縣勞城郡內鄕村所在の淺野炭礦會社に聘せられ、炭礦就役數千名の指導者となり尊敬されてゐる。內鄕村報なる機關紙を發行してゐるが、外に「教育制度改革論」の著書がある。

崎水流厚雄

現住所　ヒロ市カメハメハ・アヴエニユー

鹿兒島縣の出身、布哇絹子商會主であるが、ヒロ酒造株式會社の重役外二、三の事業に關係し、ヒロ實業界の大立物である。育英事業にも貢献し、一般の信望厚きものあり。

澤村作一

現住所　ホノルル市ユニヴアシチー通一〇八〇

明治十五年三月十八日廣島縣山縣郡大朝村に生れ、同三十九年三月ハワイに來る。初め商店を開いたが、同三十四、五年頃興行に轉じ、活動寫眞及各種の興行に及びステート劇場、ホノルル座を經營し大成功をしたが、數年前太平洋娯樂會社に參加し、其重役日本仕入部主任となつて日布間を往復して屋る。

阪井嘉作

現住所　オアフ島ハレイワ、商店主

明治八年二月二日廣島縣豊田郡須波村に生れ同二十九年來布、各地に就働後同四十年現在の地に日米雜貨食料店を開業して今日の大を爲す社會公共事業に貢献し、昭和五年には鄕里廣島縣知事より海外發展功勞者として表彰狀を受けた。

作本千里

現住所　ホノルル市北キング街二二九五

明治二十九年一月十日廣島市觀音町に生れ、明大政經科卒業後同大學商工科研究生として大正十一年四月來布、ヒロ市町田藥店に勤務後一九二七年出府、現在の場所に寫眞材料卸及賣藥業を創めて今日に至る。

佐山學順

現住所　東京市下谷區中根岸町八二

明治二二年十二月四日福島縣若松市に生れ、同四十五年宗教大學研究科を卒業し、同年四月渡布、開教使及校長としてホノルル、ヒロ、ラツパホエホエに駐在、大正十二年渡米、バサデナで教化事業に携はり、昭和二年渡英セリオーク大學に學ぶ、現在大正大學教授、淨土宗布教委員及宗教議員、特命布教師である。

仙田壽之吉

現住地　加哇島リフエ

明治二十二年二月十四日島根縣八束郡川津村に生れ、同三十九年十月ホノルルに來る。勉學し乍ら寫眞術を研究し大正二年七月一日カワイ島カパイヤに寫眞館を開業し、大正五年十一月

リフエに移る。營業繁榮、地方の有志として人望あり。

重國愛輔

現住所　オアフ島ヘイア

明治二十一年七月二十三日山口縣都濃郡太華村に生る。同三十九年八月來布、各地に於て多大の苦心奮闘後現在の地に來り、土木建築請負業を開始して事業順調、公共事業にも活躍中である。

柴山佳四郎

大阪市北區曾根崎上二ノ四、共同火災保險株式會社取締役

明治十七年岐阜縣不破郡に柴山得造氏の末弟として生れ、慶應義塾大學理財科を頗る優秀の成績で卒業、明治三十八年渡布、令兄の商店及布哇日日新聞英文記者として活躍、歸朝後共同火災に入り其手腕を認められて幾度か紐育に出張、今や同社の取締役として重きをなす。

下村米作

現住所　ハワイ島ホノカア

明治五年八月二十七日熊本縣飽託郡中緑村に生る。同二十八年三月來布、現地に至りて就働後。洋服店を始め現在の雜貨店に轉業、內外人から信用されて居り、地方公共の爲めにも活動す。

清水親碩

現住所　東京市世田谷區玉川奥澤三丁目九一六

明治九年八月五日東京市神田區松枝町に生れ同三十九年九月に渡航、開教師及校長として布哇島ヒロ外數ケ所に駐任、大正九年歸朝、樽太にも赴任し後に現在の大本山增上寺別院洋眞寺住職を拜命、同地の教化及公共事業に盡瘁して居る。

菅原常松

現住所　布哇島クカイアウ、請負業

明治十七年四月六日新潟縣北蒲原郡乙村に生れ、同四十二年來布、現耕地に至り十年一日の如く現業を勵む、育英事業にも盡力多し。

杉田定吉

現住所　ホノルル市カハイ街一六三六

明治二年一月五日山口縣防府町に生れ、同二十四年六月渡航、加哇島で十數年苦闘の後出府し、大正末棉花精製及打梱を始め、發展してカリヒの現地に布哇綿工場を設け、一方數ケ所に棉花栽培を行つてゐる。其後北キング街にホリー・ベーカリーを開設して非常なる發展を遂げて居る。

袖澗仙吉

現住所　マウイ島ワイルク

明治十八年一月七日廣島縣佐伯郡木野村に生れ、同四十年十一月來布、カフルイ鐵道會社に入つてから既に二十數年勤續し信任厚し、地方に於ける成功者の一人である。

田畑多郎

現住所　ホノルル市カイムキ十三番街一三四六

明治十二年一月五日山口縣都濃郡富田町に生

れ、同三一年十一月渡航、苦學數年後、デヴイス商會を振り出しに石井藥店、カフク耕地、尾崎商會等に勤めたが、一九二一年現在のダイヤモンド・ベカリー支配人となり、敏腕を揮つて發展に導く。氏はアメリカ布哇醬油會社々長兼會計であり、マキキ基督教會々計としても十數年間係はしてゐる。

中の人である。

高倉秀夫

現住所　マウイ島ワイルク

れ、同三一年十一月渡航、苦學數年後、デヴィス商會を振り出しに石井藥店、カフク耕地、尾崎商會等に勤めたが、一九二一年現在のダイヤモンド・ベカリー支配人となり、敏腕を揮つて發展に導く。氏はアメリカ布哇醬油會社々長兼會計であり、マキキ基督教會々計としても十數年間奉仕してゐる。

竹原貴之進

現住所　ホノルル市ルナリロ街アイ一四一六、

山口縣出身

日布時事社の會計部長として既に十數年精勤着實溫厚にして廉直又人情に厚く、同社の大世帶を好く納めて重きを爲す、內外の信望最も厚い。

高野市平

現住所　オアフ島ワヒアワ

明治十一年九月二十三日熊本縣下益城郡豐川村に出生、同三十四年十一月來布、加哇に就働後現住地に轉じて高野商店を開設、逐年業務發展、貸家業も營み成功し、社會的にも重きを爲す。

高西一平

現住所　加哇島クカハ

明治二十三年一月二十五日鹿島縣安佐郡川內村に生れ、同三十九年渡來、二三の商會に勤務後、一九一五年現地に高西商店を創立、一九三〇年には株式組織に改め自ら社長兼支配人となる。其他數種の事業に關係活躍中にて、立志傳中の人である。

高倉秀夫

現住所　マウイ島ワイルク

一九〇一年三月三十一日マウイ島パイアに生れ、渡米勉學して歸來後パイア耕地會社に入り水道技師から現金係兼副支配人となる。第二世の中堅人物である。

常光浩然

現住所　東京市中野區千光前町十、日米ホーム寮監

明治二十四年五月十二日廣島縣雙三郡古市町に生れ、廣島第四佛教中學から大正三年東京東洋大學を卒業、同十二年東洋大學講師となる。日本米布協會を起し其專務理事たる外同會經營の日米ホーム創設者にして且寮監として第二世學生の指導を爲す。昭和三年、同八年、同十年の三回渡布し各々數ヶ月間滯在。全日本佛教青年會聯盟を創立し、汎太平洋佛教青年大會の開催主唱者である。

豊平良金

現住所　ホノルル市ワイアラエ街シー二八四

沖繩縣出身

大正九年夏日布時事編輯局に入り、爾來十年一日の如く精勤、正純溫厚、商業宗教々育の多方面を受持ちて重きを爲す、新聞文章に於ても亦優れてゐる。

後。洋服店を始め現在の雜貨店に轉業、內外人から信用されて居り、地方公共の爲めにも活動す。

清水觀碩

現住所　東京市世田谷區玉川奧澤三丁目九一六

明治九年八月五日東京市神田區岩枝町に生れ、同四十年十一月來布、カフルイ鐵道會社に入つてから既に二十數年勤續し信任厚し、地方に於ける成功者の一人である。

田畑多郎

現住所　ホノルル市カイムキ十三番街一三四六

明治十二年一月五日山口縣都濃郡富田町に生

植田政市

現住所　ホノルル市カヘラレーン一五

明治二十年十月六日廣島縣世羅郡神田村に生れ、同三十九年十一月渡航、英語學修後商會員教員、佛青創立事業を勤め、後にホーム保險會社に入り今日に及ぶ。佛青關係の貢獻大である

浦田不二夫

現住所　ホノルル市クナウイ・レーン七二五

明治三十一年十月二十五日熊本縣玉名郡築山村に生れ、大正三年二月來布、勉學後布哇新報社編輯局に入り、一九二五年布哇報知社に轉じ運動及船舶を受持ちて活躍中。

若山喜代松

現住所　ホノルル市ワターハウス街二〇〇三

一九〇七年一月十五日ハワイ島コハラに生れ一九三一年布哇大學を卒業、日布時事社、國際信託保險部、自動車販賣人と轉じ、ナショナル・モゲーヂに入社した。資性朗らかで第二世のリーダーである。

渡邊九一

現住所　加哇、カラヘオ

明治三十七年十月五日廣島縣蘆品郡有磨村に生れ、同四十四年三月來布、永年大工を營して後カラヘオに移り共同で鳳梨事業に携はつたが後獨立して三十英町の土地に營業中。各種團體の幹部にて公共事業に寢す。

渡邊又市

現住所　ホノルル市南ベレタニア街七六四

明治二十年十月二日大阪市港區九條南通に生れ、同四十年四月來布、運輸業の後一九一六年タップ張替工場を創立し大いに繁榮し、一九三四年には中古自動車賣買業も創め此又發展、氏は此間二回歸朝してゐる。

山口七藏

現住所　ホノルル市南キング街二八

明治三年二月十七日福岡縣八女郡北川内村に生れ、同三十三年三月來布、間もなく松本菊太郎氏と土木建築請負業に從事して成功した人、現在も此方面に關與し、多くの貸家を持つてゐる。一般公共的にも貢獻大である。

山本尙美

現住所　ホノルル市フエーン街一七四六、廣島市小牛田の出身

パラマ日本語學校教頭を辭して一九二七年日布時事編輯局に入社し、日本語學校試驗問題當時活動した。

山下義之

現住所　ホノルル市北ベニヤード街四二三

吉村英二

明治二十五年七月一日熊本縣天草郡本渡町に生れ、同四十四年七月來布、布哇新報社に入り後に支配人となり、大正八年同社を辭して太平洋商會支配人として入り、好成績を擧げて今日に至る。

阪口利男

現住所　布哇島ヒロ市、布哇毎日編輯長

少年時代渡布、勉學後布哇朝報、布哇毎日、日布時事の各記者を勤務、後渡米して十餘年後再び歸布、週間サンデータイムスを發行してゐたが、一九三六年大久保源一氏の後任として現